

○廣島縣例 七年五月十五

安藝國廣島見町常吉伊藤  
藤定吉曰私儀長兄佐七他  
人ノ重座ニ同居シ燈油代ノ  
出錢ヲ佐七背セサルヨリ互  
ニ争論シ飲酒ノ上仲元常吉  
方ニ罷越其曲直ノ判裁ナリ  
ムニ同人少シモ不致致ニ  
感口レテ歸宅ス然ルニ其判  
断セサルヲ怨ミ仍ホ高欲シ  
常吉ヲ殺害セント出及鹿下  
ノ買取メ再々同人宅ニ行  
心ノ從ニ致シ兵レント高  
ニ罵レテ常吉裏コヨリ逃去  
レ故歸宅シ翌日ニ至リ一旦  
本心ニ歸ルト肩モ又々暴飲  
耐レ前同様殺害セント鹿下  
堅ク鎖セシニ付空ク立歸リ翌朝ニ及ヒ初テ本心ニ歸リ先  
非格借職業ニ取掛レテ仲元ノ出訴ニテ捕縛セラル云々同  
指今 人命律謀殺祖父母父母各例凡テ謀殺スルニ已ニ  
行フ者 絞 罪

○要義  
本条專屬ノ親或ハ卑幼ト稱  
スルハ各法ニ違ヒタルモノ  
ヲ云フ故ニ養子養父母母ト  
殺スル如キ未タ戸籍ナ同フ  
セザレハ養父母母ト稱セス  
人ヲ以テ論ス然レトモ親屬  
或ハ近隣ノモノモ養子ト背  
認ノ裁判官ニ於テモ其案ア  
リト認ムルニ於テハ各法ニ  
依ル

○福島裁判所例 十年五月  
十二日  
雇人家長ヲ謀殺スルニ已ニ  
行フ者及ヒ已ニ傷スル者等  
各其本律有之候及其家長執  
行フ者 絞 罪

○要義  
本条家長或ハ雇人ト稱スル  
ヲ得ルニ於テハ雇人至雇人  
相許得ル一月以上ノ期限

○須谷裁判所例 七年五月十七号  
指今 雇人ト同臥スルヲ見即時之ヲ及傷ス其妻等ヲ果  
スニ非トモモ已ニ其情ヲ語スルニ係レハ殺死若夫ノ  
餘ニ照レテ論セス  
○足柄裁判所例 七年第五百七号  
指今 我カ夫ト密通スルニ面會シ夫ニ親心ノ志ヲ絶  
シテナ脱論スレル因テ背セザルヨリ念怒ニ基ヘテ殺  
打レテ遺遺ニ死ニ致ス其情同前ノキヤナルヲ以テ謀殺  
殺ニ一等ヲ裁シ

○要義  
本条家長或ハ雇人ト稱スル  
ヲ得ルニ於テハ雇人至雇人  
相許得ル一月以上ノ期限

○私前裁判所例  
指今 某婦アリ其好敵年一日偶某夫ノ家ニ會シ双枕調戲  
將ニ行喜セントスルニ際ニ夫ニ違見嗚呼セラレ其婦  
倉皇脱身逃避ス夫大怒色面ニ立ルニ是時某婦ノ形狀ナ  
ク万テ渡有テ衝シ来リ其婦ニ酒ヲ進メ對敵飲杯ニ及シ  
テ始テ其毒ヲ語リ某夫ニ要スルニ謝罪狀ヲ以テス某夫  
敢テ其罪ヲ謝セズ却テ放言レテ曰ク吾カ此一頭頸汝カ  
持去ニ任スト其暴慢無狀ナルヲ夫義憤忍テ能ハスナ  
以テ某夫ヲ担倒センニ某夫来リテ以テ本婦ヲ擊刺ス其  
婦被刺ナ傷重ニ閉キ吃驚錯愕再ヒ其ノ傷ニ至ル頃刺ス  
シテ夫夫空傷ノ為ニ驚ル右ノ謀殺ノ情狀ナキ者ナルカ  
故ニ某夫ハ門殺殺ヲ以テ論シ其婦ハ止テ謀殺ノ科ノ可  
然哉  
指今十年九月十五日 同ノ趣某夫ハ罪人拒捕条ニ比依

○要義  
本条家長或ハ雇人ト稱スル  
ヲ得ルニ於テハ雇人至雇人  
相許得ル一月以上ノ期限

○新律綱領○人命律上三三  
謀殺家長○殺死若夫

凡祖父父母及伯叔父姑

兄弟若クハ外祖父父母夫夫ノ  
祖父父母ヲ謀殺スルニ已  
ニ行フ者ハ皆斬已ニ殺ス者  
ハ皆絞 等親以下ノ尊長ヲ  
謀殺スルニ已ニ行フ者皆ハ  
一等從ハ徒三年已ニ傷ス  
ル者皆ハ絞從ハ加功スル者  
加功セサル者並ニ凡人ト同  
ク罪ヲ論ス已ニ殺ス者ハ皆  
斬  
若シ五等親以上ノ尊長卑幼  
ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ  
各罰設律内尊長故殺卑幼律  
ニ依リ一等ヲ減ス已ニ傷ス  
ル者ハ一等ヲ減ス已ニ殺ス  
者ハ故殺律ニ依ル

第百六十八條 凡祖父父母  
母及伯叔父姑兄弟若クハ  
外祖父父母夫夫ノ祖父父母  
ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ  
皆斬ニ處スル律ヲ改メ皆絞  
首斬ニ處スル律ヲ改メ皆絞  
十年四月廿六日 律四十  
右各條殺祖父母父母律第二  
項内左ノ通改

○謀殺家長  
凡奴婢家長ヲ謀殺スルニ已  
ニ行フ者ハ絞 等已ニ傷ス  
ル者ハ絞從ハ加功スル者  
加功セサル者並ニ凡人ト同  
ク罪ヲ論ス已ニ殺ス者ハ皆  
斬  
若シ五等親以上ノ尊長卑幼  
ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ  
各罰設律内尊長故殺卑幼律  
ニ依リ一等ヲ減ス已ニ傷ス  
ル者ハ一等ヲ減ス已ニ殺ス  
者ハ故殺律ニ依ル

謀殺祖父父母律  
若シ五等親以上ノ尊長卑幼  
ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ハ  
各罰設律内尊長故殺卑幼律  
ニ依リ二等ヲ減スル律ヲ改  
メ減五等ニ從フ

ル者ハ斬已ニ殺ス者ハ皆絞  
若シ雇人家長ヲ謀殺スルニ  
已ニ行フ者ハ絞 等已ニ傷  
スル者ハ絞已ニ殺ス者ハ皆  
斬  
○殺死若夫  
凡妻妾人ト通スルニ本夫  
姦所ニ於テ親ヲ姦夫姦婦ヲ  
殺テ即時ニ殺ス者ハ論スル  
丁勿レ若シ本夫止テ姦夫ヲ  
殺ス者ハ姦婦ハ和姦律ニ依  
リ罪ヲ科入止テ姦婦ヲ殺ス  
者ハ姦夫ハ流三等本夫ハ並  
ニ論スル丁勿レ  
其妻姦姦ニ因リ同謀シテ本  
夫ヲ殺ス者ハ姦夫ハ斬若  
シ姦夫自ラ本夫ヲ殺ス者ハ  
姦婦情ヲ知ラスト雖兵殺

第百六十九條 凡姦夫自ラ  
本夫ヲ殺ス者ハ姦婦情ヲ知  
ラスト雖モ絞殺テ懲殺終身  
第百七十條 凡姦婦自ラ本  
夫ヲ殺ス者姦夫果シテ情ヲ  
知ラサレハ止テ姦罪ヲ科ス  
第百七十二條 凡姦婦遇テ  
姦ヒ拒絶スル後姦夫姦好ノ  
續キ難キヲ憤リ本夫及ヒ祖  
父母父母ヲ殺死スル者拒絶  
ノ證據明白ナレハ婦女ハ止  
テ姦罪ヲ科ス  
第百七十二條 凡姦夫姦婦  
姦所ニ於テ本夫ヲ撞見セラ

○新律綱領○人命律上三三  
改定律例○人命律上

レ等時ハ逃匿シテ非ニアラス且情ヲ知ラザレハ上ヲ甚  
罪ヲ科スヘキ條ト心得ヘレ

○長河縣伺 七年第十五号  
指今 水夫ニ雇ハレ港中庭泊ノ際偶々盗心ヲ発シ船主  
外二人ヲ斫殺シ及ヒ一人ヲ溺死セシムルヲ以テ人命律  
殺一家三人除謀殺云々一家ノ死罪ニ非サル三人以上ヲ  
殺ス者ニ比擬ス  
泉首 昔四郎

○小田縣伺 九年第二号  
指今 魔魅呪咀ノ事史傳ニモ載見スト固モ其方法及ヒ  
実験ノ有無ニ至テハ現ニ其草突ニ就クニ非サレハ審明  
シ難シ頑愚疾妬ノ念ヨリ一時呪咀スル者ハ一概ニ此律  
ニ依ルヘカラス

○塚縣伺 七年第百八十号  
指今 父兄ニ毒藥ヲ施スモ  
一時在處ニ後ナレハ例外ニ係リ  
死ニ至ルヲ以テ律例第百六  
十八條祖父母云々謀殺スル  
ニ比ニ行フ者ヲ以テ論シ  
殺罪 竹田大郎兵衛  
妹ヲ謀殺スルノ罪ハ本罪死  
ニ入ルヲ以テ論セス

○青森縣伺 七年第三十三号  
前幕其原由ハ誤テ殺ノ足ヲ  
踏ミ殺ノ情ヲ再應証入ト  
同モ聞入レザルヨリ其情ノ  
起ル勢ヒ上ヲ得ナルニ出テ  
當場故殺ノ念慮アルニ非ス  
勢ヒ聞取ノ起端ニ似タリ然  
リト雖モ未ダ相殺テ殺傷ナ  
期セズ傷死スニハ非ス云

殺一家三人○魔魅人○毒藥殺人○闘毆及故殺

凡謀殺故殺放火行盜シテ一 家ノ死罪ニ非サル三人以上 ヲ殺シ若クハ人ヲ支解スル 者ハ比擬	殺一家三人	凡謀殺故殺放火行盜シテ一 家ノ死罪ニ非サル三人以上 ヲ殺シ若クハ人ヲ支解スル 者ハ比擬	殺一家三人條例 第百七十三條 凡一家ノ死 罪ニ非サル三人以上ヲ殺ス ト稱スルハ雇人ト雖モ同居 ニ係ル者及ヒ同居ヒスト雖 モ父子兄弟等至親ニ係ル者 皆是ナリ
凡魔魅ヲ行ヒ符書ヲ造リ呪 詛シテ人ヲ殺サント欲スル 者ハ各謀殺ヲ以テ論入止ク 人ヲ疾苦セシメント欲スル 者ハ謀殺已行未傷ニ三等ヲ 減ス	毒藥殺人	凡毒藥ヲ用ヒテ人ヲ殺シ及 ヒ藥シテ死セサル者ハ各謀 殺律ニ依テ論ス買テ未タ用 ヒサル者ハ徒二年半情ヲ知 テ毒藥ヲ賣ル者ハ同罪罪流 三等ニ止ル知ラサル者ハ坐 セス	毒藥殺人條例 第百七十四條 凡人ヲ殺ス ノ心ナシト雖モ毒藥ヲ用ヒ テ故ラニ疾苦セシムル者ハ 懲役八十日
凡闘毆シテ人ヲ殺ス者ハ手 足他物金刃ヲ問ハス並ニ絞 殺スル者ハ斬	闘毆及故殺	凡闘毆シテ人ヲ殺ス者ハ手 足他物金刃ヲ問ハス並ニ絞 殺スル者ハ斬	闘毆及故殺條例 第百七十五條 凡闘毆人ヲ 殺ス者ハ絞殺テ懲役終身 第百七十六條 凡亂毆シテ 人ヲ殺シ傷ノ先後輕重ヲ知 ラサル者原謀アレハ原謀者

新律綱領○人命律上 四

改定律例○人命律上

○大坂裁判所 八年第十号指令  
善八ノ發明器械ニ利益多キヲ嫉ミ其違約ヲ詰問シ強テ  
之ヲ懲セシメント多敷詭策ヲ使人シ器械ヲ強奪スルノ  
ミナラス善八ノ林ヨリ突キ茶ヲ襲撃シ殺ケケケ頭撃チ  
擲キ押伏セテ其妻ニ及フヲ見テ善八必死窮迫ノ余リ  
何ノ思慮ナク伊共衝ケ死ニ至リテ死ニ至リテモ未ト  
伊共衝ケテ逞志シキヨリ彼カ兇器擲キ防キ已シカ  
身體財産ヲ護ルノ已ムヲ得サルニ出始ヨリ殺意アルニ  
非ル者罪ノ問フヘキナレ 善 八  
○度會縣 九年第五十二号  
例第百七十九条厄人ト半論云々若シ臨時殺意ヲ起シ已  
ニ行フト届モ傷セサル者ハ不問ニ置キ可然殺意ニ燃  
始テ殺殺セント以テ持合セテ手槍ヲ首ニカケ已ニ引メ  
トスル際高聲ニ叫ケル故ニ他人ニ知ケルハ不問ニ  
逃去リ断念スル者アリ之ヲ判問スルニ預謀ノ頭目ナリ  
又始テ傷セシ無シ是等ハ前条ニ違當ノ犯情ニシテ二  
親ノ尊長ニ係ル如新ハ如何處断シ可然殺  
指今 全ク預謀ノ心跡ナキハ捕ヲ量リ不慮為輕重ニ問  
フ

○京都裁判所  
爰ニ土方人足詰員ヒト唱ヘ  
道路管轄等ノ節一切ノ費用  
若干決定ノ其務主ニ詰員  
多クノ人足ヲ聚メ其人足ニ  
ハ多量ノ賃銀ヲ給シ其身ハ  
中益ヲ取リ右ノ家業トスル  
者アリ而シテ人足ノ内連因  
居住ノ者等ハ詰員人自宅ニ  
止宿セシメ日々搬運ノトナ  
サシムルニ或時右邊國ノ  
者一人偶病ニ罹リ他ヲ治療  
サナスト届モ日ニ増シ衰弱  
シ快復ノ期相見ヘス就テハ  
其没故ノ上ハ詰員人埋葬等  
ノ手數ニ及ビ且ハ其人費モ  
自身ヨリ亦ニル儀ヲ相厭ヒ  
或深更歿息ニモ同宿人甲乙  
二人ニ命シ患者ヲ擧出サセ

ナ起シ互ニ殺打シテ終ニ甲  
乙ヲ殺ス是ヲ擬スルニ同罪  
殺ヲ以テスレシ  
又前説ノ如ク兩人互ニ同罪  
シカノ及ハヤルヲ知リ逆  
進ス甲仍ホ懲先止ムルコト  
ク逆進シテ是ヲ殺ス之レ故  
殺ナリ

命傷ヲ爲ス者ハ絞原謀者ハ 共ニ毆ト否ヲ問ハス流三等 餘人ハ手ヲ下スト雖モ致命 傷ヲ爲セザル者ハ杖九十	テ懲役終身ニ處ス若シ原謀 共ニ毆サレハ初問者ヲ懲役 終身ニ處シ原謀者ハ懲役十 年餘人ハ並ニ懲役九十日 第百七十七條 凡亂毆シテ 人ヲ殺シ先後輕重ヲ知ラサ ル者若クハ原謀同夥共ニ毆 テ各致命重傷ヲ爲ス者一人 實ニ罪ヲ畏レテ自盡シ及ビ 已ニ獄ニ在リ或ハ押解中途 ニ在リテ病斃スル者アレハ 一等ヲ減シ懲役十年ニ處ス 第百七十八條 凡同謀共ニ 人ヲ毆テ傷皆致命ニシテ即 時身死スレハ後ニキテ下シ 傷ヲ成スト重キ者ヲ懲役終 身ニ處ス若シ時日ヲ經テ身 死スルニ至ル者ハ何傷死ニ 致ストテ究明シテ傷ヲ成ス コト重キ者ヲ懲役終身ニ處ス
○要義 問 服食ヲ屏去スルトハ何 等ノ事ナサスナキ云フカ説明 アリタレ 答 冬日ニ衣服ヲ與ヘス或 ハ飲食物ヲ與ヘサル如キ所 為ナキ云フ	若シ原謀共ニ毆テ亦致命重 傷ヲ爲スニ係ラハ原謀者ヲ 懲役終身ニ處ス 第百七十九條 凡人ト半論 關毆シテ臨時殺意ヲ起シ人 ヲ殺ス者ハ故殺ニ生ス若シ 半問ノ後仍ホ餘怒ヲ尋キ道 邊ニテ兇殺シ及ヒ半問ニ因 ルニ非スト雖モ臨時殺意ヲ 起シテ殺ス者預謀ノ頭目ナ キハ並ニ故殺ヲ以テ論ス其 傷シテ死セサル者ハ仍ホ關 毆ニ依ル 屏去服食條例 第百八十條 凡人ノ服用飲 食ノ物ヲ屏去シ若クハ物ヲ 以テ人ノ耳鼻及ヒ孔竅中ニ 置キ因テ死ニ至ル者ハ絞 テ懲役終身若シ謀故ノ情ア ル者ハ各本律ニ依ル

屏去服食

新律綱領○人命條上五

改定律例○人命條上



諸人ハキ明証アリハ祖父母ノ親告ヲ待テモ無論  
 惟改律ニ依リテ断レ可然  
 拾今十年九月十九日 親告ヲ供テ坐スルノ儀ハ自ラ存  
 在スルニ付親告ニ出サレノ證ハ以テ證トスルニ足ラサ  
 ル儀ト心得ヘレ

○熊本縣 七年第四十九  
 号  
 例第百八十五条凡家長雇人  
 ナ殺テ云々トアリ其家長ニ  
 非ル家長ノ尊屬專屬ナ百ハ  
 サルハ尚ホ凡人ナ以テ論ス  
 ルノ律旨ニ候哉  
 拾今 何ノ通

○要義  
 問 圖賴スルモノトハ何  
 ヤ

雇人ノ人ニ言ヒ掛ケテア  
 其人ヲ罪ニ落サントスルナ  
 リ

○新治裁判所 六年七月十二日拾令  
 路頭ニ於テ犬ヲ闘ハレノ因テ同伴人ノ腰刀ヲ借リ持テ  
 人ノ畜犬ヲ斬殺スル者及ヒ其刀ヲ貸ス者  
 改正本律 故テ例及チ延ク者ニ擬シ懲役三十日初  
 ニ依テ罰刑ニ換ヘ  
 禁錮三十日

敢死有罪畢幸○殺雇人○將屍圖賴

新律綱領○人命律下二

改定律例○人命律下

罵スルニ因テ大官ニ告ケス  
 擅ニ殺ス者ハ杖九十祖父母  
 父母ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐  
 ス  
 若シ夫罪アル妻妾ヲ毆罵シ  
 妻妾因テ自死スル者ハ論ス  
 ルコ勿レ  
 (殺奴婢)  
 凡奴婢死罪ヲ犯スニ家長官  
 ニ告ケス擅ニ殺ス者ハ杖七  
 十  
 第シ罪ナキニ毆殺スル者ハ  
 徒三年故殺スル者ハ流二等  
 若シ家長雇人ナ殺ツハ折傷  
 ニ非ルハ論スルコ勿レ折傷  
 以上ハ凡人ニ三等ヲ減ス因  
 テ死ニ至ル者ハ流一等故殺  
 スル者ハ絞

及ヒ家長奴婢ヲ故殺シテ人  
 二圖賴スル者ハ各本罪ニ一  
 等ヲ加フ  
 若シ子孫及ヒ奴婢已ニ死ス  
 ル祖父母父母及ヒ家長ノ屍  
 ヲ將テ人ニ圖賴スル者ハ徒  
 三年二等親ノ尊長ノ屍ヲ將  
 テスル者ハ徒二年三等親以  
 下ノ尊長ハ各一等ヲ減ス  
 若シ尊長已ニ死スル卑如及  
 ヒ他人ノ屍ヲ將テ圖賴スル  
 者ハ杖八十  
 其官ニ告ル者ハ誣告律ニ依  
 テ罪ヲ論ス因テ財物ヲ詐リ  
 取ル者ハ贓ニ計ヘ竊盜ニ準  
 シ重キニ從テ之ヲ科ス  
 弓銃殺傷人  
 凡故テ弓銃銃砲ヲ放ク及  
 ヒ劍刃ヲ挺ク者ハ人ヲ傷セ  
 スト雖モ杖六十傷スル者ハ

將屍圖賴條例  
 第百八十六條 凡雇人己ニ

死スル家長ノ屍ヲ將テ人ニ  
 圖賴スル者ハ懲役百日

改正弓銃殺傷人律  
 第百八十七條 凡故テ弓  
 銃銃砲ヲ放ク及ヒ劍刃ヲ挺  
 ク者ハ人ヲ傷セスト雖モ杖

秋初ノ從トナレテ論レ一等ヲ減シ  
禁錮二十日  
前澤 答

○白川縣伺 七年第百六十  
号

指令 車馬殺傷人律第一項  
ニ依リ勅奏判以下凡人ト同  
ク処分ス

○名東探伺 七年第百六十  
四号

人刀車客リ依頼テ受ケ疾走  
ノ際下リ道又ハ踏込ニテ誤  
テ人ヲ傷スル者車馬殺傷人  
律ニ依リ云々ニ依リテ所  
然哉右ハ全ク車ヲ以テ渡世  
致レ候者ニ候ヘハ疾走モ亦

○豊後  
高守トハワナ  
望平トハハレル  
株眉索トハワワハ

凡開傷ヲ以テ論ス因テ死ニ  
致ス者ハ殺士族卒ハ破廉耻  
甚チ以テ論ス

六十改テ懲役三十日減スル  
者ハ凡開毆傷ヲ以テ論ス因  
テ死ニ致ス者ハ絞改テ懲役  
終身

車馬殺傷人

凡故ナク街市ニ車馬ヲ馳驟  
シ因テ人ヲ傷スル者ハ凡開  
傷ニ一等ヲ減ス死ニ致ス者  
ハ流三等  
若シ馬驚逸シ或ハ公務ノ急  
速ニ因リ馳驟シテ人ヲ殺傷  
スル者ハ過失ヲ以テ論シ法

車馬殺傷人條例

第百九十條 凡深山曠野  
獸ノ往來スル處ニ於テ阮穿  
ヲ穿作シ及ヒ高守ヲ安置シ  
テ笠竿及ヒ株眉索ヲ立サル  
者ハ懲役四十日以テ人ヲ傷  
スル者ハ開毆傷ニ四等ヲ減  
ス減シテ水罪ヨリ輕キ者ハ

故ナキニアラス如何ニ所可  
然哉  
指令 過失殺傷人律ニ依リ  
処分スヘシ  
○筑前縣伺 七年一月十三  
日指令  
二人共ニ暗夜故ナリ街市ニ  
馬ヲ馳セ過テ人ヲ踏付シテ  
死ニ致シ傷ノ輕重ヲ知ラサ  
ルヲ以テ先驅ノ者ヲ首トナ  
シテ論ス

六年三月四日第百八十五  
号御布告  
田加村里ノ近傍人ノ往  
來スル地ニ於テワナヲ  
トシテナサテ取致候後  
堅ク令禁止候事

二依リ收贖シテ其家ニ給付  
ス  
前醫殺傷人  
凡麻醫鐵藥ヲ用ヒ誤テ水方  
ニ依ラス因テ死ニ致ス者ハ  
過失殺ヲ以テ論シ法ニ依リ  
收贖シテ其家ニ給付シ醫ヲ  
行フコトヲ許サス

水罪ニ依テ論シ死ニ致ス者  
ハ懲役三年仍水罪金二十  
五圓ヲ追シテ死者ノ家ニ給  
付ス若シ深山曠野ニ非スシ  
テ人ヲ殺傷スル者ハ車馬殺  
傷人律ニ依ル  
第百九十一條 凡高守人ヲ  
殺ス者例ニ依リ罪ヲ科スト  
雖モ貧困ニシテ埋葬金ヲ追  
スルコト能ハサレハ其雇工錢  
ノ全數ヲ領置シ食費ヲ除キ  
餘ル所ノ雇錢金二十五圓ニ  
滿レハ死者ノ家ニ給シ仍ホ  
役限ハ本法ヲ盡ス

○愛媛縣伺 七年第百三十六号指令  
詠曰淺七カ狂狀ヲ奏スルヲ見テ恍惚ノ惑ル者トシ之ヲ  
驅逐ノ爲メ加持新得ニ病者ヲ驚知シテ死ニ至ラシムル  
ト雖モ其原由致初ノ病症癩癩ニ係ルヤ否ヲ審カニセス  
巨其病者ヲ禁黨スルモ一途皆獨チ餘クノ真情ニ出テ者  
モ財物ヲ貪ルノ情ナク專ラ治療ニ注意シテ死ニ致ス者  
庸医ノ鍼兇藥劑ヲ誤リ死ニ致スト殆ント相似ルヲ以テ  
人命律庸医鐵藥ヲ用ヒ誤テ死ニ依ラス因テ死ニ致ス  
ト云ニ比照シ過失殺ヲ以テ論シ法ニ依リ收贖シテ其家  
ニ給付シ其弊害宗法ニ由リテテ察略

新律綱領○人命律下三

改定律例○人命律下

改定全三十五箇  
刑罰改定律例前ニ在テ以テ改定金銀ハ曰法ヲ用ニ  
○壹箇條 七年第百五十一号指令  
前々買フ注文ノ署名ヲ知ラサルヨリ程度ヲ以テ其名ニ  
近似シテ買リ因テ死ニ致スモノハ命律違反ニテ人ナ  
殺傷スル者ハ各罰銀二兩シ法ニ依リ改定シテ其家ニ  
給付ス

○鹿鹿島探伺 七年第百四十  
六号指令  
強盗已ニ成リ本場甚急自休  
スル者好夫ハ威逼殺死律案  
ヲ行ヒ人ナ威逼シテ自死ニ  
致ス者ヲ以テ論スヘシ

○新治裁判所 七年第  
七十四号指令  
竊取人ナリテ得ルモノ罪ノ輕ス

○要義  
凡ソ犯罪ヲ組成スルニ足ル  
モノハ知覚精神ヲ具備スル

若シ故サラニ本方ニ違ヒ疾  
病ヲ詐療シテ財物ヲ取ル者  
ハ賊ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論  
ス因テ死ニ致シ及ヒ事ニ因  
テ故サラニ樂ヲ用ヒ人ヲ殺  
ス者ハ斬

威逼致死

凡戸管田宅錢債等ノ事ニ因  
テ人ナ威逼シテ自死ニ致ス  
者ハ杖一百若シ官吏公使人  
等公券ニ因ルニ非スシテ平  
民ヲ威逼シ因テ自死ニ致ス  
者七罪同前ニ罪銀二十五  
兩ヲ追給ス  
若シ故サラ行ヒ盜ヲ爲スニ因  
テ人ナ威逼シテ自死ニ致ス  
者ハ故ノ威逼ヲ論ヒス財ノ  
得否ヲ問ハス並ニ斬

瘋癲殺人

凡瘋癲人ナリテ殺ス者ハ終身

瘋癲殺人條例

第百九十二條 凡瘋癲人

○抗戸縣伺 七年第百四十  
一号指令  
瘋癲人ニ名以上ヲ殺傷スル  
者ハ例第百八十二條ニ依リ  
地合スト同モ若シ果シテ貧  
困ニシテ改贖スヘキ資力ナ  
クハ改贖金ノ全額ヲ出ス  
能ハス其資分ヲ贖フヘキ者  
ハ分給シテ埋葬及ヒ醫藥ノ  
資トナシム

○若松縣伺 七年第百二十二号  
指令  
忽然瘋癲ヲ発シ人ナリテ傷シ故數月ヲ經テ平愈スルモノ  
リ過失殺傷條例ニ照シ改贖申付放免可然哉

○山口縣伺 七年第百九十九号  
指令  
懲役一年以上ノ犯人供狀檢密シ在スル者父兄親戚等  
ニ保管鎖鑰セシメ年月ヲ終テ全愈セサル者全愈ノ期ナ  
クテ可決哉

○奈良縣伺 八年第百四号  
指令  
瘋癲人子孫ヲ殺スモノハ刑假ナク其家ニ鎖鑰シ若シ果  
シテ痊愈スレハ親屬保佐ノ証ヲ取リ可放免哉

○京都裁判所 八年第百十八号  
指令  
懲役入一時派遺ヲ發シテ同囚ヲ傷スル者過失殺傷改贖  
例ニ照シ改贖セシムヘキ也然カニレテ贖フ能ハサレ

威逼致死○瘋癲殺人○謀同死

新律綱領○人命律下四

改定律例○人命律下

鎖鑰仍ホ埋葬金二十五兩ヲ  
追取シ死者ノ家ニ給付ス若  
シ二命以上ヲ連殺スル者ハ  
絞其親屬看守廠ナラスシテ  
他人ヲ殺死スルニ致ス者ハ  
杖九十  
若シ瘋癲ヲ假リ人ヲ殺傷ス  
ル者ハ謀故殺傷ニ依テ之ヲ  
科ス  
六年四月十五日司法省  
第五十四号御達  
瘋癲人犯罪ニ命同當左  
出候節ハ瘋癲ノ保証ヲ取  
得可ト何出候節ハ改贖相違  
候事

○竊取改定律例  
第百九十四條ノ祖父父母  
母ヲ殺ス者ハ座獄スルモ懲  
役五年ニ改正シ放逐スル  
テ論ス  
第百九十五條ノ放逐スル  
テ論ス  
第百九十六條ノ放逐スル  
テ論ス

ナ殺シ埋葬金二十五兩ヲ追  
スル者改テ過失殺傷改贖例ニ  
照シ四十圓ヲ追シテ死者ノ  
家ニ給付ス其人ヲ傷スル者  
ハ並ニ過失殺傷改贖例ニ照シ  
追シテ傷者ニ給シ醫藥ノ資  
ト爲ス  
第百九十三條 凡瘋癲人ニ  
命以上ヲ連殺スル者ハ改贖  
テ鎖鑰終身  
第百九十四條 凡瘋癲人刑  
父母父母ヲ殺ス者ハ鎖鑰終  
身  
第百九十五條 凡瘋癲人ハ  
ヲ殺ス者ハ鎖鑰終身ニ處ス  
ト雖モ若シ果シテ痊愈スレ  
ハ親屬保佐ノ保証ヲ取リ懲  
役五年ニ改正シ限滿テ放逐  
ス

第百九十六條 凡瘋癲人自

ハ官ニ送置スル後送ノ處ナク贖金ノ半ニ充テ給與スル  
ホ不足スルハ懲役滿期ノ後例第百三十二條ニ依リ處分  
スヘシ  
○墳墓裁判例 八年第百三十七号  
今茲ニ墳墓ハ謀カク以テ人ノ傷スル者アリ改定律例第  
百九十二條及ヒ過失殺傷人律ニ照依シ其罪ヲ罰致傷ニ  
准テスルニ第百二十四條懲役七十日ニ依リ罰ナ之ヲ收  
贖シムルノ法例圖中其項開載無之ト旨モ仍ホ一十日  
金三十錢ノ數ヲ以テ計算シ收贖セシメ傷者ニ給シ可然  
然レ本例及ヒ全廢マテ親族ヘ付シ納細セシメ可  
指今 本条但書共同ノ通

○滋賀縣例 七年第百七十七号  
例第百九十九條ノ犯者アルハ各其傷ノ輕重ヲ觀シテ  
罪ヲ定メ依令ハ其夫ハ其妻ニ至リ其妻ハ其夫ニ至ルノ  
類其夫ハ人ヲ瘡疾ニ致ス律ニ依リ其婦ハ人ヲ瘡疾ニ致  
ス律ニ依リ各一等ヲ減シ可然哉  
指今 同ノ通  
○京都裁判例 九年第百十三号  
父其妻同ク謀リ墮胎スルニ其妻身死スル者云々其妻  
ヲ費リ又ハ技術ヲ施ス者之処分方同  
指今 持テ知テ禁テ費リ技術ヲ施ス者ハ例第百九十八  
條墮胎ヲ謀リ死ニ致ス者ト同ク科スヘシ

○滋賀縣例 七年第百六十四号  
指今 過失傷私和ハ不問ニ置テモ過失殺ハ此限ニアラ  
ス

○能谷裁判例 九年第百四十八号  
父母ノ為ニ殺サレ其子私和スルハ容隠ヲ許サス本  
罪ヲ科シ可然哉  
指今 私和律ニ依リ酌減スヘシ  
母父ノ為ニ殺サレ其子私和スルハ容隠ヲ許シ可然  
哉  
指今 同ノ通  
父叔父ノ為ニ殺サレ其子私和スルハ容隠ヲ許サス  
本罪ヲ科シ可然哉  
指今 同ノ通  
指今 一等親ノ為ニ二等親以下殺死セラルルハ如キハ  
母等ヲ分ノ容隠ヲ許スヘシ  
叔父兄ノ為ニ殺サレ兄叔父ノ為ニ殺サレ兄叔父ノ  
為ニ殺サレ兄叔父ノ為ニ殺サレ兄叔父ノ為ニ殺サレ兄叔父ノ  
指今 以テ父兄弟ハ共ニ二等親ナレハ母等ヲ分テ容隠  
ヲ許スヘシ  
指今 私和人命ハ謀殺開竊殺ニ限ル感遺致私和  
スル者ハ不應為斃遺式ニ同クハレ過失殺テ私和人命者  
ハ此限ニ非ス

○三 縣例 七十五号第六号指今  
狂獸ノ時人境内ニ乘リ其乘ラレ血傷クノニ容隠スル能  
ハナルヲ以テ己ムテ得ス之ヲ他例ニ荷ヒ行ク故テ歸ル  
ノ後テ時人自ラ水ニ落テ溺死ス不應為斃ニ問ヒ懲役三  
十日其罰ヲ重シク科ス

母父母ヲ殺ス者ハ鎖細科スル  
ナルカカ如ク鎖細ハ刑名ニアラ  
判例年限ニ分テ裁シ可然哉  
指今十年六月十五日

**謀同死**  
凡姦夫姦婦同死ヲ尚謀スル  
ニ姦婦曰ニ死シ姦夫亦死  
七ス姦夫曰ニ死シ姦婦亦死  
死セリ者ハ並ニ流ニ等  
若シ同ク謀リ樂ヲ用ヒテ墮  
胎スルニ姦婦身死スル  
夫ハ流ニ等

**私和人命**  
凡祖父母父母及ヒ夫若クハ

殺テ致スニ看守人失察スル  
者ハ懲役二十日若シ人ヲ傷  
スルニ至ラシムル者ハ懲役  
四十日

**謀同死條例**  
第百九十八條 凡姦夫姦婦  
同ク謀リ墮胎スルニ姦婦身  
死スル者姦夫ハ流ニ等改テ  
懲役三年  
第百九十九條 凡姦夫姦婦  
同死ヲ謀リ傷スト雖モ人ニ  
阻致セラレ未タ死セリ者  
ハ開竊傷ニ一等ヲ減ス

**私和人命條例**  
第百條 凡家長人ニ殺サ

家長人ニ殺サレテ子孫姦妻  
及ヒ叔姪私和スル者ハ徒三  
年二等親ノ尊長人ニ殺サレ  
私和スル者ハ徒二年三等親  
以下各一等ヲ減減ス  
其卑幼人ニ殺サレテ尊長私  
和スル者ハ各等親ニ依テ卑  
幼ノ罪ニ一等ヲ減ス若シ姦  
妻子孫及ヒ子孫ノ婦叔姪人  
ニ殺サレテ祖父母父母家長  
私和スル者ハ徒八十日二等  
親ノ尊長人ニ殺サレテ私和  
スル者ハ並ニ賊ニ計ヘ竊盜ニ  
準シ重キニ從テ之ヲ科ス常  
人他人ノ為メニ人命ヲ私和  
スル者ハ杖六十財ヲ受ル者  
ハ賊ニ計ヘ枉法ニ準シ重キ  
ニ從テ之ヲ科ス

レ雇人私和スル者ハ懲役百  
日若シ雇人二人ニ殺サレ家長  
私和スル者ハ懲役七十日

**移地界内死屍**  
凡地界内ニ死屍アルヲ望長  
地主郡佐人官司ニ申報セス

**移地界内死屍條例**  
第二百一條 凡墳塚ヲ發掘  
シテ棺槨ヲ見ハス者ハ懲役

私和人命○移地界内死屍○同行知有謀害

新律綱領○人命律下五

改定律例○人命律下



○滋賀縣伺 七年第五十五号  
變死ニ係ル屍骸ヲ私埋ニ理華スルヲ許サズ違フ者ハ  
苦四十云々ト相見候若苦四十八違令重ナラント相考ヘ  
候ハ共今少シ判然ナラヌ罰丈何律ト相認ノ候哉  
指今 伺ノ通

○高知縣伺 七年第五十七号指今  
他人ノ墳墓ヲ發掘シテ棺蓋ヲ開キ死者ノ着衣ヲ剝キ物  
品ヲ盗ム者改定律例二百一一条凡墳塚ヲ發掘シテ棺蓋ヲ  
開キ屍ヲ見ハス者ニ擬シ懲役三年 罰取スル罪罪ハ輕  
シ論セス

○福島縣伺 八年第五十八号  
指今 子孫ノ死屍ヲ水中ニ棄ル者例第百三三條ニ依テ  
違分スヘシ本律ニ依リ他人ト同ク論スルヲ得ス

○白川縣伺 八年第四十号  
變死ニ係ル屍骸ヲ私埋ニ理華スル者其人果シテ殺傷ニ係  
ルナク 擬自殺シテ他ニ疑フヘキ者ナキハ首免ヲ與ヘ  
可然哉ノ伺  
指今 伺ノ通

○静岡縣伺 伺ノ通  
前幕光ニ原籍不明ナル行倒或ハ殺人アリ戸長地主  
隣佑等官ニ苦ケ檢視ヲ經レハ其手數ト幾分ノ村費ニ開  
スルヲ欲フノ痛惜ヨリ私埋ニ理華スル者アリ是等ノ如  
キハ變死ニ係ル屍骸ヲ私埋ニ理華スルニ非ス私埋理華  
ヲ以テ可論哉云々伺

指今十年十一月八日 妙地界内死屍茶ノ死屍ハ多  
無主ノ屍ニシテ官司ニ申報セシ且葬式ヲ行ハサルニ依  
リ埋藏ト云ヒ例第百四條ノ變死ニ係ル屍ハ心ス有主  
ノ屍ニシテ止テ官司ノ檢視ヲ經ナルニテ葬式ヲ行フニ  
依リ埋藏ト云フ因テ伺面ノ如キ官司ニ申報セズ輒リ埋  
藏スルトキハ抄 界内死屍律ニ依テ違分スル義ト心得  
シ

○兵庫裁判所伺  
兩人手足ヲ以テ互ニ關取ス  
ル内甲ノ毆打衝突ニ依テ乙  
傍ノ垣牆水石等ニ觸レ傷ヲ  
ナス死甲ハ仍ホ瓦石拾擄傷  
ヲナスヲ以テ論シ候哉若シ  
無傷ナルモ瓦石ヲ以テ毆シ  
ノ三十日ニ延シ候哉 但シ  
關取ノ際自ラ踏蹴シテ傷ヲ  
ナス片ハ止テ手足ノ關取ヲ  
以テ論シ候哉  
七年五月五日指今  
但シ書共伺ノ通  
○白川縣伺  
後ニ同謀人ヲ誘スル者アリ  
其原謀者手ヲ下ヤス餘人手  
足ヲ以テ毆打ス關取条正条  
ナシ因テ法律條關取条ヲ

○要義  
問 新律綱領第二項中ニ陰  
陽ヲ毆取スルモノハ流三等  
トアリ其手數ヲ毆取スル者ヨリ  
ハ甚タ重シ何等ノ理由アリ  
テ斯ク罪ニ輕重アルモノナ  
ル哉  
答 夫レ陰陽ハ血統ヲ連續  
スルノ要具ナリ若シ之ヲ斷  
ズレハ其容一時止マラ  
スシテ永ク子孫ノ及フ故ニ  
甚チ挾取スル等ヨリハ其罪  
重シ茲ヲ以テ毆取ノ字ハ只  
タ陰陽ヲ傷スル者ト輕視ス  
ヘカラス毆取スルモノトハ  
交合ヲナスヲ能ハサルモノ  
ト見ル方尤モ可ナラン故ニ  
此犯者アラハ臣師ノ診斷ヲ

輒ク他所ニ移シ及ヒ埋藏ス  
ル者ハ杖七十水中ニ棄ル者  
ハ杖一百因テ衣服ヲ盜取ス  
ル者ハ罪ニ計ヘ窮盜ニ準シ  
重キニ從テ論ス罪流三等ニ  
止ル  
十年二月廿一日第廿二  
号御布告  
變死ニ係ル屍ヲ警察官  
吏檢査スル時ニ於テ解  
部ヲ行ハサレハ其致命  
ノ原因ヲ確知シ難キ者  
医師申立ル時ハ檢査官  
車派シテ地方ハ其長  
官ノ許可ヲ受ケ其部分  
ヲ詳細檢査セシムルヲ  
右布告候事

一年已ニ完テ屍ヲ見ハス者  
ハ懲役三年屍ヲ殘毀スル者  
ハ懲役五年  
第二百二條 凡地界内ニ死  
屍アルヲ輒ク水中ニ棄ルト  
同モ水ヲ屍ヲ矢ハサル者律  
ニ照シテ一等ヲ減シ懲役九  
十日  
第二百三條 凡子孫ノ死屍  
ヲ棄ル者ハ懲役七十日  
第二百四條 凡變死ニ係ル  
屍ハ官司ノ檢視ヲ經ルニ非レ  
ハ私埋ニ理華スルヲ禁サ  
ス違フ者ハ懲役四十日  
第二百五條 凡人ヲ押解シ  
中途ニ在リテ病斃スルヲ輒  
ク棄去ル者ハ移地界内屍律  
ニ一等ヲ加ヘ懲役八十日  
第二百六條 凡地界内ニ棄  
兒アリ及ヒ病斃ニ因リテ作例

同行知有謀害  
凡同伴人他人ヲ謀害セント  
欲スルヲ知テ即チ阻當救護  
セス及ヒ害セラルノ後官  
司ニ首告セサル者ハ杖九十

關取律  
凡關取手足ヲ以テ人ヲ毆チ  
傷ヲ成サ、ル者ハ笞二十傷  
ヲ成シ及ヒ瓦石擄棒等ヲ以  
テ人ヲ毆チ傷ヲ成サ、ル者  
ハ笞二十傷ヲ成ス者ハ笞四  
十血耳目中ヨリ出テ及ヒ内  
損シテ吐血スル者ハ杖八十  
人ノ一指一齒ヲ折リ一目ヲ  
眇ニシ耳鼻ヲ挾毀シ若クハ  
骨ヲ破リ及ヒ湯火ヲ以テ人

スルヲ輒ク他所ニ移ス者ハ  
懲役七十日  
同行知有謀害條例  
第二百七條 凡同行謀害ア  
ルヲ知テ阻當救護セスト  
雖モ已ニ害セラル、後首告  
スル者ハ其罪ヲ免ス

關取條例  
第二百八條 凡關取成傷ト  
稱スルハ、毆ツ所ノ皮膚色青  
赤ニシテ腫起スル者ヲ謂フ  
刀ヲ持シ人ヲ傷スト雖モ其  
背柄ヲ以テ毆チ刃ヲ用ヒサ  
レハ仍ホ追棒ト同ク論ス  
第二百九條 凡關取髮方寸  
以上ヲ拔ク者  
若シ一時脅絶セシムル者ハ  
懲役八十日

新律綱領 ○關取律 一  
改定律例 ○關取律

盛スルニ同謀共謀人者各  
以下手傷重者為重罪原謀或  
不皆下手或自毆而傷輕傷  
重者一等ト有之ニ依レハ曾  
テキ下サスト馬モ原謀ナ  
レハ傷重者ニ一等ヲ減シ機  
儀ニ付右ニ照シ科斷可然哉  
七年十二月八日  
何ノ通

○新治裁判所 八年四月廿四日  
人ト闘敵シ虚ニ衆シ窮取スル如キハ窮盜ヲ以テ論ス先  
チ運シ公然強奪スル如キハ強盜ヲ以テ論スヘシ 血シ  
財ヲ圖ル意ハ闘敵ノ討殺ニ拘ハラズ

○山形縣 八年四月廿九日  
八年八月長崎裁判所ニ闘敵ハ傷ヲ成スト馬モ期間ニ  
係ラサレハ私和ヲ聽スト御指令相成候處右ハ卑如ノ草  
長手闘ツモ同様捕心得可然哉  
指令 何ノ通

○佐賀裁判所 八年四月廿四日  
紳士ノ闘敵ハ傷ト馬モ減シテ論ス

○福島縣 八年四月廿六日  
鑢刀ヲ用ヒ傷重キ者ハ過失罪ニ有候  
指令 傷重キモノハ及第ナリテ論ス

○滋賀縣 八年四月廿四日  
祖父母父母ヲ罵ルハ自ラ苦シク待テ坐スルノ明文アリ  
闘敵罪ノ類ハ律ニ於テ私和ヲ聽スノ文ナレト馬モ具  
損傷ニ至ラズシテ草ニ寄ナキ者或ハ官ニ發覺スルモ已  
ニ私和スルニ拘ハラズテ訊究スルニ及ハス

○京都裁判所 九年十一月十四日  
門闘子足ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サハル者懲役二十日ト  
アリ是其門ニ依テ人ヲ毆打シセシメノ罪ヲ治スル法ニ  
候者若シ二人ト半論ノ未だ懲シ其ノ人ノ獄ヲ擧ヘ候則

セント決シ他人ノ罪ニ依テ上ノ罪セシノミニテ上マ  
ルモノアリ右ハ已ニ積象スト馬モ未タ毆打セサルヲ以  
テ門闘ニ依テ論シ難キカ  
指令 毆打ニ至ラス早門ニ止ル者ハ地方連式例ニ依ル  
一シ

○京都裁判所 九年十月二日  
差ニ次ヲ飼ヒ置ク者之アルニ近辺ノ兒童時々右犬ニ瓦  
石ヲ投シ相怒ラシメ遊戯ニ及ヒ候ニ付飼主之ヲ責リ其  
故スルノ際ニ聲リ大ナク吠シ掛ケ候處大怒テ兒童ヲ咬ミ  
傷ヲ負ハセ候右ハ早急其兒童ヨリ酒クテノ罪ニ係リ  
候ト馬モ飼主モ亦罪ノ間ハナルヲ得サル儀ニ之アリ云  
々何

指令 門闘ニ因テ刑減スヘシ  
○岩手縣 十年六月二日  
門闘官ニ交覺スルノ儀ハ私和スト馬モ不問ニ置クヲ得  
得ス上ト已往ノ犯罪私和シテ告發セサル者ハ強テ捕  
執訊スルニ及ハス

○司法省 七年第五百六十六号指令  
浸ニ公使館ニ入ル者改定律例第百二十五條皇城門ニ擲  
入スル者ヲ以テ論ス

○長野縣 七年三月十九日  
平民本屬ノ戸長ヲ毆ツ者ハ  
凡門闘ニ一等ヲ加ヘ選奉テ  
毆ツ者ハ又一等ヲ加フ折傷

ヲ傷スル者ハ杖一百穢物ヲ  
以テ口鼻内ニ灌入スル者モ  
罪亦同ニ指ニ齒以上ヲ折リ  
及ヒ髮ヲ斃スル者ハ徒一年  
人ノ肋ヲ折リ兩目ヲ眇ニシ  
及ヒ刃傷スル者ハ徒二年  
人ノ肢體ヲ折跌シ及ヒ一目  
ヲ瞎シ癩疾ニ致ス者ハ徒三  
年  
兩目ヲ瞎シ兩肢ヲ折リ及ヒ  
癩患アルヲ毆テ因テ癩疾ニ  
至ラシメ若クハ舌ヲ斷テ陰  
陽ヲ毀敗スル者ハ流三等仍  
水金二十兩ヲ追給シテ差贖  
セシム  
其同謀共謀シテ人ヲ傷スル  
者ハ各手ヲ下シ重傷ヲ成ス  
者ヲ以テ重罪ニ坐シ原謀者  
ハ手ヲ下スト出ル傷輕ケレ  
ハ一等ヲ減ス

若シ闘ニ因テ互ニ相毆傷ス  
ル者ハ各其傷ノ輕重ヲ檢シ  
テ罪ヲ定ム後ニ手ヲ下シテ  
理直ナル者ハ水罪ニ二等ヲ  
減ス篤疾ニ至ラシムル者ハ  
仍水金二十兩ヲ追給シテ差  
贖シシム死ニ至ル者ハ流三  
等罪罪金二十五兩ヲ追給ス  
凡門闘ニ於テ忿争スル者  
ハ若五十相毆ツ者ハ杖一百  
折傷以上ハ凡闘傷ニ二等ヲ  
加フ罪流三等ニ止ル刀ヲ以  
テ相向フ者ハ流一等  
〔殿水屬長官〕  
凡史平軍民本屬ノ勅任長官  
ヲ毆ツ者ハ流一等傷スル者

官殿内忿争○毆官吏

新律綱領○闘敵律 二

改定律例○闘敵律

第二百十條 凡二人共二人

ヲ毆テ各一日ヲ瞎シ首ニ至

ラシムルニ先キニ毆ツ者ハ

癩疾律ニ依リ懲役三年後ニ

毆ツ者ハ篤疾律ニ依リ懲役

十年仍ホ差贖金ヲ二人二分

追ス若シ原謀者アレハ俱ニ

毆ツ

ツ者ニ一等ヲ減ス

第二百十一條 凡婦女ヲ毆

テ辱胎セシムル者ハ懲役二

年

第二百十二條 凡闘敵人ヲ

殺スニ後ニ手ヲ下シテ理直

ナル者ハ律ニ照シテ懲役十

年ニ科シ仍ホ事情原諒スヘ

キ者ハ又一等ヲ減ス

第二百十三條 凡闘敵後ニ

手ヲ下シテ理直ナル者ハ減

等シテ罪ヲ科シ仍ホ差贖理

律ニ依リ

罪金兩ヲ追給スル律ヲ改メ

止タ其罪ヲ科シテ金兩ヲ追

給ス

第二百十四條 凡闘敵人ヲ

傷スルニ鑢刀菜刀等ヲ用ヒ

傷輕キ者ハ懲役七十日仍ホ

輕キ者ハ三等ヲ減ス

官殿内忿争條例

第二百十五條 凡皇城門ニ

擲入スル者ハ懲役五十日宮

殿ニ擲入スル者ハ懲役百日

殿官吏律 原殿官吏屬

第二百十六條 凡勅任官ヲ

毆ツ者ハ懲役五年傷スル者

以上ハ凡門殿ヲ以テ論ス  
 ○福岡縣へ違書 八月三日  
 昨日迄七年七月三十一日付  
 以テ子氏選單第八ノ數ヲ  
 者ノ俟同出ニ本指ヲ以テ論  
 スト指令及ヒ置候ニ再議ニ  
 因テ左ニ記載ノ通改定律各  
 此取更ニ及御達候也  
 選卒番人ヲ殿ツ者ハ凡八ニ  
 二等ヲ加フ折傷以上ハ凡門  
 殿ヲ以テ論ス  
 ○京都裁判所 八年第八  
 号  
 本籍華族ノ判任官ヲ殿罵ス  
 ル者ハ奏任官ヲ殿罵スル律  
 ニ依リ可然哉  
 指令判任官ヲ殿罵スル律ニ  
 依テ処分ス

ハ流三等折傷以上ハ絞其長	ハ懲役十年折傷以上ハ絞
官ニ非ル勅任官ヲ殿ツ者ハ	若シ奏任官ヲ殿ツ者ハ懲役
徒二年半傷スル者ハ流一等	二年傷スル者ハ懲役三年折
折傷以上ハ流三等癡疾ハ絞	傷以上ハ懲役七年癡疾ハ絞
若シ奏任長官ヲ殿ツ者ハ徒	若シ判任官ヲ殿ツ者ハ懲役
二年傷スル者ハ徒三年折傷	九十日傷スル者ハ懲役一年
以上ハ流二等癡疾ハ絞其長	折傷以上ハ懲役三年癡疾ハ
官ニ非ル奏任官ヲ殿ツ者ハ	懲役五年癡疾ハ絞死ニ至ル
徒一年傷スル者ハ徒二年折	者ハ並ニ斬
傷以上ハ流一等癡疾ハ流二	殿官吏條例
等癡疾ハ絞	第二百十七條 凡判任官勅
若シ判任長官ヲ殿ツ者ハ杖	任官ヲ殿ツ者ハ懲役九十日
九十傷スル者ハ徒一年折傷	傷スル者ハ懲役一年半折傷
以上ハ徒三年癡疾ハ流一等	以上ハ懲役五年癡疾ハ絞若
癡疾ハ絞死ニ至ル者ハ並ニ	シ奏任官ヲ殿ツ者ハ懲役七
勅	十日傷スル者ハ懲役百日折
其本屬ニ非ル者ハ各二等ヲ	傷以上ハ懲役三年癡疾ハ懲
減ス減シテ罪凡關ヨリ輕ク	役十年癡疾ハ絞死ニ至ル者
若クハ等シキ者ハ凡關ニ一	ハ並ニ斬
等ヲ加ヘテ死ニ入ル	第二百十八條 凡奏任官勅

○大分縣 七年十二月廿七日指令  
 受業師ノ其子ヲ非理ニ毆打シ及ヒ謀故殺ハ凡人ヲ以  
 テ論シ財物ヲ盗ノハ弟子ノ其師ノ財物ヲ盗ムト罪同シ  
 弟子ノ其師ヲ毆罵スル者ハ本律ニ依リ謀故殺ハ凡人ト  
 同シク論ス

○司法省申渡書 七年第七十八号  
 酒田縣士族 萩谷、彌太郎  
 其方儀後田山崎屋中柱田實中堅均ニ背ク廣有之逆中山

拒毆官司差人○毆受業師○威力制縛

新律綱領○罰則律 三

改定律例○罰則律

拒毆官司差人	凡官司人ヲ所屬ニ差遣シ錢	任官ヲ殿ツ者ハ判任官奏任
粮ヲ追徴シ公事ニ勾欄スル	二抗拒シテ服セサル者ハ杖	官ヲ殿ツト罪同其勅任官奏
六十毆ツ者ハ杖八十内損以	上ハ各凡關傷ニ二等ヲ加ヘ	任官ヲ殿ツ者ハ並ニ凡關毆ヲ
罪流三等ニ止ル死ニ至ル者	ハ斬	以テ論ス
○毆受業師	凡文武百工技藝ノ人受業師	毆受業師條例
ヲ殿ツ者ハ凡關傷ニ二等ヲ	加ヘ罪流三等ニ止ル死ニ至	第二百十九條 凡受業師ヲ
ル者ハ斬	威力制縛	毆テ死ニ至ル者ハ斬改テ懲
凡威力ヲ以テ人ヲ制縛シ及		役終身

四郎等ニ申合ノ寛旨ニ差違リ自役セシムル科門設律成  
カ制律条ヲ以テ論シ事情風習ヲ量リ二等ヲ減シ該犯三  
減一減ノ元ニ在ルヲ以テ依新律条依リ禁錮三年申付  
候事

○福島裁判所  
雇人家長ヲ毆罵スルニ家長  
勅委員ニカ、レハ官吏ヲ毆  
罵スル律ニ依リ科罰シ可然  
候ノ旨  
指今十年五月十二日  
伺ノ通

○滋賀縣衙 七年癸酉二十  
五号  
妻夫ヲ毆テ夫妻ヲ毆テ折傷  
以上ニ至ル者及子孫運致等  
自ラ告ルヲ待テ坐スル者其  
已ニ告ルノ後親屬ノ至指生  
視スルニ忌ヒス罪ヲ許サレ  
ンテ折傷ノ元ニ利名定告  
ノ後ナレハ其請ヲ聽サス未  
ク起利セサル内ナレハ其保  
放免シ可然哉  
指今 兩項共親屬ヨリ請願  
スルモ其罪ヲ許サス

○熊谷裁判所 七年第十九号指今  
該犯ノ妻ヲ投害スルヤ供状ニ忽然殺意ヲ生スルノ文ア  
レハ故殺ニ相當スト母尼妻辱夫ノ故令ニ違犯シ罵辱恩  
弄至ラサルヲ折傷ニ判テ拳ヲ以テ夫ノ頭上ヲ毆テ折傷  
違フス其情狀無孔死命ヲ取ルモノ有リ擬シテ故殺ト爲

毆家長○毆夫○毆傷妻

新律綱領○毆傷律 四

改定律例○毆傷律

私家ニ於テ拷打監禁スル者  
ハ有傷無傷ヲ問ハス並ニ杖  
一百折傷以上ハ各凡罰傷ニ  
二等ヲ加ヘ罪流三等ニ止ル  
死ニ致ス者ハ絞  
若シ威力ヲ以テ他人ヲ指使  
シ毆打セシメ死傷ニ致ス者  
ハ並ニ指使人ヲ以テ首ト爲  
シ下手ノ人ハ從ト爲シテ論  
シ一等ヲ減ス

毆家長

毆家長條例

凡奴婢家長ヲ毆ツ者ハ皆流  
一等傷スル者ハ皆流三等折  
傷スル者ハ皆絞死ニ至ル者  
ハ皆斬頭矢傷スル者ハ徒三  
年過矢殺スル者ハ流三等徒  
流並ニ收贖スルヲ聽サス  
若シ雇人家長ヲ毆ツ者ハ徒  
二年傷スル者ハ徒三年折傷  
スル者ハ流三等傷疾ニ至ル

第二百二十條 凡雇人家長  
ヲ毆テ傷疾及ヒ死ニ至ル者  
ハ絞斬ニ處スル律ヲ改メ俱  
ニ懲役終身  
第二百二十一條 凡雇人家  
長ノ故令ニ違犯スルニ督責  
シテ邂逅ニ死ニ致ス者ハ管  
五十改テ懲役七十日

者ハ絞死ニ至ル者ハ斬頭矢  
殺傷スル者ハ各常律ニ依テ  
收贖スルヲ聽ス  
若シ(奴婢)雇人家長ノ故令ニ  
違犯スルニ督責シテ邂逅ニ  
死ニ致ス者ハ管五十過矢殺  
スル者ハ各論スルヲ勿レ

毆夫

毆夫條例

凡妻夫ヲ毆ツ者ハ杖一百折  
傷以上ハ凡罰傷ニ三等ヲ加  
フ夫ノ親ヲ告ルヲ待テ乃坐  
ス篤疾ニ至ル者ハ絞死ニ至  
ル者ハ斬頭殺スル者ハ梟  
若シ妾夫及ヒ正妻ヲ毆ツ者  
ハ妻夫ヲ毆ツ罪ニ各一等ヲ  
加ヘ加ヘテ死ニ入レ死ニ至  
ル者ハ斬頭殺スル者ハ梟

毆傷妻妾

毆傷妻妾條例

凡夫妻ヲ毆ツハ折傷ニ非ル  
ハ論スルヲ勿レ折傷以上ハ

第二百二十三條 凡夫妻ヲ  
毆テ死ニ至ル者ハ絞改テ懲

スハ重キニ過リ故ニ其情状ヲ酌量シ改定律例第百二十  
二条門人ヲ殺スニ後ニ子ヲ下シテ理直ナル者ヲ以テ  
論シ懲役十年

○静岡縣伺 七年第九十五号指令

毆傷妻妾律ハ則及處重キ律ナレハ折傷以上ニ非ナレ  
ハ勿論若シ捕込番人等其場ニ立入りタル片ハ止テ鎮靜  
救済シテ聞クヘシ

○青森縣伺

夫無罪ナル妻ヲ殺テ後死ニ至ルモノ、告誡方向  
指令十年十月一日 伺ノ趣折傷以上死ニ至ラサル者ハ  
妻ノ親告テ待テ罪ニ至スト虽モ死ニ至ル者ハ親告スル  
ヲ待タス全ク毆傷ニ因テ死ニ至ス事実確明ナルニ於テ  
ハ律ノ通処分スヘシ

○滋賀縣伺 七年第三十五号

毆三等親以下尊長條中五等親尊長ノ儀ハ不相見候モ  
傷重キ中夫ノ父母ヲ殺ツ者ハ杖九十ニ至ラテ其外  
不相見候モ、子姑ノ子ヲ殺スルノ罪ハ年令ニ依リ等  
ノ罪別無之教  
指令 伺ノ通

○新治裁判所伺 七年第七十七号

再從弟再從元ト互ニ折傷ツカハ律ニ依リ從弟ハ懲役百

凡人ニ二等ヲ減ス妻ノ親ヲ  
告ルヲ待テ乃坐ス死ニ至ル  
者ハ絞殺スル者モ罪同  
子毆ツニ折傷以上ハ妻ヲ毆  
傷スルニ二等ヲ減ス死ニ至  
ル者ハ流一等  
若シ妻妾ヲ毆傷スルハ夫妻  
ヲ毆傷スルト罪同妻ノ親ヲ  
告ルヲ待テ乃坐ス過矢殺ス  
ル者ハ各論スルヲ勿レ  
若シ夫妻ノ父母ヲ毆ツ者ハ  
杖九十折傷以上ハ各凡關傷  
ニ一等ヲ加ヘ篤疾ハ絞死ニ  
至ル者ハ斬殺スル者モ罪  
同

役終身其故殺スル者ハ絞若  
シ夫妻ノ父母ヲ毆ツ篤疾及  
口死ニ至ル者ハ絞斬ニ處ス  
ル律ヲ改メ懲役終身其故殺  
スル者ハ斬

○毆三等親以下尊長條例

第二百二十四條 凡卑幼三  
等親ノ尊長ヲ毆ツ篤疾ハ絞  
改テ懲役終身死ニ至ル者ハ  
斬改テ絞其故殺スル者ハ斬

○山形縣伺 八年第二十七号

指令ハ從父等ヨリ從父兄ヲ殺ツ片ハ三等親ノ尊長ヲ毆  
ツ律ニ依リ懲役一年半又ハ同等ノ親ナルヲ以テ凡毆ツ  
以テ論スヘキ哉  
指令 三等親ノ尊長ヲ殺ツ律ニ依ル

○靜岡裁判所伺

例第百二十四條凡卑幼三等親ノ尊長ヲ殺テ云々特ニ  
三等親トノ有之モ原律毆三等親以下尊長條例タレハ  
四等親ノ尊長モ無論適用スヘキ條ト心得可然哉  
指令十年九月十九日 伺ノ通

○大分縣伺 七年第二十七号指令

一等親以下ノ尊長ヲ殺ツ者  
親ヲ告ルヲ待ツノ限ニ非ス  
○山重裁判所伺 指令錄刑  
第三十二号  
茲ニ子孫嫡出ノ子ヲ云フ父  
祖ノ妾ヲ殺ツ者アリ云々ニ  
等親ノ尊長ヲ殺ツ以テ論  
セシ律ヲ凡人ヲ以テ論ス  
ヘキ事  
指令 凡人ヲ殺ツヲ以テ論  
スヘシ

在ルハハ重故殺スル者モ罪  
同  
若シ尊長卑幼ヲ毆ツハ折傷  
ニ非ルハ論スルヲ勿レ折傷  
以上ハ五等親ノ卑幼ハ凡人  
ニ一等ヲ減シ四等三等親ハ  
各一等ヲ減減ス死ニ至ル者  
ハ絞殺スル者モ罪同

若シ尊長三等親以下ノ卑幼  
ヲ毆ツ死ニ至ル者ハ絞亦改  
テ懲役終身其故殺スル者ハ  
絞  
第二百二十五條 凡卑幼三  
等親以下ノ尊長ヲ過矢殺傷  
スル者ハ並ニ凡人過矢殺傷  
ヲ以テ論シ收贖スルヲ聽  
ス

○毆二等親尊長條例

第二百二十六條 凡卑幼二  
等親ノ尊長及ヒ外祖父母ヲ  
過矢殺傷スル者ハ各水殺傷  
罪ニ二等ヲ減スル律ヲ改メ  
殺ス者ハ懲役二年傷スル者  
ハ懲役百日並ニ收贖スルヲ  
聽サス  
第二百二十七條 凡弟妹兄  
姉ヲ毆ツ篤疾ニ至ル者ハ絞  
改テ懲役終身死ニ至ル者ハ

毆三等親尊長 ○毆二等親尊長

新律細領 ○關毆律 五

改定律例 ○關毆律

○大分縣同 七年二月五日指令  
一等親以下ノ尊長ヲ殺シ者視カラ告ルヲ付ツルニテ  
ラス

○新潟縣同 七年五月五日指令  
越後國津原郡加茂町成以渡邊山登マツヨリ最野味吉  
ハ從來放蕩者ニテ本年一月大醉亂暴シ私ハ對シテ流ノ  
振等ニ及シ節制人ノカニ依リ一五ハ鎮靜スト雖モ以テ  
暴暴ヲ恐レ打殺サント存シ三男凶殺四男平殺ノ差止  
ルヲ認メテ以テ所ナシニ首筋ヲ打テ絶命セテ止  
兩人ニ命シ細繩ヲ以テ尚ホ首ヲシメテ至日兩人ニ申  
付捕縛源助ヲ斬リ死屍ヲ取捨セテ檢シ  
指令 門政律殺祖父母父母孫子孫ヲ殺スル者懲役三  
年マツ 故親ストモ認カス母ノ威命ニ違ヒテ殺シ  
縮スルハ死屍ニ係ル故ニ雖犯律不應爲重ニ問ヒ各懲役  
七十日 渡邊山登同平殺

○廣島縣同 七年第四百二十二号  
祖父母母ヲ殺スル者ハ懲役三年傷スル者ハ懲役  
一年トアリト雖モ過失ニテ殺シ傷ヲ成サレ者ノ利名  
律例上不相見候間無罪ニテ然ルヘクヤ

其過失殺傷ハ必者ハ各本條 傷罪ニ三等ヲ減シ收贖スル ヲ聽サス	若シ兄弟姉妹ヲ殺殺シ伯叔 父姑姪ヲ殺殺シ外祖父母外 孫ヲ殺殺スル者ハ徒三年故 殺スル者ハ流二等過失殺ス ル者ハ各論スルヲ勿レ	○殺祖父母父母 凡子孫祖父母父母ヲ殺及 ヒ妻妾夫ノ祖父母父母ヲ殺 ツ者ハ皆斬殺ス者ハ皆最過 失殺スル者ハ流三等傷スル 者ハ徒三年並ニ收贖ヲ聽サ ス若シ子孫ヲ殺殺スル者ハ 徒三年痛母ノ殺スル者ハ 加ヘ總母ハ流三等 其子孫祖父母父母ヲ殺罵シ 若クハ故令ニ違犯シテ祖父 母父母督責シ邂逅ニ死ニ致	皆斬殺テ皆絞若シ姪伯叔父 姑ヲ殺及ヒ外孫外祖父母 ヲ殺チ篤疾及ヒ死ニ至ル者 罪亦同
	○殺祖父母父母條例 第二百二十八條 凡子孫祖 父母父母ヲ殺及ヒ妻妾夫ノ 祖父母父母ヲ殺ツ律ヲ改メ 殺ツ者ハ懲役十年傷スル者 ハ懲役終身死ニ至ル者ハ皆 斬殺スル者ハ皆絞殺スル者 ハ懲役一年並ニ收贖スルヲ ヲ聽サス	第二百二十九條 凡總母前 妻ノ子ヲ非理ニ殺打シテ所	

指令 傷ヲ成サレ者ハ不問ニ置リ  
○大分縣同  
前署白晝飲酒駭動スルハ不心得ナリト督責セシヨリ至  
倫ヲ生シ母并妹ヲ以テ某甲ニ殺合ケ某甲亦茶碗ヲ母ニ  
殺合ケ中ラ尚魚輪ノ後母ハ鐵ヲ擲ヘ登桑ノ車ヲナサ  
ントスルニ甲亦ハ干強スヘクト隱宅ニ赴カントス母ハ  
甲某ノ干強セントスルヲ憤リ擲テ所ノ鐵ヲ甲某ニ殺合  
ケ中ラ某甲某其鐵ヲ拾取リ殺合ケヘクト擲言スルヲ  
母之ヲ取還サントテ立掛リ甲某ハ渡スマシト右鐵ヲ互  
ニ拵合フ餘不圍母ノ左手ヲ第ケ出血ス甲某ハ母ノ疵ヲ  
要シ看護シ終四日ヲ終テ死去スル者ト同  
指令 十一月二日 同ノ改正律例第百二十八條  
子孫祖父母母ヲ殺スル者ニ至ル者ニ後ヲ論レ酌減シテ  
罪ヲ科スル候ト心得ヘシ

シ及ヒ過失殺スル者ハ各論 スルヲ勿レ	○妻妾與夫親屬相殺 凡妻妾夫ノ二等親以下四等 親以上ノ尊長ヲ殺ツ者ハ夫 ノ殺ツト同罪罪流三等ニ止 ル死ニ至ル者ハ各斬殺ス ル者モ罪同	若シ妻夫ノ三等親以下ノ卑 屬ヲ殺傷スルハ夫ノ殺ツト 罪同妾ノ犯スハ凡關ヲ以テ 論ス	○父祖被殺 凡祖父母父母人ニ殺ツレ子 孫即時ニ殺殺シテ還ツテ行	傷以上ニ至ル者ハ凡關傷ニ 二等ヲ減シ死ニ至ル者ハ懲 役七年	第二百三十條 凡子孫故令 ニ違犯スト雖モ祖父母父母 非理ニ殺殺スル者ハ懲役二 年半	妻妾與夫親屬相殺條例 第二百三十一條 凡妻妾夫 ノ二等親以下四等親以上ノ 尊長ヲ殺チ死ニ至ル者ハ各 斬殺テ絞其故殺スル者ハ斬
新律綱領○關殺律	改定律例○關殺律	○父祖被殺條例 第二百三十二條 凡祖父母 父母人ニ殺サレ子孫擲ニ行				

○要法  
問 子孫擲ニ行尤人ヲ殺ス  
モノハ誅殺ヲ以テ論スルハ  
如何ノ法言ナルヤ  
答 御維新以來後誅ヲ禁セ

ラハノ公布アリ之レ此法  
ノ被テアルヲ以ニシテ則チ  
私裁ヲ以テ司法ノ公權ヲ犯  
スモノハ懲罰スルノ法章ナ  
リ

○法官懲罰  
法官懲罰ノ人ハ官ハ一十トアリ若シ兩人罰メニ一人  
從者ナレハ一等ヲ減シ若シ數無之云々  
七年二月十四日指令 首途ヲ別テス罪ヲ科ス  
三重縣伺 七年十一月二十日指令  
寫留セラルシ者私和シテ止ムハ之ヲ聽ス既ニ官ニ奏ス  
ル後ハ若シ私和ト同一ニ者減スヘカラス

○滋賀縣伺  
七年三月二十五日  
戸長ヲ罰留スルハ凡人ニ一等ヲ加フル其後該戸長五  
等親ノ卑幼ニ被ルハ凡人ニ一等ヲ減ス儀ナレト戸長  
數ノ重キヲ以テ論シ候哉

○水沢縣伺  
七年四月十九日  
指令 等外吏ヲ罰留ル者ハ區戸長ヲ罰留ト同シ  
○司法省伺  
八年第九十八号  
御指令 公券ニ服スル兵卒ヲ罰留ル者ハ巡査ヲ罰留ル律ニ  
照シテ處斷可致事  
○廣島縣伺  
廿二鎮査察院ニ在テ門前ニ番共アリ然レニ一人ノ士族  
大醉ニテ其前ヲ過ル折衝番共ニ向ヒ暴言ヲ吐ク者アリ  
是等ハ違卒ト同ク凡人罰留ニ二等ヲ加ヘ可然哉 右ノ  
外番共ニ非スシテ日曜日休職等ニテ途上未往ノ兵卒ニ  
向ヒ暴言ヲ吐ク者アラハ如何  
七年四月十四日指令 兩条共凡人罰留ヲ以テ論ス加手  
スルノ限ニアラス

○山梨縣伺  
指令十年二月六日 一旦人ノ醫學ヲ習スヘキトテ紙上  
ニ掲載セシレハ正誤ヲ出ストモ其罪問ハナル可カラ  
ナル儀ト心得ヘシ  
○静岡裁判所伺  
指令十年八月廿二日 議院律ハ別種ノ律例ニシテ常律  
ト推衡比較スル能ハス官吏老幼廢疾者トモモ仍ホ禁  
獄罰金ニ違スル儀ト心得ヘシ  
○山梨縣伺  
議院律第七條ニ若シ議院ヲ受ル率利法ニ觸ル者云々  
トアリ若シ官吏其職務上ニ觸ル率利法ニ觸ル者云々  
ルヲ以其罪ヲ治シテ罰スルニ非ズ其罪果シテ職務  
上ノ失錯過誤ニ出慈或ハ処分ヲ受ルニ至ル時ハ刑法ニ  
觸ル者ト等數論致者ノ罪ヲ論ヒシテ可然哉  
指令十年十二月十三日 何ノ越察戒例ハ刑法ト同視ス

○山梨縣伺  
指令十年十二月十三日 何ノ越察戒例ハ刑法ト同視ス

凡人ヲ毆ツハ折傷ニ非ルハ  
論スルヲ勿レ折傷以上ハ凡  
闘傷ニ三等ヲ減ス死ニ至ル  
者ハ流三等若シ祖父父母母  
人ニ殺サレテ孫祖父母父母  
ヲ殺ス者ハ各廿五上其即時ニ  
殺死シ及ヒ官ニ告ル者  
ハ論スルヲ勿レ

○  
凡人ヲ毆ル者ハ各廿五ニ  
相罵ル者ハ各廿五  
○  
凡吏卒軍民水屬ノ勅任長官  
ヲ罵ル者ハ徒一年奏任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官

○  
凡吏卒軍民水屬ノ勅任長官  
ヲ罵ル者ハ徒一年奏任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官

○  
凡吏卒軍民水屬ノ勅任長官  
ヲ罵ル者ハ徒一年奏任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官

○  
凡吏卒軍民水屬ノ勅任長官  
ヲ罵ル者ハ徒一年奏任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官

○  
凡吏卒軍民水屬ノ勅任長官  
ヲ罵ル者ハ徒一年奏任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官

○  
凡吏卒軍民水屬ノ勅任長官  
ヲ罵ル者ハ徒一年奏任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官  
ヲ罵ル者ハ杖九十判任長官

凡人○罵官吏○議院律

新律頒領○罵官律

改定律例○罵官律





○第六百四十四号  
 呼味額又ハ許訟等ニテ審理中何事不服ハ廢不申立私  
 撰ニ本貫及ヒ御宿ヲ脱シ御省又ハ他ノ裁判所ニ控訴シ  
 候者ハ違式輕重ニ問ヒ処分シ可然哉  
 指今 伺ノ通 但シ此十日後ヲ過レハ違令重ニ問フ

訴訟律	訴訟律
〔越訴〕	
凡吏卒軍民詞訟スルニ本管ノ官司ニ由ラスシテ輒ク上ノ官司ニ越訴スル者ハ實ナ得ルト雖モ答三十本管ノ官司受理セズ及ヒ枉斷スル者ハ上司ニ陳告スルヲ許ス 若シ理國ニ文書ヲ投シ事ヲ申訴シテ實ナラサル者ハ杖七十事重キ者ハ誣告律ニ依テ論ス實ナ得ル者ハ罪ヲ免ス 承告不理 凡人命及ヒ強盜等ヲ告ルニ官司即時ニ受理セサル者ハ杖七十關殿管田宅等ノ事ハ各犯人ノ罪ニ等テ減シ並ニ罪杖七十二正ル財ヲ受	六年八月十二日第百九十八号御布告 訴訟律内越訴條條止候條此旨布告候事 但各裁判所及ヒ地方官ノ裁判ニ服セサルヲアリテ上告セントスル者ハ司法省布達壬申第四十六号本年世三号ノ通可相心得事

○新治裁判所 七年第百三十二号 已ノ姓名ヲ隱匿シ止テ都村等ノ名ヲ題シタル文書官吏ノ門内ニ投シ或ハ郵便函等ニ投入シテ人ノ罪ヲ告ル者ニ依テ方問 ○滋賀縣 七年第百二十六号 諸罰則ヲ犯スト誣告スル者及至処分方問 誣告者ニ照シ告人ニ及至スルニ諸罰則ノ罰金ヲ以テスヘシ ○大分縣 七年第百八十八号 越訴○承告不理○聽訟回避○誣告	要義 問 犯人ヲ捕獲シ審問ノ除證悉全備セサルヨリ証人トシテ喚問スルノ人真正ノ者ヲ証セサルノミナラス都テ証行フタル場合ノ如キモ誣告ノ罪アリトシテ本條ニ擬スルヤ 答 本條ヲ以テ其罪ヲ斷セズ獄囚捕獲罪人律ニ依ル共文ニ曰ク若シ四ノ細シテ証人ノ人実情ヲ言ハス欲ラニ証行フモノハ罪人ノ罪ニ等テ減ストアルヲ以テナリ
ケテ受理セサル者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス 聽訟回避 凡官吏許訟人ト親族若クハ師弟及ヒ離隙アル者ハ並ニ回避スルヲ聽入違フ者ハ罪ニ増減無シト雖モ答二十若シ増減アル者ハ故出入人罪ヲ以テ論ス 誣告 凡人ヲ誣告スル者ハ罪ノ輕重ニ從ヒ已ニ決配シ未タ決配セサルヲ問ハス告人ヲ反坐ス死罪ニ誣告シテ未タ處決セサル者ハ一等ヲ減ス 若シ二事以上ヲ告ルニ重事ハ實ニシテ輕事ハ虛及ヒ數事ヲ告テ罪等キニ一事實ナル者ハ並ニ誣告ノ罪ヲ免ス	第二百二十九條 凡收贖贖罪ニ該ル罪ヲ以テ人ヲ誣告スル者ハ即チ收贖贖罪ニ反坐ス若シ已ノ罪ヲ避クテ規リ人ヲ誣告スル者ハ原罪收贖贖罪ニ該ルト雖モ反坐ノ罪贖フヲ聽サス婦女ノ犯ス者モ亦此例ニ依ル

越訴○承告不理○聽訟回避○誣告

新律綱領○訴訟律 一

收定律例○訴訟律

五号指令  
何品数ナリ証ト報告スル上ハ現品ナレトモ証書ノ  
口供ヲ審明シ評價入ニ估計セシメテ及坐ノ罪名ヲ定ム  
ル

○埼玉裁判所 七年第百八号  
被ニ平民等内外吏ヲ誣告スルアリ其証ハ所ノ罪ハ一應  
ノ枉罪ニシテ官吏ニ於テハ例ニ照シ贖罪若クハ一年以  
上禁獄ヲ以テ科斷ス一キニ該ルトモ今告入ヲ及坐ス  
ルハ例第百九条第一節云々スル所ヲ以テ擬セス本  
罪實所シ可然也

○福島縣 八年第四十一号  
被ニ六十餘ノ一人アリ強盜ノ其室ニ侵入スルニ違  
フ面ヲ掩テ來ルト臣モ衣服ヲ奪取ク知ル所其性ニ似ル  
ヲ以テ分毫疑ナク容レテ強盜ハ其性ナリト官ニ告テ官  
之ヲ審訊スルニ決シテ其性ニ非ル証得之ヲ告テ官  
者ニ問フ詭告者始テ倉卒認テ罪ヲ免ル何  
指令 不應為輕重ニ問セ贖罪ニ  
○弘前裁判所 七年第百九号  
被ニ士族ニシテ平民ヲ強盜ニ誣告シ財ヲ欺シト欲スル  
者アリ右ハ強盜ニ依リ未決ニ夫ヲ問ハス告人ヲ及坐  
スルハ勿論ニ強盜ニシテハ盜罪ニシテ誣告者  
本族ナレハ則テ及坐スルニ除族ノ上本刑ヲ加フル事  
或ハ罰金ニ及スルニキキ  
指令 十一月廿一日 除族ノ上及坐ノ本刑ヲ科ス可  
キ

○埼玉裁判所 七年第百九号  
妻ニ夫ニ欺打セラレテ告訴ス  
ル者折場以上ニ非ヤレハ仍  
ホ千名起義ヲ以テ科シ夫ハ  
罪ヲ論セス折場以上ノ者

若シ二事以上ヲ告ルニ輕事  
ハ實ニシテ重事ハ虛或ハ一  
事ヲ告ルニ輕ヲ誣テ重ト爲  
ス者ハ並ニ糾ル所ニ反坐ス  
其二人以上ヲ告ルニ但ク一  
人實ナラサル者アレハ罪輕  
シト雖モ猶ホ其罪ニ反坐ス  
若シ上書シテ人ヲ告ルニ已  
ニ奏聞シテ事實ナラサル者  
反坐ノ罪徒三年ニ及ハサル  
者ハ上書詐不以實律ニ依テ  
論ス  
若シ獄囚已ニ伏罪シテ密狂  
ナキニ囚ノ親屬告訴スル者  
ハ囚ノ罪ニ三等ヲ減ス罪杖  
一百ニ止ル

千名起義條例  
第二百四十條 凡子孫祖父  
母父母ヲ誣告シ妻及夫及ヒ  
夫ノ祖父父母ヲ誣告スル

夫ハ嚴密ニ依リ罪ヲ  
科シ妻亦ハ千名起義ノ限ニ  
非ヤレハ仍ホ千名起義ヲ以  
テ科シ夫ハ罪ヲ論セス折場以  
上ノ者折場以上ノ者  
○埼玉縣 九年第九号  
誣告者入ヲ誣告スル者ハ罪ノ輕重ニ從ヒ已ニ決罪シ不  
決罪セサルヲ問ハス告人ヲ及坐スル本式千名起義ニ依  
ルモ已決罪ト決罪ニ依リ區分無之  
指令 誣告ノ千名起義ニ依リモ已決罪ニ依リテ告人  
ヲ及坐スル

○滋賀縣 九年第九号  
誣告者入ヲ誣告スル者ハ罪ノ輕重ニ從ヒ已ニ決罪シ不  
決罪セサルヲ問ハス告人ヲ及坐スル本式千名起義ニ依  
ルモ已決罪ト決罪ニ依リ區分無之  
指令 誣告ノ千名起義ニ依リモ已決罪ニ依リテ告人  
ヲ及坐スル

二年半誣告スル者ハ絞若シ  
二等親ノ尊長及ヒ外祖父母  
ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ  
杖九十三等親ノ尊長ハ杖八  
十四等親ノ尊長ハ杖七十妻  
ノ父母ハ杖六十其告ラルハ  
二等三等親ノ尊長及ヒ外祖  
父母若クハ妻ノ父母ハ並ニ  
自首ニ同ク罪ヲ免入四等親  
ノ尊長ハ本罪ニ三等ヲ減入  
若シ誣告ノ罪重キ者ハ各該  
ル罪ノ罪ニ三等ヲ加ヘ罪流  
三等ニ止ル  
其嫡祖母所生母其父ヲ殺シ  
及ヒ養父母其所生父母ヲ殺  
シ若クハ二等親以下ノ尊長  
ニ財産ヲ侵奪セラレ或ハ其  
身ヲ毀傷セラレテ卑幼ノ自  
訴ス可キ者ハ並ニ告ルヲ聽  
シ告ラル者ハ各本律ニ依

若ハ絞ニ處スル律ヲ改メ懲  
役終身

千名起義

新律綱領 ○誣告律 二

改定律例 ○誣告律

テ之ヲ糾ス干名犯義ノ限ニ在ラス卑幼ノ告ラルモ亦同  
 若シ卑幼ヲ告ケ實ヲ得ル者  
 二等三等親ノ卑幼及ヒ女希モ亦自首ニ同ク罪ヲ免ス四  
 等五等親ノ卑幼ハ本罪ニ三等ヲ減ス誣告スル者二等親ノ尊長ハ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減シ三等親ノ尊長ハ二等ヲ減シ四等五等親ノ尊長ハ一等ヲ減ス  
 若シ夫妻ヲ誣告シ及ヒ妻妾ヲ誣告スルモ亦誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減ス  
 若シ奴婢家長ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ杖九十誣告スル者ハ絞屍人家長ヲ告ル者ハ杖六十誣告スル者ハ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ加ヘ罪流三

テ之ヲ糾ス干名犯義ノ限ニ在ラス卑幼ノ告ラルモ亦同  
 若シ卑幼ヲ告ケ實ヲ得ル者  
 二等三等親ノ卑幼及ヒ女希モ亦自首ニ同ク罪ヲ免ス四  
 等五等親ノ卑幼ハ本罪ニ三等ヲ減ス誣告スル者二等親ノ尊長ハ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減シ三等親ノ尊長ハ二等ヲ減シ四等五等親ノ尊長ハ一等ヲ減ス  
 若シ夫妻ヲ誣告シ及ヒ妻妾ヲ誣告スルモ亦誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減ス  
 若シ奴婢家長ヲ告ル者ハ實ヲ得ルト雖モ杖九十誣告スル者ハ絞屍人家長ヲ告ル者ハ杖六十誣告スル者ハ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ加ヘ罪流三

子孫違教條例  
 第二百四十一條 凡祖父父母老疾シテ家ニ侍養ノ親ナキニ故ラニ棄サル者ハ懲役二年

○改定條例  
 七年七月九日指令  
 父母ヨリ其子孫ノ不良ヲ憂ヒ懲戒ノ爲メ一時懲治監ニ入レンコトヲ情願スレハ即チ終スベシ若シ官ヨリ其不良ノ事ヲ指シ違教私擅用財等ノ罪ニ及スルモ自首ト者懲シ不問ニ置クモ其罪ヲ告発スル者ハ七限ニ在ラス

○改定條例  
 七年七月九日指令  
 父母ヨリ其子孫ノ不良ヲ憂ヒ懲戒ノ爲メ一時懲治監ニ入レンコトヲ情願スレハ即チ終スベシ若シ官ヨリ其不良ノ事ヲ指シ違教私擅用財等ノ罪ニ及スルモ自首ト者懲シ不問ニ置クモ其罪ヲ告発スル者ハ七限ニ在ラス

等ニ止ル  
 其祖父父母外祖父母子孫外孫ヲ誣告スル者ハ論スル  
 一勿レ  
 若シ家長奴婢家人ヲ誣告スル者ハ並ニ誣ル所ノ罪ニ三等ヲ減ス  
 子孫違教  
 凡子孫祖父父母ノ教令ニ違犯シ及ヒ奉養缺クルト有ル者ハ杖一百祖父父母ノ親ヲ告ルナ侍元乃坐入  
 教唆詞訟  
 凡詞訟ヲ教唆シ及ヒ人ノ爲ニ詞狀ヲ作り情罪ヲ増減シテ人ヲ誣告スル者ハ犯人ト同罪罪流三等ニ止ル  
 若シ應テ受ケ人ヲ誣告スル者ハ自ラ誣告スルト罪同罪ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ枉法ヲ

子孫違教條例  
 第二百四十一條 凡祖父父母老疾シテ家ニ侍養ノ親ナキニ故ラニ棄サル者ハ懲役二年

子孫違教○教唆詞訟○官吏詞訟

新律綱領○詞訟律

改定條例○詞訟律

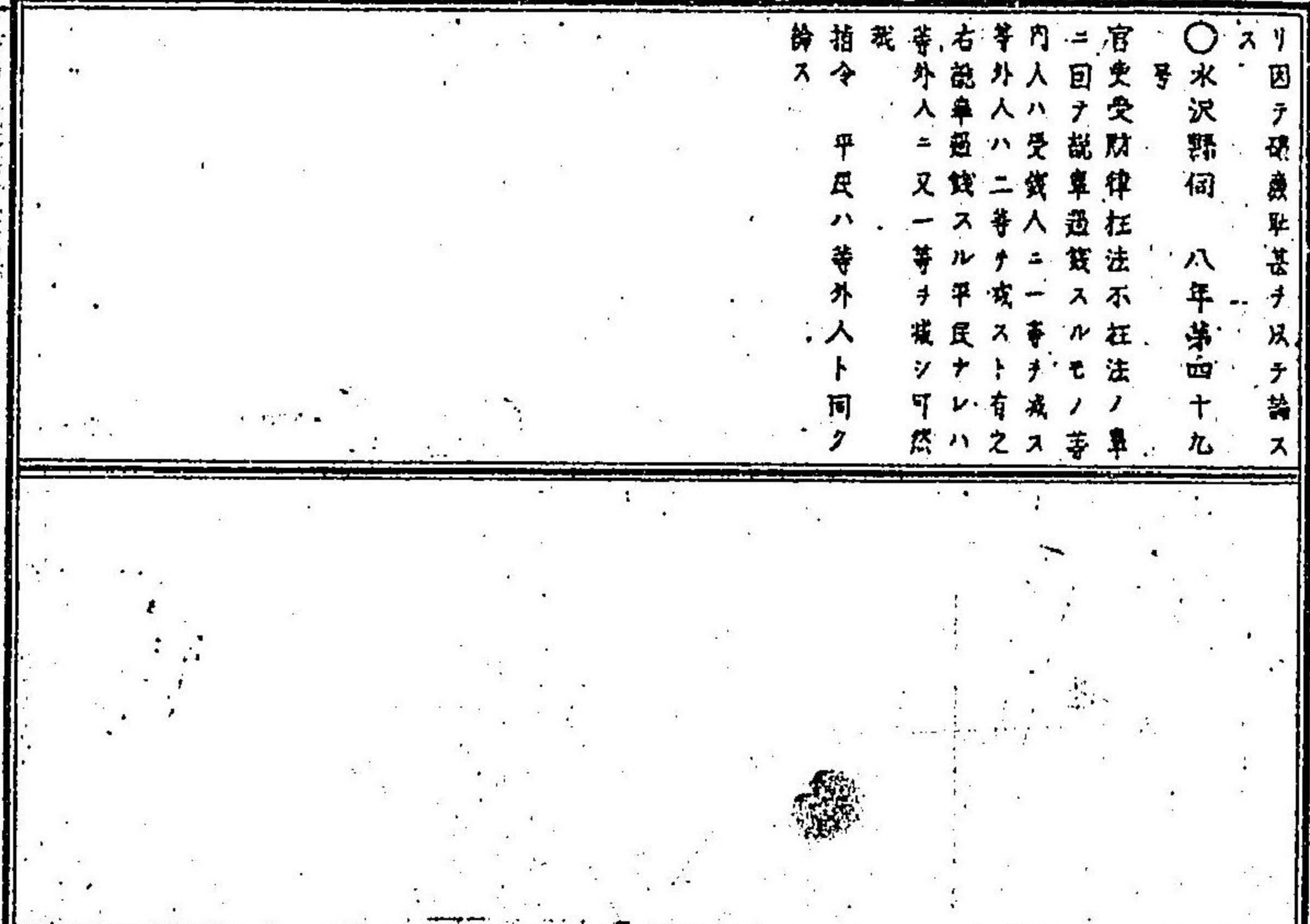
○足柄裁判所何 八年第三十八号  
 折込律官吏指款条ナホホルニ官吏ニシテ官相候儀云々  
 ハ宜シク家人及ヒ代人ナシテ官給スヘキ義ニ付區ノ長  
 及教導候等徳ヲ官吏ニ惟候者ハ同動相心得可然候  
 指令 何ノ違

○京都裁判所何 七年十月  
 二十八日指令  
 七律圖ニ不枉法ハ窃盗ト罪  
 同シトアルハ止メ其罪ナク  
 等スル法竊盗人罪ト同シク  
 節次合算シ罪ヲ從セテ罪ナ  
 給スル同シト云フニテ名  
 別構同罪条ノ罪同シト異ナ

以テ重キニ從テ論ス  
 其人ノ愚ニシテ冤枉ヲ伸ル  
 丁能ハサルヲ見テ教令スル  
 ニ實ナ得及ヒ人ノ爲ニ詞狀  
 ナ書寫シテ罪ニ増減ナキ者  
 ハ論スル丁勿レ  
 官吏詞訟  
 凡官吏婚姻錢儀田宅等ノ事  
 ナ事論スル丁百レハ家人ナ  
 シテ官ニ告ケ對理ヒシムル  
 丁ヲ聽ス官吏自ラ公文ヲ以  
 テ行移スル丁許サス違フ  
 者ハ答三十  
 受賂律  
 官吏受賂  
 凡官吏枉法不枉法ノ事ニ因  
 テ財ヲ受ル者ハ贖ニ計ヘ之  
 ナ料ス等外人ハ各一等ヲ減  
 ス

受賂律  
 官吏受賂條例  
 第二百四十二條 凡官吏枉  
 法贖ヲ受ル者等内人ハ二百  
 五十圓以上等外人ハ三百圓  
 以上絞ニ處シ及ヒ不枉法贖

○水沢縣何 八年第四十九  
 号  
 官吏受賂律枉法不枉法ノ事  
 ニ因テ罪算過算スルモ等  
 内人ハ受賂人ニ一等ヲ減ス  
 等外人ハ二等ヲ減スト有之  
 右說畢過算スル平民ナレハ  
 等外人ニ又一等ヲ減シ可然  
 指令 平民ハ等外人ト同ク  
 論ス



若シ說畢過算スル者等内人 ハ錢ヲ受ル人ニ一等ヲ減ス 等外人ハ二等ヲ減ス罪徒一 年年止ル若シ別ニ財ヲ受 ル者ハ枉法不枉法贖ニ計ヘ 重キニ從テ論ス 枉法ノ贖各至アル者過算シ テ全科ス	一兩以下杖六十
一兩以上杖七十	
一十兩以上杖八十	
二十兩以上杖九十	
三十兩以上杖一百	
四十兩以上徒一年	
五十兩以上徒一年半	
六十兩以上徒二年	
七十兩以上徒二年半	
八十兩以上徒三年	
九十兩以上流一等	
一百兩以上流二等	

等内人ハ三百圓以上絞ニ處  
 スル律ヲ改メ並ニ懲役終身  
 六年七月廿日第百六十号  
 凡枉法不枉法ヲ以テ論シ及  
 ヒ准シテ論スル罪平民ハ等  
 外人ト同ク罪ヲ科ス

官吏受賂

新律綱領 ○受賂律

改定律例 ○受賂律

○頂松縣伺  
 爰ニ甲乙丙ノ三八アリ甲謀ノ布令ニ持リ私ニ演劇ナ  
 スニ乙丙之ヲ軍ヲ其場ニ行キ縣ノ許可ヲ控ルノ有無等  
 ナ間フ甲之ヲ控レ乙ヲ換ク丙ハ金若干ヲ屬リ口大止ム  
 其甲ハ違式懸キニ間ヒ懸銭スル乙ハ本俸與フルモノト  
 同ク論シ去々伺  
 六年八月廿三日 拮令 甲縣應ノ布令ニ違ヒ演劇チナス  
 ハ違式ニ間ヒ財ヲ與フルハ坐監ニ依リ重キニ從テ論ス  
 乙ノ懸銭スルハ從事懸銭ニ從シテ論ス丙ノ財ヲ受ルハ  
 枉法ニ從シテ論ス

一百一十兩以上流三等	二百五十兩以上	等外人ハ三百兩以上	不枉法ノ贓各主アル者通算シテ全科ス	一兩以下答五十	一兩以上杖六十	一十兩以上杖七十	二十兩以上杖八十	三十兩以上杖九十	四十兩以上杖一百	五十兩以上徒一年	六十兩以上徒一年半	七十兩以上徒二年	八十兩以上徒二年半	九十兩以上徒三年	一百兩以上流一等	一百一十兩以上流二等	一百二十兩以上流三等	三百兩以上
------------	---------	-----------	-------------------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	------------	------------	-------

○頂松縣伺  
 爰ニ甲乙丙ノ三八アリ甲謀ノ布令ニ持リ私ニ演劇ナ  
 スニ乙丙之ヲ軍ヲ其場ニ行キ縣ノ許可ヲ控ルノ有無等  
 ナ間フ甲之ヲ控レ乙ヲ換ク丙ハ金若干ヲ屬リ口大止ム  
 其甲ハ違式懸キニ間ヒ懸銭スル乙ハ本俸與フルモノト  
 同ク論シ去々伺  
 六年八月廿三日 拮令 甲縣應ノ布令ニ違ヒ演劇チナス  
 ハ違式ニ間ヒ財ヲ與フルハ坐監ニ依リ重キニ從テ論ス  
 乙ノ懸銭スルハ從事懸銭ニ從シテ論ス丙ノ財ヲ受ルハ  
 枉法ニ從シテ論ス

等外人ハ三百兩以上	罪ニ致ス者ハ通算シテ罪ヲ科ス與ル者ハ五等ヲ減ス	五兩以下答一十	五兩以上答二十	二十兩以上答三十	四十兩以上答四十	六十兩以上答五十	八十兩以上杖六十	一百兩以上杖七十	一百二十兩以上杖八十	一百四十兩以上杖九十	一百六十兩以上杖一百	二百兩以上徒一年	四百兩以上徒一年半	六百兩以上徒二年
-----------	-------------------------	---------	---------	----------	----------	----------	----------	----------	------------	------------	------------	----------	-----------	----------

坐贓致罪

新律綱領 ○受贓律

改定律例 ○受贓律

〇受知罪何  
本条枉法不在法ノ其ニ依リ財ヲ受ルニ非スシテ賦シテ生  
シ罪ニ就ス者ハ返本ノ罪ナリトナシテハ其ノ罪ハ五等ナリ  
スト右之說事過伐ノ条ナシト云ハ枉法不在法ノ下ニ依リ  
就事過伐スル者ノ權衡ヲ以テ等内外ヲ分ナキ判處スヘキ  
ヤ將シ其事情ヲ量リ不爲公輕重ニ問ヒ別ニ財ヲ受レハ  
坐監ニ抵シ其ノ罪ト雖モ然ルモ然ルモ  
八年三月二十三日指令 坐監ノ說事過伐スル者ハ例第  
二百四十三条ニ照シ又一等ヲ減ス別ニ財ヲ受レハ何ノ  
罪並ニ贖ヲ減ス

〇置賜罪何  
詐欺欺騙等ニ依リ官吏ノ受理ヲ促サントシテ財物ヲ送  
ルニ官吏權存シテ受テサレトキハ其送ル者ハ可貴  
ニ処シ可然故  
七年八月十九日指令 財ヲ送ルノ罪ハ不問ニ置テ

〇置賜罪何  
枉法ノ事ニ非スト雖モ官吏ノ受理權ヲ乙ニ依リ  
乙爲ニ官吏ニ財物ヲ送ルト雖モ若シテ若キ金甲ヨリ取  
ル

八百兩以上徒二年半 一千兩以上徒三年	事後受財 凡官吏承行ノ事アリ先キニ 財ヲ送ルヲ聽許セズ事過 ルノ後財ヲ受テ事若シ枉 スル者ハ枉法ニ準シテ論ス 事枉斷セサル者ハ不枉法ニ 準シテ論ス並ニ罪流三等ニ 止ル錢ヲ出シ及ヒ過スルノ 人ハ並ニ杖七十	事後受財條例 第二百四十三條 凡官吏事 後財ヲ受ル者ハ本條ニ依リ 罪ヲ科スト雖モ其錢ヲ出シ 及ヒ過スルノ人ハ並ニ杖七 十二處スル律ヲ改メ坐監ニ 依テ論シ一等ヲ減シテ並ニ 罪懲役七十日止ル
-----------------------	---	--

以財請求條例  
第二百四十四條 凡枉法ノ  
從テ論ス

アア甲ハ例第二百四十四條ニ照シ坐監ニ依テ論シ一等  
ヲ減シ乙ハ例第百四十四條ニ依リ可然故  
七年八月十九日指令 何ノ處  
〇責務罪何  
安撫等以財請求凡諸人等アリ財ヲ以テ官吏ニ請求シ  
法ヲ枉ルヲ得ント欲スル者モハ官吏ノ受クル受テ  
リル時モ本條ニ照シテ論スヘキハ勿論ニ依テ其後  
レ再エントシテ官吏受テラサレバモモカニ則チ取  
與罪ニ和セサルノ罪ト雖モヘキニ付法官ノ限ニ非サ  
ルモ  
九年二月十七日指令 何ノ處

〇岩手縣何  
諸人官ニ申請スルノアアルニ當該官吏カ還留難シテ財  
物ヲ索スルモハ官吏求借財物條中強テ用ヒテ求索  
スル者ハ枉法ニ準シテ論スト云ニ此條條中強テ用ヒテ求索  
未クキニ入テサレモハ應許財物條ニ未ダ持交セサル  
者ハ云々各一等ヲ減スト云フニ權衡ヲ取リ枉法罪一円  
以下懲役七十日ニ一等ヲ減シ同六十日ニ坐スヘキ故  
八年三月四日指令  
何ノ處本條ニ  
但シ監禁ニアラサル官吏ハ又一  
円八ニ又一等ヲ減ス

凡諸人等アリ財ヲ以テ官吏 ニ請求シ法ヲ枉ルヲ得 ト欲スル者ハ與フル所ノ財 ヲ計ヘ坐監ニ依テ論ス若シ 難ナキ者ハ重キ枉ル所ノ 罪重キ者ハ重キニ從テ論ス 若シ官吏カ還留難シテ歸結 ナ與ヘス及ヒ強テ用ヒテ別 ニ事ヲ生シ逼抑シテ取 受スル者ハ錢ヲ出入ハ坐 監ニ抵ス	〇岩手縣何 此ニ詐稱官者ノ犯連未 覺セサルニ方テ他其詐稱者 ニ對シモモ其能知受理ヲ知 テ求スル者ヲ強テ用ヒテ其 詐稱タル所以ハ強テ用ヒテ 相稱タルニモハ向キニ他ヨリ 相稱タルニモハ向キニ他ヨリ 真官吏ト雖モ財物ヲ與ヘリ ルモ其者以テ詐稱ニ準シテ 二其者以テ詐稱ニ準シテ 〇岩手縣何 〇岩手縣何 本條ニ依リ財物ノ送付ニ 財物ヲ送ル者ハ例第百四 十四條ニ照シテ論ス
--	---

事後受財 ○聽許財物 ○以財請求 ○官吏求借

前律例 ○受賄律

改定律例 ○受賄律

○  
本律例第九十七條ト参照ス  
本者ノ部  
ハシ

ヲ受テ及ヒ求索借貸スル者  
ハ各在官ノ時ニ三等ヲ減ス  
家人求索  
凡監臨官吏ノ家人(奴僕)所部  
内ニ於テ財物ヲ取受シ及ヒ  
求索スル者ハ各監臨官吏ノ  
罪ニ二等ヲ減ス監臨ニアラ  
サル官吏ノ家人(奴僕)ハ又一  
等ヲ減ス若シ監臨官及ヒ官  
吏情ヲ知ル者ハ同罪罪流三  
等ニ止ル知ラサル者ハ坐セ  
ス  
因科斂  
凡官吏公斂ニ因テ擅ニ所部  
内ノ財物ヲ科斂スル者ハ已  
レニ入レスト雖モ皆五十贖  
重キ者ハ坐贖ヲ以テ論ス已  
レニ入ル者ハ贖ニ計ヘ枉  
法ヲ以テ論ス  
其公斂ニ因ルニ非スシテ所

○京都裁判所何 七年第百  
二十五号指令  
出戶長ノ送附状等ノ文書ニ

家人求索 ○因科斂 ○越留盜贓 ○受外國人餽送

部内ノ財物ヲ科斂シ已レニ  
入ル者ハ贖ニ計ヘ不在法  
ヲ以テ論ス若シ科斂シテ人  
ニ餽送スル者ハ已レニ入レ  
スト雖モ罪同  
越留盜贓  
凡巡捕官吏已ニ盜贓ヲ獲テ  
贓物ヲ越留シ官司ニ送ラサ  
ル者ハ皆三十已レニ入ル  
者ハ贖ニ計ヘ不在法ヲ以テ  
論ス  
受外國人餽送  
凡官吏人私ニ外國人ノ餽送  
ヲ受テ即時ニ官ニ告サル者  
ハ贖ニ計ヘ不在法ヲ以テ論  
ス  
詐偽律  
詐爲官文書

新律綱領 ○受贓律 四

受外國人餽送條例  
第二百四十五條 凡外國人  
ノ餽送スル飲食土宜等交際  
ノ禮ニ係リ互ニ相贈遺スル  
者ハ官ニ告ケスト雖モ以不  
枉法論ノ限ニ在ラス  
詐偽律  
詐爲官文書條例

改定律例 ○受贓律

偽印スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

○京師裁判所... 七年第百四十四号... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

○島根縣... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

○愛媛縣... 七年第百四十四号... 凡官ノ文書ヲ... 減スル者ハ...

Table with columns for '偽造官印' (Counterfeit Official Seal) and '改正偽造官印' (Revised Counterfeit Official Seal). Rows list various offenses and their corresponding penalties, such as imprisonment or fines.

詐偽官文書 ○對詔上書詔不以實 ○偽造官印

新律綱領 ○詐偽律

改定律例 ○詐偽律



第二百五十一條 偽造貨物  
二作ル者ト同シ論シ雖シ  
第二百五十二條 比擬シテ  
ナリトス

○大分縣 八年第五号  
及ニ丁銀ヲ偽造スル者アリ  
右ハ通貨ニ係ルモノナリ  
結本年第一号京師裁判所  
へ御指令ヲ送リシ金銀ノ器  
物ヲ偽造スル者ト見做シ其  
所得ノ利益ニ計ヘテ罰金  
ニ准シ可論矣其情ヲ知テ  
抵償ニ買取リ他ヲ詐偽シテ  
高利ヲ得ルモノモ猶罰金ニ  
准シ其得ル利益ノ原價ヲ  
引去リ全ク得ル利益ノ額  
ニ計ヘ可申哉

○茨城県 何  
警ハ貨幣條例中ニ記載有之  
古金銀ヲ偽造スルモノアリ  
此レ明治八年大政官第二  
二号公館ニ因レハ右田金銀  
ノ如キハ本年限引換方差  
サレ且ツ公柄ニ充ツル由  
ニシテ一般ノ流通セザル  
ナリ昔ノ通用セザル品ト  
雖モ先キニ通用ノ銀ナルヲ  
以テ尋常金銀ノ諸器ヲ買

使セサルハ罪ヲ免ス府藩縣  
通行ノ貨幣モ亦同シ

十一年一月十九日第二  
号御布告  
通用貨幣ヲ辨別シ又ハ  
其體面ヲ毀損スル等ハ  
他種ノ流通ノ用ヲ缺キ  
候所為一切不相成候事  
此旨布告候事

ル者首ハ斬改テ懲役終身從  
及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買  
使スル者懲役終身改テ懲役  
十年其雜役ニ供スル者ハ懲  
役十年改テ懲役七年  
偽造貨物條例  
第二百五十一條 凡金銀貨幣  
ノ邊縁ヲ剪錯シテ利ヲ取リ  
行使スル者ハ懲役三年  
第二百五十二條 凡紙幣ノ  
字樣ヲ刻シ成片ヲ神變シ  
筆跡ヲ描改シ真ナリテ偽  
作リ行使スル者ハ懲役五年  
第二百五十三條 凡偽造タ  
ルモノヲ知テ買取シ未タ行使  
セサル者ハ已買使者ニ一等  
ヲ減ス  
第二百五十四條 凡偽造ス  
ルノ情ヲ知テ房屋ヲ給シ及  
ヒ窩藏スル者ハ已未行使ヲ  
分テ並ニ偽造徒ヲ以テ論ス  
第二百五十五條 凡偽造ニ  
供スル者雇工錢ニ偽貨ヲ受  
ケ行使スル者ハ知情行使律  
ニ依ル  
第二百五十六條 凡偽造已  
ニ成リ未タ行使セスシテ情  
悟シ其夥黨ヲ脱スト雖モ首  
報セサル者ハ偽造已成未行  
使ヲ以テ論ス其偽造未タ成  
ラサル者ハ懲役百日  
第二百五十七條 凡人ノ寶  
貨ヲ偽造スルモノヲ知テ官司  
ニ申報セサル者ハ違令重ニ  
問フ  
第二百五十八條 凡寶貨ヲ

蓋シ正金銀ノ偽ナリテ判ナ  
計ル者ト同一ニ論スヘカラ  
ス 中右等ノ犯アルハ  
如何ニ罰スヘキヤハ何  
指令 九年十月十三日  
偽造貨物ニ依ル 但シ粉  
量輕微ハ裁判官ノ見込ニ任  
ス  
○高知縣 何 十年七月廿六  
日ニ甲縣幣ヲ取受スルノ儀  
始テ真ナリ以テ偽ニ造リシ偽  
幣ニ依リシ事ヲ知リ貯藏ス  
ルナリ其情ヲ知テ事故ニ託  
シテ提出シ其偽幣ヲ以テ買  
債五円ヲ償還シ罰金五円ヲ  
受取ル者アリ右ハ例第二  
百五十一條ニ依リテ可然哉  
指令 甲ハ第二百五十八條  
ニ依リシハ第二百五十一條  
ニ依リテトナシテ論ス  
○京都府 何  
十錢札ノ裏ノ筆畫ハ變換セ  
ス表ノ廿錢ニ描改シタル  
ヲ請取査ノ手數ヲ欺ヒ十  
錢ノ價値ニテ差ヒ割ノ者ハ  
虛式ニ問ヒ可然哉  
例第二百五十一條ノ條幣ノ  
字樣ヲ神變描改等スルノ情  
ヲ知テ行使スル者地野方何  
指令 十年十二月廿七日  
改定條例第二百五十八條ニ  
依リテ罰スヘシ

九年二月十九日御布告  
度量衡改定規則ノ内務  
省第二十七号各地方ニ回  
信ニ付テ各地方官署ノ  
三番目ノ三月十五日ヨ  
リ十二月廿五日迄ニ右

買使ナリテ論ス  
第二百五十四條 凡偽造ス  
ルノ情ヲ知テ房屋ヲ給シ及  
ヒ窩藏スル者ハ已未行使ヲ  
分テ並ニ偽造徒ヲ以テ論ス  
第二百五十五條 凡偽造ニ  
供スル者雇工錢ニ偽貨ヲ受  
ケ行使スル者ハ知情行使律  
ニ依ル  
第二百五十六條 凡偽造已  
ニ成リ未タ行使セスシテ情  
悟シ其夥黨ヲ脱スト雖モ首  
報セサル者ハ偽造已成未行  
使ヲ以テ論ス其偽造未タ成  
ラサル者ハ懲役百日  
第二百五十七條 凡人ノ寶  
貨ヲ偽造スルモノヲ知テ官司  
ニ申報セサル者ハ違令重ニ  
問フ  
第二百五十八條 凡寶貨ヲ

偽造貨物 ○偽造銀兩并尺

新律補綴 ○詔偽律

改定條例 ○詔偽律



○鳥取縣何 七年第二百十  
官吏疾病ト詐リ不参リ届ケ  
其定私事ニ希先スル之ヲ斷  
スルニ上ニ告ルニ詐テ実リ  
以テセサルノ性キトナサハ  
如何云々同  
○和歌山縣何 七年第二百  
子實セテ其ノ者ハ各懲役  
終身者子養アリテスル者ハ

○愛媛縣何 七年第二十一  
号指令  
凡そト称スルハ双方許諾ノ  
上初メ其名ヲ定ムルヲ得ル  
其定名アル者其罪ヲ犯セバ  
即チ有夫ヲ以テ論ス  
○和歌山縣何 七年第十六  
号指令  
有夫ノ婦ニ恣情ヲ逞シテ七  
トスルノ際他人ニ撞見セ  
ラレテ事ヲ遂ケスト至モ事理  
為一カヲナルヲ以テ不懲  
重ニ減ス  
○濱田縣何 八年第四十  
四号  
刑第二百六十条回テ折傷入  
ル者ハ終身懲役トアリテ回  
テ折傷入ル者ハ終身懲役ト  
テ折傷入ル者ハ終身懲役ト  
テ折傷入ル者ハ終身懲役ト

○愛媛  
問 佛國ノ如キハ男兒ト至  
モ其家ニ留テ育ビ居ルノ片  
ルヲ前スルニ罰金ヲ以テス  
ルヲアリト聞ク然ルニ其國  
有夫ニ律ノミアリテ事テ前  
記ノ如キ夫ヲ罰スルノ律ナ  
シ何故佛人ノ罪ノミト為  
セルヤ  
問 抑モ法ハ回ノ罪明ニ從  
テ新法ヲ創立シテ回法ヲ廢  
シ或ハ新ニ法章ヲ設クル事  
皆ナシ其國人民皆歐洲ノ度  
ニ從ヒ居存スルモノナレハ  
我國人ノ罪量ヲ罰スルノ律  
ナキモ其時ノ罪量ヲ罰スル  
重キ所以ノ者ハ終身懲役ト  
トスルハ其結果懲役トシテ  
ハナリ

○愛媛  
問 佛國ノ如キハ男兒ト至  
モ其家ニ留テ育ビ居ルノ片  
ルヲ前スルニ罰金ヲ以テス  
ルヲアリト聞ク然ルニ其國  
有夫ニ律ノミアリテ事テ前  
記ノ如キ夫ヲ罰スルノ律ナ  
シ何故佛人ノ罪ノミト為  
セルヤ  
問 抑モ法ハ回ノ罪明ニ從  
テ新法ヲ創立シテ回法ヲ廢  
シ或ハ新ニ法章ヲ設クル事  
皆ナシ其國人民皆歐洲ノ度  
ニ從ヒ居存スルモノナレハ  
我國人ノ罪量ヲ罰スルノ律  
ナキモ其時ノ罪量ヲ罰スル  
重キ所以ノ者ハ終身懲役ト  
トスルハ其結果懲役トシテ  
ハナリ

凡官吏人等。疾病ト詐稱シ。事  
ニ臨テ難テ避ル者ハ。答三十。  
避ル所事重キ者ハ。杖七十。  
若シ罪ヲ犯シテ。死スト詐稱  
シ。喚問ヲ免レントスル者ハ  
徒一年半。避ル所事重キ者ハ  
各重罪ニ從テ論ス。  
若シ人ト忿争シテ。故サラニ  
自ラ傷殘シ。人ニ詐稱スル者  
ハ。杖七十。其雇ヲ受ケ入ノ爲  
ニ。備殘スル者ハ。犯人ト同罪。  
因テ死ニ致ス者ハ。闘殺罪ニ  
一等ヲ減ス。  
若シ當該ノ官司。知テ聽行ス  
ル者ハ。同罪。罪流三等ニ止ル。  
知ラサル者ハ。坐セス。  
詐教誘人犯法  
凡詐テ人ヲ教誘シテ。法ヲ犯  
サシ。卻テ自ラ捕獲シ。若ク  
ハ告舉シ。或ハ人ヲシテ。捕告

○改正犯姦律  
凡和姦ハ各杖七十。夫アル者  
ハ各徒三年  
若シ謀合及ヒ容止シテ。通姦  
セシムル者ハ。犯人ノ罪ニ一  
等ヲ減ス。強姦スル者ハ。流三  
等。未タ成ラサル者ハ。一等ヲ  
減ス。因テ折傷スル者ハ。絞婦  
女ハ。坐ロシ。十二歳以下ノ幼  
女ヲ姦スル者ハ。和ト雖モ。強  
ト同ク論ス。  
親族相姦  
凡父祖ノ妾媵。姦及ヒ子孫  
ノ婦。凡兄弟ノ姦スル者ハ  
各流三等。強姦スル者ハ。強  
若シ姦テ。姦妹及ヒ兄弟ノ妻

○愛媛縣何 七年第二十一  
号指令  
凡そト称スルハ双方許諾ノ  
上初メ其名ヲ定ムルヲ得ル  
其定名アル者其罪ヲ犯セバ  
即チ有夫ヲ以テ論ス  
○和歌山縣何 七年第十六  
号指令  
有夫ノ婦ニ恣情ヲ逞シテ七  
トスルノ際他人ニ撞見セ  
ラレテ事ヲ遂ケスト至モ事理  
為一カヲナルヲ以テ不懲  
重ニ減ス  
○濱田縣何 八年第四十  
四号  
刑第二百六十条回テ折傷入  
ル者ハ終身懲役トアリテ回  
テ折傷入ル者ハ終身懲役ト  
テ折傷入ル者ハ終身懲役ト  
テ折傷入ル者ハ終身懲役ト

○愛媛  
問 佛國ノ如キハ男兒ト至  
モ其家ニ留テ育ビ居ルノ片  
ルヲ前スルニ罰金ヲ以テス  
ルヲアリト聞ク然ルニ其國  
有夫ニ律ノミアリテ事テ前  
記ノ如キ夫ヲ罰スルノ律ナ  
シ何故佛人ノ罪ノミト為  
セルヤ  
問 抑モ法ハ回ノ罪明ニ從  
テ新法ヲ創立シテ回法ヲ廢  
シ或ハ新ニ法章ヲ設クル事  
皆ナシ其國人民皆歐洲ノ度  
ニ從ヒ居存スルモノナレハ  
我國人ノ罪量ヲ罰スルノ律  
ナキモ其時ノ罪量ヲ罰スル  
重キ所以ノ者ハ終身懲役ト  
トスルハ其結果懲役トシテ  
ハナリ

セシムル者ハ。法ヲ犯スノ人  
ト同罪  
○犯姦律  
凡和姦ハ各杖七十。夫アル者  
ハ各徒三年  
若シ謀合及ヒ容止シテ。通姦  
セシムル者ハ。犯人ノ罪ニ一  
等ヲ減ス。強姦スル者ハ。流三  
等。未タ成ラサル者ハ。一等ヲ  
減ス。因テ折傷スル者ハ。絞婦  
女ハ。坐ロシ。十二歳以下ノ幼  
女ヲ姦スル者ハ。和ト雖モ。強  
ト同ク論ス。  
親族相姦  
凡父祖ノ妾媵。姦及ヒ子孫  
ノ婦。凡兄弟ノ姦スル者ハ  
各流三等。強姦スル者ハ。強  
若シ姦テ。姦妹及ヒ兄弟ノ妻

○改正犯姦律  
凡和姦ハ各杖七十。夫アル者  
ハ各徒三年  
若シ謀合及ヒ容止シ  
テ通姦セシムル者ハ。犯人ノ  
罪ニ三等ヲ減ス。強姦スル者  
ハ。懲役十年。未タナラサル者  
ハ。一等ヲ減ス。因テ折傷スル  
者ハ。懲役終身。婦女ハ。坐セス。  
十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル  
者ハ。和ト雖モ。強ト同ク論ス。  
親族相姦  
第二百六十一條 凡父祖ノ  
妾媵。叔姪。姦及ヒ子孫ノ婦  
ヲ姦スル者ハ。各懲役三年。強  
姦スル者ハ。懲役終身。若シ姦

犯姦律

新律四項 ○犯姦律 一

改正律例 ○犯姦律

伯和... 七年三月九号  
...  
七年十一月三十日指令  
...

和歌山縣... 七年三月九号  
...  
七年十一月三十日指令  
...

京都裁判所...  
改正本律云々  
...

白川縣... 七年三月十八号  
...  
七年十一月三十日指令  
...

姪ノ妻ヲ姦スル者ハ各流一	ノ姪妹及ヒ兄弟ノ妻姪ノ妻
等強姦スル者ハ絞妻ヲ姦ス	ヲ姦スル者ハ懲役二年妻ヲ
ル者ハ各一等ヲ減入強姦ス	姦スル者ハ各一等ヲ減入強
ル者ハ絞	姦スル者ハ並懲役終身
若シ前夫ノ女同母異父姉妹	若シ兄弟姉妹ノ女及ヒ前夫
ヲ姦スル者ハ各徒三年強姦	ノ女同母異父姉妹ヲ姦スル
スル者ハ絞	者ハ各懲役一年強姦スル者
	ハ懲役終身
	姦家長妻
	第二百六十二條 凡雇人家
	長ノ妻ヲ姦スル者ハ各懲役
	一年半強姦スル者ハ懲役終
	身
	姦部民妻
	第二百六十三條 凡官吏部

ル者ハ凡姦罪ニ二等ヲ加フ	民ノ妻ヲ姦スル者ハ懲役一
婦女ハ犯姦ヲ以テ論ス	年半相姦スルノ妻ハ懲役一
	年
	居喪犯姦
	第二百六十四條 凡父母舅
	姦及ヒ夫ノ喪ニ居ル姦ヲ犯
	ス者ハ各凡姦罪ニ一等ヲ加フ
	相姦スルノ人ハ凡姦ヲ以テ
	論ス
	四年七月三十日法律二百七十
	四号法律二百七十一
	改正
	父母舅姑夫ノ喪ニ居リ姦ヲ
	犯ス者ハ凡姦罪ニ一等ヲ加フ
	ル律ヲ改メ父母舅姑ノ喪ニ
	居リ姦ヲ犯ス者ハ凡姦ヲ以
	テ論シ夫ノ喪ニ居リ姦ヲ犯
	ス者ハ有夫ヲ以テ論ス相姦
	スル人ハ並ニ同罪
	犯姦條例
	第二百六十五條 凡和姦ノ

新法律領...  
...



○兵庫裁判所 七年第五十八号  
販賣鴉片烟条中人ヲ引誘シテ吸食セシムル者トハ判テ  
罰金十キ者ニ限リ然レ共吸食者ハ買食ヲ以テ処断シ可然  
者ハ販賣ヲ以テ論シ共吸食者ハ買食ヲ以テ処断シ可然  
哉

○同ノ通 但謝金ヲ受ルト雖モ吸食セシムル者ト  
判ルル心ナケレハ販賣ヲ以テ論スヘカラス引誘シテ吸  
食セシムルノ者ニ科ス吸食スルモノ謝金ヲ送ル片ハ  
共販賣食ニ似シリト雖モ引誘ニ依リテ以テ其情輕シ  
引誘セラレテ吸食スル者ト買食スル者ト判ル有之候也  
云々同

○同ノ通 他人ノ烟具ヲ借り吸食スル者ハ買食スル者ト同  
ノ論シ懲役二年半一時人ノ爲メニ烟具ヲ寄藏スル者ハ  
違制重ニ問フ吸食スル者ハ買食スル者ト同ノ論ス  
拾令 判テ罰金十キ者ハ懲役十年ニ科スト雖  
モ但賣ノ如ク未嘗ノ烟具ヲ持ヘ自ラ吸食スルヲ一時黙  
許スル者ハ違制重ニ問フ  
其房屋内ニテ吸食ハ致サス他人ノ依頼ニ因テ右烟具  
等ノ寄藏ヲ許シタル者之レ又房屋ヲ給スル者ト同ノ論  
拾令 前条ト同ノ違制ニ問フ

○置賜縣 七年第六十八号  
拾令 酒樓飯店等ノ主或ハ於テ未嘗ノ賭博スルヲ知  
ラ一時黙許スル者何ニテ其捕吏ノ覺察ヲ畏レ故燃  
スルカ如キハ情重シ違制ニ問フヘシ  
○小田縣 八年第六十七号  
賭博ノ罪化リ一家共犯ノ例ニ依リ其罪ヲ輕シタル者ハ

販賣鴉片烟

凡鴉片烟ヲ販賣シテ利ヲ圖  
ル者ハ皆ハ斬從ハ流三等

若シ人ヲ引誘シテ吸食セシ  
ムル者ハ絞從及ヒ情ヲ知り  
房屋ヲ給スル者ハ流三等引  
誘セラレテ吸食スル者ハ徒  
一年

若シ販賣シテ未少賣賣セサ  
ル者首ハ流三等從ハ徒三年

買食スル者ハ徒二年半並ニ  
鴉片烟ハ官ニ没入ス

若シ官吏知テ舉セサル者ハ  
同罪罪流三等止ル財ヲ受  
ル者ハ枉法ヲ以テ重キニ從  
テ論ス

賭博  
凡財物ヲ賭シ博戯ヲ爲ス者  
ハ皆杖八十賭場ノ財物ハ官  
ニ入ル其賭場ヲ開設スル人

ハ其別ニ與ラスト雖モ同罪  
飲食ヲ賭スル者ハ論スル  
勿レ

若シ産葉無シシテ幣ニ腰刀  
ヲ挾帶シ無賴ノ徒ヲ招結シ  
賭場ヲ開設シ四隣ニ横行ス  
ル者ハ皆流一等

凡法今ヲ曲ケンコト欲シ公  
事ヲ囑託スル者ハ已レノ爲  
ニシ人ノ爲メニスルコトヲ論セ  
ス第四十當罰ノ官吏聽從ス  
ル者ハ同罪聽從セサル者ハ  
坐セス若シ事已ニ施行スル  
者ハ杖九十枉ル所罪重キ者

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

賭博

第二百六十九條 凡賭博三  
犯以上ハ懲役一年

第二百七十條 凡賭博現在

ノ財物ハ官ニ入ルト雖モ其  
田宅等不動産ニ係ル者ハ原  
主ニ還付シ官ニ入ルノ限  
ニ在ラス

第二百七十一條 凡博戯ニ  
用フル骰子骨牌ヲ賣ル者ハ  
賭博者ト同罪再犯ハ一等ヲ  
加ヘ三犯以上ハ懲役二年

第二百七十二條 凡賭博ノ  
列ニ與ラスト雖モ母錢ヲ借  
シ息ヲ收ル者ハ犯人ト同罪

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

十二年九月十七日司法  
省同第百二十二号達  
シ第百二十二号達  
ハ達決テ官ニ其裁判  
ノ檢査檢事ノ公斷判事  
ノ裁別成テ各三三  
過キサル候注意スヘシ  
此旨相達候事

○和歌山縣 十年二月廿二日  
拾令 現行犯ト解スルハ現場捕獲及一捕ニ違ル同罪ノ者  
ヲ登スルヲ違テ豫テ相心得居候得共若シ衆人持  
ルニテ共賭博犯タルヲ供認シ若シハ錢子骨牌等証憑  
ルニテ其罪ヲ確シ犯人ト認料スルハ犯罪アリ檢過  
ルノ時日ノ多寡ヲ論セ司法警察現則第十二條衆人  
持共犯主ナルヲ供認シ若シハ兇器大賣立々又現行犯  
ニ違入ト云ニ照依シ捕獲問罪シ可然哉  
拾令 同ノ通  
警察ノ授権ナキ區内長部内取締ノ爲メ賭博ヲ現場捕獲  
シ引官ニ送ルカ如キモ現行犯ト看做シ問罪シ可然  
拾令 同ノ通

○取費鴉片烟 ○賭博 ○囑託公事

○新律刑罰 ○雜律

○改定律例 ○雜律

○取費鴉片烟 ○賭博 ○囑託公事

○新律刑罰 ○雜律

○改定律例 ○雜律

○取費鴉片烟 ○賭博 ○囑託公事

○新律刑罰 ○雜律

○改定律例 ○雜律

○若手縣衙 六年後身二  
指令 入家遠隔ノ海濱ニ設置シクル自己ノ塩竈ヲ燒失  
スル者ハ失火律ヲ以テ論スルノ限ニ非ス  
○京都裁判所衙 七年身二十七号  
網領僧尼於東家師余凡傳尼ノ授業師ニ於ル伯叔父枯ト  
同シトアルニ付同居ノ子弟又ヲ失シテ授業師ヲ燒死ニ  
致スハ二等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者ヲ以テ論シ且其同  
居ノ兄弟ヲ燒死ニ致ス者ハ三等親ヲ燒死ニ致ス者ヲ以テ  
論シ是等可致哉  
指令 授業師ヲ燒死ニ致ス者ハ何ノ通徒弟ヲ燒死ニ致  
ス者ハ二等親ヲ燒死ニ致ス者ヲ以テ論ス並ニ贖ヲ絶ス  
○京都裁判所衙 七年身五十三号  
村社ヲ燒シテ其社ノ祠ヲ燒シテ以テ論ス可キ哉律ク  
村社ハ官社ニ列セサルヲ以テ人ノ宅舎ヲ燒クヲ以テ論  
スヘキ哉  
指令 村社ヲ燒シト同ク論ス  
指令 官社大社ノ境内ニアル祠社大社ニ失火スル者ハ  
小社ニ在リテ一等ヲ減シ官幣團體中社ノ祠社大社ハ府

官吏ハ故出入人罪律ヲ以テ  
論ス若シ他人及ヒ親屬ノ爲  
ニ囑託シテ枉ル所罪首四十  
ヨリ重キ者ハ當該官吏ノ罪  
ニ三等ヲ減ス自己ノ罪ヲ囑  
託スル者ハ坐スヘキ本罪ニ  
一等ヲ加フ  
若シ法ヲ曲ケ贓ヲ受ル者ハ  
贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス  
失火  
凡火ヲ失シテ自己ノ宅舎ヲ  
燒ク者ハ答二十人ノ宅舎ニ  
延燒スル者ハ答四十罪止ク  
火ヲ失スル人ヲ坐ス若シ太  
廟及ヒ官闕内ニ於テ火ヲ失  
スル者ハ流三等山陵ノ兆域  
内ハ徒一年公廨及ヒ倉庫内  
ハ杖一百主守ノ人因テ財物  
ヲ殺欺スル者ハ贓ニ計ヘ監  
守自盜ヲ以テ論ス其外ニ在

失火條例  
第二百七十三條 凡太廟及  
ヒ山陵内ニ於テ火ヲ失スル  
者ハ律ニ依リ罪ヲ科スルノ  
外官幣團體大社ハ山陵ト同  
シク論シ中社ハ懲役百日小  
社ハ懲役九十日府縣社ハ懲  
役七十日郷社ハ懲役六十日  
延燒スル者ハ各本罪ニ三等  
ヲ減入減シテ人ノ宅舎ヲ延  
燒スルヨリ輕ク若クハ等

縣社ニ在リテ一等ヲ減入其神器ヲ已藏スル者府ヲ燒ク  
者亦同シ延燒スル者ハ各三等ヲ減ス滅シテ人ノ宅舎ヲ  
延燒スルヨリ輕キ者ハ並ニ一等ヲ加フ若シ府縣郷社  
ノ祠社大社ヲ燒ク者ハ人ノ宅舎ヲ延燒スルト同ク論ス  
○流津縣衙 七年身七十五号  
指令 僧侶火ヲ失シテ寺院ヲ燒ク者自己ノ宅舎ヲ燒ク  
ノ一等ヲ加フ他ノ宅舎ヲ燒ク人ノ者又一等ヲ加フ  
○鳥根縣衙 七年身八十六号  
指令 自己ノ宅舎ヲ燒クニ一等ヲ減ス  
○兵庫裁判所衙 七年身九十五号  
指令 出火ハ不測ノ事ニシテ無心ノ咎ナレハ假令庭  
院ニ延燒スモ燒死ニ至ラレハ止シ失火ノ罪ヲ坐ス  
清障人足及ヒ官吏寺共場ニ乘リ燒ク燒死スル者アルト  
モ寺犯ハ加等ノ限ニ非ス  
○置賜縣衙 七年身九十六号  
各居親屬或ハ他人一時止宿ノ者火ヲ失シテ其家ヲ燒ク  
ハ人ノ宅舎ニ延燒スルニ準シテ論シ可然哉  
旅行ノ者客屋ニ止宿シテ火ヲ失シテ其家ヲ燒クモ前同論  
シ可然哉  
指令 何ノ違  
○奈良縣衙 七年身九十九号  
指令 山崎孤立ノ茶小屋ニシテ遊學人宅在ルニ非スト  
雖モ山林茶草等ヲ延燒スルモ亦計リ難シ海邊ノ塩竈ト  
同ク論スヘカヲ入自己ノ宅舎ヲ燒ク者ヲ以テ論ス  
○若手縣衙 七年身百二号  
指令 夫火ヲ失シテ親父及人ヲ燒死ニ致ス者ハ假令過誤  
ニ出ルト雖モ人命ニ係ルヲ以テ失所致シ可然哉  
指令 夫火ノ罪ハ人命ニ係ルト雖モ失所スルノ限ニ非  
ス  
左人同居各居ノ間ハ家長及其親父及母ヲ燒死ニ致  
ス者ハ凡人多ク以テ論シ可然哉

○鳥根縣衙  
凡火ヲ失シテ延燒スル者ハ  
各三等ヲ減ス  
其官殿及ヒ倉庫ヲ守衛シ若  
クハ因テ掌ル者火ノ起ルヲ  
見テハ所守ノ離ル、下ヲ待  
入違フ者ハ杖七十  
○鳥根縣衙  
凡火ヲ失シテ延燒スル者ハ  
各三等ヲ減ス  
其官殿及ヒ倉庫ヲ守衛シ若  
クハ因テ掌ル者火ノ起ルヲ  
見テハ所守ノ離ル、下ヲ待  
入違フ者ハ杖七十

失火條例  
第二百七十五條 凡火ヲ失  
シテ人ヲ燒死ニ致ス者ハ死  
ノ多寡ヲ論セス一等ヲ加  
フ其同居ノ祖父父母及  
死ニ致ス者ハ懲役百日  
六年八月十二日改定律例第百  
九号御布告改定律例第百  
七十五條左ノ通り改正  
第二百七十五條 凡火ヲ失  
シテ人ヲ燒死ニ致ス者ハ死  
ノ多寡ヲ論セス一等ヲ加  
フ其同居ノ祖父父母及  
死ニ致ス者ハ懲役百日  
六年八月十二日改定律例第百  
九号御布告改定律例第百  
七十五條左ノ通り改正

失火

改定律例

○ 清田縣何 七年第百十二号  
 指令 火ヲ失シテ官國幣大中小社府縣郡村社ノ拜殿及  
 神樂殿額堂等ヲ燒ク者ハ其未社ニ各一寺ヲ滅ス延燒ス  
 ル者ハ各三寺ヲ滅ス滅シテ人ノ宅舎ヲ延燒スルヨリ輕  
 キ者ハ減セス

○ 尾柄裁判所何 七年第百七号  
 指令 自己ノ船舶ヲ航海中失火スルハ罪ノ同クヘキナ  
 シト雖モ若シ船舶ヲ港内ニテ失火スル者ハ自己ノ  
 宅舎ヲ燒ク者ニ依テ論シ官船ニ係ルハ公廟倉庫内ニ失  
 火スルヲ以テ論ス但自己ノ船舶トモ他ノ船舶ヲ載セ  
 置ク者ハ不問ノ限ニテ失火スル者ハ延燒スルニ依ル  
 罪額裁判所へ送 八年第百三十六号

○ 尾柄裁判所何 七年第百七号  
 指令 自己ノ船舶ヲ航海中失火スルハ罪ノ同クヘキナ  
 シト雖モ若シ船舶ヲ港内ニテ失火スル者ハ自己ノ  
 宅舎ヲ燒ク者ニ依テ論シ官船ニ係ルハ公廟倉庫内ニ失  
 火スルヲ以テ論ス但自己ノ船舶トモ他ノ船舶ヲ載セ  
 置ク者ハ不問ノ限ニテ失火スル者ハ延燒スルニ依ル  
 罪額裁判所へ送 八年第百三十六号

○ 尾柄裁判所何 七年第百七号  
 指令 自己ノ船舶ヲ航海中失火スルハ罪ノ同クヘキナ  
 シト雖モ若シ船舶ヲ港内ニテ失火スル者ハ自己ノ  
 宅舎ヲ燒ク者ニ依テ論シ官船ニ係ルハ公廟倉庫内ニ失  
 火スルヲ以テ論ス但自己ノ船舶トモ他ノ船舶ヲ載セ  
 置ク者ハ不問ノ限ニテ失火スル者ハ延燒スルニ依ル  
 罪額裁判所へ送 八年第百三十六号

○ 聖阿蘇何 七年第百四十二号指令  
 私慾ヲ懷持シテ人ノ宅舎ヲ燒ントシテ未ク行ハサル者  
 凡火ヲ放テ故サラニ公廟倉  
 庫及ヒ民舎ヲ燒ク者ハ皆斬

長ニ三等ヲ減入減シテ罪致  
 人燒死律ヨリ輕キ者ハ減セ  
 ス其各居ニ係ル者ハ等親尊  
 卑ヲ論セス並ニ致人燒死ト  
 罪同

第二百七十六條 凡火ヲ失  
 シテ人ノ山林柴草及ヒ空間  
 房屋若シハ田場積聚ノ物ヲ  
 延燒スル者ハ官私ヲ分テ入  
 人ノ宅舎ニ延燒スルニ一等  
 ヲ減ス

第二百七十七條 凡盜犯火  
 ヲ用ヒテ門闕戸樞ヲ燒燬シ  
 及ヒ燭炬ヲ持シ期セスシテ  
 失火ニ致入者ハ懲役三年若  
 シ盜罪重キ者ハ重キニ從テ  
 論ス

第二百七十八條 凡火ヲ放  
 テ人ノ空間房屋及ヒ田場積

○ 茨城裁判所何 九年第百五号  
 指令 放火ノ罪ハ人民ノ公益ヲ害スル極メテ大ニシテ  
 尋常賊盜ノ比ニアラス即チ自首ヲ認ササル所以ナリ

○ 京都裁判所何  
 差ニ宜多ノ全ヲ借リ入レ夫レヲ以テ新ニ商店ヲ開キ營  
 業スルニ素ヨリ不慣ノ身柄急子損先ニ及ビシヨリ債主  
 共貸金ヲ嚴責ス夫ニ於テ缺人思ヘラク若シ自己ノ宅舎  
 ニ火ヲ放チ一家焼止ニ至ラシハ債主共不幸ヲ憐ミ督  
 責ヲ施フスヘシト既ニ放ツニ及ビ亦思ヘラク若シ自己  
 ニ放チ焼失一舎ニ止マラハ他ヲ於ニハ露頭ニ及フヘ  
 シ幸ヒ債主本舎ニ連燒スル所ノ便所或家守ニ接スルヘ  
 以テ右便所ニ火ヲ放チハ我舎急子延燒ニ及々ヘシ(中略)  
 ト思ヒ共便所ノ屋上ニ放チタルニ即時燒家ノ家眷共火  
 ヲ見認ノ直ニ來ラ之ヲ清シ止ム故ニ止テ共放付センノ  
 ニテ未ク火氣ノ他ニ移ルニ及ハス之ヲ斷スル故火件  
 氏舎ニ放火シ燒毀ニ至ラサル者ニ依レバ略等ニ過ル云  
 フラ後シ又如何処置可致哉

指令十年六月十六日 放火本律ニ照シ地分入ヘシ  
 但シ取減ハ裁判官ノ思ハニ任ス

未ク燒燬ニ至ラサル者ハ流  
 三等

凡火ヲ放テ故サラニ公廟倉  
 庫及ヒ民舎ヲ燒ク者ハ皆斬

第二百七十九條 凡火ヲ放  
 テ故ラニ自己ノ房屋ヲ燒ク  
 者ハ懲役九十日未ク燒燬ニ  
 至ラサル者ハ一等ヲ減入若  
 シ期セスシテ公廟倉庫及ヒ  
 民舎ヲ延燒スル者ハ懲役二  
 年半因テ財ヲ盜ム者ハ懲役  
 終身

第二百八十條 凡火ヲ放テ  
 人ノ空間房屋ヲ燒キ期セス  
 シテ人ノ宅舎ニ延燒スル者  
 ハ懲役十年

第二百八十一條 凡火ヲ放  
 テ人ノ宅舎ヲ燒キ未ク燒毀  
 ニ至ラサル者律ニ照シ懲役  
 十年ニ處スル外若シ雇人等  
 家長ノ督責ニ苛迫シ一時脱

放火  
 前律刑罰 ○ 雜犯律  
 改定律例 ○ 雜犯律



○竊盜罪 八年第三十八号  
費用受寄財産ノ座タルヲ知テ受取ル者ハ從トナシテ論  
シ故買スル者ハ坐賍ヲ以テ論シ三等ヲ減シ如何俟哉  
指令 伺ノ道  
現存ヨリ財物受寄テ受取ル者ハ費用スル者ハ坐賍ニ  
等テ減シ親屬和盜余途滅ノ推衡ニ依リ減等シ可然哉  
指令 各居ノ親屬ハ伺ノ道  
○千葉縣 八年第九号  
六年十一月申御神社佛堂古案所傳ノ什物ノ儀ニ付テハ  
本年第二四十九号御布告ノ趣モ右之申付信氏子親  
家ノ者ヨリ其親前自存ニ処分可致無之ハ勿論ニ有  
然ルニ借借等得財ノ公私ニ依リ區別シ從令ハ其申  
或ハ修理ノ入費ニ借入ル者ナレハ事犯右有者若  
依リ違令不懲處ノ内ニテ處分シ其借財等數ノ者ハ私借  
ニ係ハ費用受寄財産ニ照シ賍ニ計ヘ坐賍ニ依リ一  
ヲ減シ至十二從テ計斷シ可然哉ノ御指令ニ伺ノ道  
○京都府 伺ノ道  
指令 御刑第十号  
他人ヨリ貸金取立テテ依テ受取ル者ハ其取立  
ニハ應テ申送ル者ハ交テ而シテ積主ニハ未テ受取ラサ  
旨ニ計リ中間ノレテ費用シ進テ積主ニ存ニテ全  
中寄附セシ者何  
指令 費用受寄財産内死失ト詐言スルヲ以テ論ス

○遺失罪 九年第十二号  
指令 遺失者ヨリ拾得ル者ハ其天災ニ罹ルト否トノ間ハ  
京都府遺失物取扱規則ニ依リ処分スヘシ其官ニ送ラサ  
ル者ハ違令輕重ニ問ハス  
○節度縣 九年第六十六号  
飲正遺失物ヲ得應シテ官ニ送ラサル推テ知テ受取ル  
者ハ坐賍ニ依リ論ス

○竊盜罪 八年第三十八号  
費用受寄財産ノ座タルヲ知テ受取ル者ハ從トナシテ論  
シ故買スル者ハ坐賍ヲ以テ論シ三等ヲ減シ如何俟哉  
指令 伺ノ道  
現存ヨリ財物受寄テ受取ル者ハ費用スル者ハ坐賍ニ  
等テ減シ親屬和盜余途滅ノ推衡ニ依リ減等シ可然哉  
指令 各居ノ親屬ハ伺ノ道  
○千葉縣 八年第九号  
六年十一月申御神社佛堂古案所傳ノ什物ノ儀ニ付テハ  
本年第二四十九号御布告ノ趣モ右之申付信氏子親  
家ノ者ヨリ其親前自存ニ処分可致無之ハ勿論ニ有  
然ルニ借借等得財ノ公私ニ依リ區別シ從令ハ其申  
或ハ修理ノ入費ニ借入ル者ナレハ事犯右有者若  
依リ違令不懲處ノ内ニテ處分シ其借財等數ノ者ハ私借  
ニ係ハ費用受寄財産ニ照シ賍ニ計ヘ坐賍ニ依リ一  
ヲ減シ至十二從テ計斷シ可然哉ノ御指令ニ伺ノ道  
○京都府 伺ノ道  
指令 御刑第十号  
他人ヨリ貸金取立テテ依テ受取ル者ハ其取立  
ニハ應テ申送ル者ハ交テ而シテ積主ニハ未テ受取ラサ  
旨ニ計リ中間ノレテ費用シ進テ積主ニ存ニテ全  
中寄附セシ者何  
指令 費用受寄財産内死失ト詐言スルヲ以テ論ス

費用受寄財産	凡他人ヨリ財物寄附シテ ノ受ケテ費用スル者ハ坐 賍ヲ以テ論シ一等ヲ減ス 罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ 罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追 シテ主ニ送テ入其水火盜賊ニ 費失セラレ及ヒ畜産病死ス ル者ハ論スルノ如シ	○京都府 御刑第十号 他人ヨリ財物寄附シテ ノ受ケテ費用スル者ハ坐 賍ヲ以テ論シ一等ヲ減ス 罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ 罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追 シテ主ニ送テ入其水火盜賊ニ 費失セラレ及ヒ畜産病死ス ル者ハ論スルノ如シ
得遺失物條例	第二百八十二條 凡水中沈 没ノ物ヲ得レハ遺失物ヲ得 ルヲ以テ論ス	○京都府 御刑第十号 他人ヨリ財物寄附シテ ノ受ケテ費用スル者ハ坐 賍ヲ以テ論シ一等ヲ減ス 罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ 罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追 シテ主ニ送テ入其水火盜賊ニ 費失セラレ及ヒ畜産病死ス ル者ハ論スルノ如シ

○竊盜罪 八年第三十八号  
費用受寄財産ノ座タルヲ知テ受取ル者ハ從トナシテ論  
シ故買スル者ハ坐賍ヲ以テ論シ三等ヲ減シ如何俟哉  
指令 伺ノ道  
現存ヨリ財物受寄テ受取ル者ハ費用スル者ハ坐賍ニ  
等テ減シ親屬和盜余途滅ノ推衡ニ依リ減等シ可然哉  
指令 各居ノ親屬ハ伺ノ道  
○千葉縣 八年第九号  
六年十一月申御神社佛堂古案所傳ノ什物ノ儀ニ付テハ  
本年第二四十九号御布告ノ趣モ右之申付信氏子親  
家ノ者ヨリ其親前自存ニ処分可致無之ハ勿論ニ有  
然ルニ借借等得財ノ公私ニ依リ區別シ從令ハ其申  
或ハ修理ノ入費ニ借入ル者ナレハ事犯右有者若  
依リ違令不懲處ノ内ニテ處分シ其借財等數ノ者ハ私借  
ニ係ハ費用受寄財産ニ照シ賍ニ計ヘ坐賍ニ依リ一  
ヲ減シ至十二從テ計斷シ可然哉ノ御指令ニ伺ノ道  
○京都府 伺ノ道  
指令 御刑第十号  
他人ヨリ貸金取立テテ依テ受取ル者ハ其取立  
ニハ應テ申送ル者ハ交テ而シテ積主ニハ未テ受取ラサ  
旨ニ計リ中間ノレテ費用シ進テ積主ニ存ニテ全  
中寄附セシ者何  
指令 費用受寄財産内死失ト詐言スルヲ以テ論ス

費用受寄財産	凡他人ヨリ財物寄附シテ ノ受ケテ費用スル者ハ坐 賍ヲ以テ論シ一等ヲ減ス 罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ 罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追 シテ主ニ送テ入其水火盜賊ニ 費失セラレ及ヒ畜産病死ス ル者ハ論スルノ如シ	○京都府 御刑第十号 他人ヨリ財物寄附シテ ノ受ケテ費用スル者ハ坐 賍ヲ以テ論シ一等ヲ減ス 罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ 罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追 シテ主ニ送テ入其水火盜賊ニ 費失セラレ及ヒ畜産病死ス ル者ハ論スルノ如シ
得遺失物條例	第二百八十二條 凡水中沈 没ノ物ヲ得レハ遺失物ヲ得 ルヲ以テ論ス	○京都府 御刑第十号 他人ヨリ財物寄附シテ ノ受ケテ費用スル者ハ坐 賍ヲ以テ論シ一等ヲ減ス 罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言 スル者ハ竊盜ニ二等ヲ減シ 罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追 シテ主ニ送テ入其水火盜賊ニ 費失セラレ及ヒ畜産病死ス ル者ハ論スルノ如シ

○竊盜罪 八年第三十八号  
費用受寄財産ノ座タルヲ知テ受取ル者ハ從トナシテ論  
シ故買スル者ハ坐賍ヲ以テ論シ三等ヲ減シ如何俟哉  
指令 伺ノ道  
現存ヨリ財物受寄テ受取ル者ハ費用スル者ハ坐賍ニ  
等テ減シ親屬和盜余途滅ノ推衡ニ依リ減等シ可然哉  
指令 各居ノ親屬ハ伺ノ道  
○千葉縣 八年第九号  
六年十一月申御神社佛堂古案所傳ノ什物ノ儀ニ付テハ  
本年第二四十九号御布告ノ趣モ右之申付信氏子親  
家ノ者ヨリ其親前自存ニ処分可致無之ハ勿論ニ有  
然ルニ借借等得財ノ公私ニ依リ區別シ從令ハ其申  
或ハ修理ノ入費ニ借入ル者ナレハ事犯右有者若  
依リ違令不懲處ノ内ニテ處分シ其借財等數ノ者ハ私借  
ニ係ハ費用受寄財産ニ照シ賍ニ計ヘ坐賍ニ依リ一  
ヲ減シ至十二從テ計斷シ可然哉ノ御指令ニ伺ノ道  
○京都府 伺ノ道  
指令 御刑第十号  
他人ヨリ貸金取立テテ依テ受取ル者ハ其取立  
ニハ應テ申送ル者ハ交テ而シテ積主ニハ未テ受取ラサ  
旨ニ計リ中間ノレテ費用シ進テ積主ニ存ニテ全  
中寄附セシ者何  
指令 費用受寄財産内死失ト詐言スルヲ以テ論ス



○滋賀縣令 七年七月十三日 他行致シ実印ヲ忘却シ人ヲ違シ取寄セ候者ハ他人ニ実印ヲ預ケルノ類ニアラス無罪

○白川縣令 七年第七十五号 從來梓五市子並津新橋下杯ト相唱ヘ至古口守等ノ所業ヲ以テ人民ヲ眩惑セシ候違犯ノ者ハ違令ニ科罰致スヘクノ処罰金多分ニ受ケ候者ハ如何

○同縣令 何ノ違令ニ科シ罰金現在スレハ違令ニ給スヘシ

○同縣令 何ノ違令ニ給スヘシ

○同縣令 何ノ違令ニ給スヘシ

○山口縣令 富興行入ル者ハ違令ニ問ヒ現在ノ財物ハ官法ニ入り然ルニ頼母子等ノ名儀ヲ以テ富興行入ル者ハ分方云云

○水沢縣令 七年第九十二号 伊勢木陣宮ノ御玉車及ヒ祖老父母ノ位牌ヲ投捨ルハ違令ニ問フ

○濱田縣令 八年第三十一号 壬申年百九十七号人民実印五ノ公布ニ違ヒ自己ノ実印ヲ他人ニ預ケ候者並ニ預リ候者ハ分方如何

○指合 違式經ニ問フ

○福島縣令 八年第三十七号 指合 諸書ヲ割トシ院省使ヨリ公布スル處ノ諸公布ヲ令トシ府縣ヨリ下布スル諸規則ヲ式トナス然レモ事理重キ者ハ院省使ノ令トモ建則ニ問擬スルトモ之レアルヘシ必意事件ノ輕重ニ依テ命擬スルヲ要ス

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四  
十。輕キ者ハ一等ヲ減ス

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四  
十。輕キ者ハ一等ヲ減ス

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四  
十。輕キ者ハ一等ヲ減ス

違令條例  
第二百八十七條 凡令ニ違フ者ハ懲役百日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二百八十八條 凡令ニ違フ者ハ懲役二十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二百八十九條 凡令ニ違フ者ハ懲役十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二百九十條 凡令ニ違フ者ハ懲役五日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

○和歌山縣令 九年十月十三日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○宮城縣令 九年十月十四日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月十五日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月十六日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月十七日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月十八日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月十九日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十一日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十二日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十三日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十四日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十五日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十六日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十七日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十八日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月二十九日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

○京都府令 九年十月三十日 實印ヲ預ケ候者ハ違令ニ問フ

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四  
十。輕キ者ハ一等ヲ減ス

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四  
十。輕キ者ハ一等ヲ減ス

凡令ニ違フニ重キ者ハ答四  
十。輕キ者ハ一等ヲ減ス

違令條例  
第二百八十七條 凡令ニ違フ者ハ懲役百日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二百八十八條 凡令ニ違フ者ハ懲役二十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二百八十九條 凡令ニ違フ者ハ懲役十日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

第二百九十條 凡令ニ違フ者ハ懲役五日。輕キ者ハ一等ヲ減ス

違令ニ不應

新律綱領 ○ 雜犯律 七

改定律例 ○ 雜犯律

○新選裁判所 七年第百四十五号

押込受通本捕丁等逮捕方捕  
件ノ者輕キ犯罪者ノ在リ  
知テ見逃シ置キ捕獲セザル  
者ハ差違ヲ受ルニ非ス如何  
格令 罪情重キ者ハ違捕強  
入余ニ依リ輕キ者ハ違令或  
ハ違式ノ輕重ニ問フヘシ  
但シ本犯ノ罪ヨリ重キニ問  
フヘカラス

○本縣裁判所 八年第百二十三号指令  
財ヲ受テ故殺スル者ハ破産宣告ヲ以テ論スト雖モ財ヲ  
受ケスシテ故殺スル者ハ捕ヲ受リ破産宣告ニ區分ス  
○改選縣令 八年第百三十六号指令  
本犯自首減等スルモ故殺スル者ハ捕吏ハ其等ノ罪ニ非ス  
○改選縣令 八年第百八十一号  
捕吏差違ヲ受テ罪人ヲ追捕スルニ事ニ託シテ行入若シ  
ハ罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサル者二人ナルハ差違ヲ受テ  
十罪ヲ科スル  
指令 何ノ通

○鳥取縣令  
竊盜罪ノ追捕ヲ拒キ折傷スル者ハ捕吏ヲ毆テ折傷以  
上ニ至ル者ヲ以テ檢シ可然哉  
六年七月十二日指令 何ノ通

○大分縣令 八年第百五号指令  
罪ヲ犯シテ逃走シテ追捕ヲ拒ク  
令受檢地逃走シテ追捕ヲ拒カサルハ如等ノ罪ニ非ス其  
逃走シテ追捕ヲ拒キ及ヒ逃走セスト品モ追捕ヲ拒ク者  
加等罪ニ坐ス  
○大分縣令  
長崎縣士族田中大平地前ノ儀ニ付上告一件門毆奪罪人  
拒捕条等ニ照シテ御達ノ趣ハ門毆奪罪人拒捕下見做シ拒  
捕条ニ照シテ御達ノ趣ニ付之ヘテ御達ノ趣ニ付テ然ラ  
ハ門毆奪罪人拒捕トシ御達ノ趣ニ付テ然ラハ二罪ヲ  
加ヘ仍ホ拒捕罪ニ照シテ御達ノ趣ニ付テ然ラハ二罪ヲ  
至レリ御達ノ趣ニ付テ然ラハ二罪ヲ至レリ御達ノ趣ニ付  
連署罪ノルニ付テ然ラハ二罪ヲ至レリ御達ノ趣ニ付テ  
本罪ナク門毆ハ即チ拒捕ノ罪ナリトス之ヲ門毆罪ニ  
シテ拒捕スル者ト同視スヘカラス依令ハ違令犯人ニ  
捕ノ拒キ追査テ檢傷スルカ如キ之ヲ拒捕罪ニ照スニ違  
令ノ本罪ニ二罪ヲ加フルニ過キサルヘシ中尋律ノ權衡  
ニ於テ御達ノ趣ニ付テ然ラハ二罪ヲ至レリ御達ノ趣ニ付  
指令十年十一月廿八日 何ノ通  
○改選縣令  
拒捕ニ照シテ二罪俱發一ノ重キヲ以テ論シ尚ホ罪人拒捕  
条ニ照シテ御達ノ趣ニ付テ然ラハ二罪ヲ至レリ御達ノ趣  
傷スルカ如キ門毆罪及ヒ罪人拒捕罪ニ照シテ檢傷ノ罪ニ  
加等スル儀ト心得ヘシ

○兵庫縣令 七年第百一十一号指令  
過失殺傷ハ罪名ニ無之ニ付  
責付内刑条ノ如キハ逃走ナ  
云本罪ニ一罪ヲ加フル限  
在ラス因テ前条ニ照準スヘ  
○改選縣令  
問 脱監越獄及ヒ反獄ノ罪  
別ハ如何  
答 脱監トハ主守ノ違テ監  
ビ妨カニ牢門ヨリ逃走スル  
モノヲ云フ又越獄トハ獄舎  
内ヨリ逃走スルモノヲ云フ

八年九月五日第百三十七号  
改選縣令 第二百九十一  
条删除條此旨希希候

○捕亡律  
追捕罪人  
凡捕吏差違ヲ承ク罪人ヲ追  
捕スルニ事故ニ託シテ行カ  
ス若クハ罪人ノ所在ヲ知テ  
捕ヘサル者ハ杖一百

○罪人拒捕  
凡罪ヲ犯シテ逃走シテ追捕ヲ  
拒ク者ハ各本罪上ニ二罪ヲ  
加ヘ罪流三等ニ止ル本罪死  
スヘキ者ハ常律ニ依ル捕吏  
ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者ハ  
發殺ス者ハ斬從タル者ハ各  
一等ヲ減ス  
若シ罪人兇器ヲ持シ拒捕ニ  
ルニ捕吏之ヲ招殺シ及ヒ囚  
逃走スルニ捕吏之ヲ逐殺シ  
若クハ囚逃走ニ因テ害及シ  
自殺スル者ハ並ニ減スル  
勿レ  
若シ罪囚逃走スト雖モ已ニ  
拘執ニ就キ及ヒ拒捕セザル  
ニ捕吏之ヲ殺シ或ハ折傷ス  
ル者ハ各鬪殺條ヲ以テ論ス  
若シ死罪ニ該ル罪人ヲ捕吏  
一時忿激シテ殺スル者ハ  
杖九十

○捕亡律  
追捕罪人條例  
第二百九十二條 凡捕吏正  
犯ノ財ヲ受テ故殺スル同罪  
者正犯死ニ至レハ同罪者ハ  
絞ニ處スル律ヲ改メ懲役終  
身ニ從フト雖モ其財ヲ受テ  
シテ故殺シ及ヒ通信シテ逃  
避セシムル同罪者ハ罪懲役  
十年ニ止ル

○改選縣令  
凡罪ヲ犯シテ逃走スル者  
監及ヒ越獄シテ逃走スル者  
ハ各本罪上ニ二罪ヲ加ヘ罪  
流三等ニ止ル

第二百九十一條 (凡詭言怪  
說) 詭言傳及ヒ著述シテ政  
體ヲ妨害スル者ハ不應爲重  
刑入)

○捕亡律  
追捕罪人條例  
第二百九十三條 凡脱監及  
越獄シテ逃走スル者ハ各  
本罪上ニ二罪ヲ加ヘ罪流三

○改選縣令  
凡脱監及  
越獄シテ逃走スル者ハ各  
本罪上ニ二罪ヲ加ヘ罪流三

○改選縣令  
凡脱監及  
越獄シテ逃走スル者ハ各  
本罪上ニ二罪ヲ加ヘ罪流三

シ罪名アルモノハ各本罪ニ一等ヲ加フ  
○大坂府例 八年第四十三号  
未決ノ囚人反獄ヲ謀リ既ニ監獄ヲ脱獄シ未ク逃走セザル者ヲ三日ニ處シ可然ル指令 伺ノ獲  
○渡田縣例 八年第四号  
凡ソ罪ヲ犯シ翰問中親屬隣保等ニ責付申逃走シ檢之ヲ捕縛スルニ再逃走スル者責付及捕縛申逃走ノ罪ヲ本罪上ニ累加スヘキ事  
指令 二罪併罰一ノ重キヲ以テ論スヘシ

○京都裁判所例 九年第三十一号  
裁判ヲ不法トシ上告スルノ囚犯上告理アリテ原裁判ヲ破毀シ又其破毀ヲ平復シテ通當ノ法律ニ處スルモノノ其逃走罪如等ノ法如何ノ伺  
指令 復舊ノ本罪ニ二等ヲ加フ  
○川島縣例  
竊盜三犯金五十円以下想役十年ノ罪犯逃走申出野ニ拘留申出スルモノアリ改定律例第九十三條ニ照シ本罪ニ累加スルモノアリ以テ一等ノ罪ニ改定スルモノアリ  
竊盜三犯五十円以下想役十年拘留申出逃走スルハ脱獄起獄ニ在リテ檢テ想役十年止ムト指令アリ右ハ如何云々伺  
指令十年四月十日 伺ノ經改定律例第九十三條ニ

流三等ニ止ル本罪死スヘキ者ハ常律ニ依ル  
若シ罪囚反獄シテ逃走スル者ハ其罪同罪ノ囚人反獄等知ラサル者ハ坐セス  
其罪囚水火震災ノ變ニ因テ逸出シ投歸スル者ハ斬絞以下各一等ヲ減ス  
十二年二月廿四日司法省第一号ノ裁許  
三條ニ照シテ裁許  
ルノ後具上可裁モ裁許  
知可裁置此旨相違候事

等ニ止ル律ヲ改メ懲役終身ニ止ル  
第二百九十四條 凡反獄シテ逃走スル者ハ皆斬ニ處スル律ヲ改メ首ハ斬從ハ懲役終身  
第二百九十五條 凡罪囚糾合シテ越獄スルニ從ハス實ニ越獄シテ首報シ因テ罪囚即時ニ獲ニ就キ脱逃ヲ致サハル一ヲ得ル者及ヒ反獄ノ情ヲ知テ首報スル者ハ斬絞以下各本罪ニ一等ヲ減ス  
第二百九十六條 凡脱獄及ヒ越獄シテ逃走スル者再逃以上ハ又一等ヲ累加シ罪懲役終身ニ止ム懲役場ヲ逃走シ又監獄ヲ脱越スル者罪亦同  
第二百九十七條 凡囚人責

十二年三月廿五日司法省第一号ノ裁許  
十二年五月七日司法省第一号ノ裁許

第二百九十七條 凡囚人責

依地分スル最ト可心得事  
○仙臺裁判所檢事局例  
改定律例第九十六條凡脱獄及越獄シテ逃走スルモノ再逃以上ハ又一等ヲ累加シ罪懲役終身ニ止ムトハ未決ノ犯者再逃以上脱獄スル者ト解シ居候然ルニ大分罪同七年一月廿五日ノ御指令ニ再逃以上ハ二等ヲ累加ストハ論決ヲ經ル者ト云フ未決論決ヲ經スル者再逃スル者ハ累加ノ限ニ非スト之アリ右ハ本罪ト脱獄ト已ニ處決ヲ經テ其後限内罪ヲ犯シ監獄中更ニ脱獄スル者トシ禁獄中脱獄スル者ト候哉  
指令十年十月一日 逃走ニ及フモ未決罪ヲ斷決セサル者ハ再逃ノ名ヲ下サル捕再犯加等罪例ノ如シ大分際ニ指令ノ通心得ヘシ  
指令 懲役場逃走ノ罪罰決ヲ經テ又罪ヲ犯シ脱越スル者モ再逃トナシテ又犯ス所ノ罪ニ累加スルヲ云フ

第二百九十八條 凡懲役一年以上ノ囚人限内逃走スル者ハ杖七十改テ棒鎖二日再ヒ逃走スル者ハ絞改テ懲役終身  
第二百九十九條 凡懲役百以下ノ囚人限内逃走スル者ハ棒鎖一日仍ホ原犯ノ日

第二百九十九條 凡懲役百以下ノ囚人限内逃走スル者ハ棒鎖一日仍ホ原犯ノ日

○東洋裁判所例 七年第六十六号  
例第九十四條 凡懲役人ノ逃走ヲ檢シ仍テ逃走致サハル者ハ本罪ニ一等ヲ減スト之アリ候地若役囚數多軒合シ逃走スルニ便令ハ懲役一年ノ者同三年以上ノ囚人捕獲シ或ハ罪等キ者同一年以上ノ捕獲シ首告スルハ其罪及ヒ原犯ノ罪モ全免可致候其逃走罪ヲ免シ原犯ノ罪ハ仍ホ一等ヲ減スルニモ可有之哉

徒流人逃  
凡徒流ノ囚人役限未タ滿スシテ逃走スル者杖七十仍ホ配所ニ發シ其徒流原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘役シ已ニ役過セシ月日ハ並ニ通算セス再ヒ逃走スル者ハ絞  
若シ已ニ斷決セシ徒流ノ罪囚ヲ發遣シ未タ配所ニ到ラ

第二百九十九條 凡懲役百以下ノ囚人限内逃走スル者ハ棒鎖一日仍ホ原犯ノ日

脱獄及反獄逃走○懲役人逃

新律綱領 ○捕亡律

改定律例 ○捕亡律

本文ノ如キハ已ニ地決テ  
 得テ禁三百三條ニ依リ  
 罪ヲ免シ捕獲ノ功ハ例第  
 百四條ニ比擬シ本罪ニ一  
 ○大坂府例 七年第百九十  
 八号  
 懲役入他人逃走致スヘク  
 申切候ナ向惠セス其儀ハ不  
 局向者ノ何  
 指令可貴ニモス可シ  
 ○大分縣例 七年第百二十  
 三号指令  
 物ノ監獄ヲ脱越スルヲ以テ  
 二等ヲ加ヘ既ニ地決ノ後又  
 懲役場ヲ逃走スレハ懲役入  
 物逃ヲ以テ論ス  
 ○長野縣例 八年第百十九  
 号  
 例第三百八條凡懲役人逃走  
 ナ固リ未ダ役場ヲ離レシ  
 ナ捕ニ就テ者捕獲ニ日トア  
 リ右ハ懲役一年以上ノ者ト  
 見做シ其百日以下ノ者ハ如  
 何  
 指令 百日以下ノ者ハ第  
 百九十九條ニ照シテ輕減ス  
 ○滋賀縣例 八年百四号  
 懲役禁獄ノ囚限内逃走シ  
 新ニ捕獲スルモモモ事情酌

入中途ニシテ逃走スル者モ  
 罪亦同  
 若シ主守及ヒ押解人罪囚ノ  
 逃走スルヲ覺ラサル者ハ一  
 名ニ答四十一名毎ニ一等ヲ  
 加ヘ罪杖一百ニ止ル故縱ス  
 ル者ハ各囚ト同罪罪流三等  
 ニ止ル財ヲ受ル者ハ賊ニ計  
 入枉法ヲ以テ重キニ從テ論  
 ス  
 七年二月七日第十六号指令  
 若シ逃走スル者ハ例ニ照  
 シ捕獲ニ日仍ホ原犯ノ年限  
 二照シテ新ニ拘役スト雖モ  
 若シ逃走シ外ニ在テ又三年  
 以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年  
 限ニ原犯ノ年限ヲ合セテ拘  
 役スルモ亦四年ヲ過ルルヲ  
 得ス百日以下ノ罪ヲ犯ス者  
 モ亦原犯ニ合セテ拘役ス其  
 五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止  
 夕後犯ノ年限ニ照シテ科斷

限ニ照シテ新ニ拘役シ再ヒ  
 逃走スル者ハ捕獲ニ日更ニ  
 懲役一年ニ入ル若シ外ニ在  
 テ又百日以下ノ罪ヲ犯セハ  
 原犯後犯ヲ通算シテ新ニ拘  
 役ス其一年以上ノ罪ヲ犯ス  
 者ハ止夕後犯ノ年限ニ照シ  
 テ更ニ科斷ス  
 第三百條 凡懲役一年以上  
 ノ囚入逃走スル者ハ例ニ照  
 シ捕獲ニ日仍ホ原犯ノ年限  
 二照シテ新ニ拘役スト雖モ  
 若シ逃走シ外ニ在テ又三年  
 以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年  
 限ニ原犯ノ年限ヲ合セテ拘  
 役スルモ亦四年ヲ過ルルヲ  
 得ス百日以下ノ罪ヲ犯ス者  
 モ亦原犯ニ合セテ拘役ス其  
 五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止  
 夕後犯ノ年限ニ照シテ科斷

減スヘキト思量スルトハ輕  
 減不苦哉  
 指令 從新拘役スル者ハ減  
 等ヲ用テノ限ニ非ス  
 ○大阪縣例 所何  
 懲役六十日ノ限内逃走シ  
 外ニ在テ又六十日ノ限ヲ犯  
 セハ例第百九十九條ニ依  
 リ原犯後犯ヲ通算シ懲役百  
 二十日竊盜再犯ニ係ルヲ以  
 テ一等ヲ加ヘ拘役百三十日  
 ニ可然哉  
 指令 從新再犯ノ六十日ニ  
 一等ヲ加ヘ原犯ニ通算シテ  
 百三十日ヲ科ス  
 ○大坂上等裁判所何  
 例第三百三條ノ本條若シ外  
 ニ在テ又再犯ス者ハ自首  
 法ニ照シテ首免ヲ與フト最  
 モ其地罪及ヒ從新拘役ハ何  
 ホ本法ヲ冬スト有之右ハ捕  
 獲セラルルノ後外ニ在テ犯  
 スノ罪ヲ自首スル者ノ事ニ  
 シテ若シ捕獲ニ係ラズ逃罪  
 ト外ニ在テ犯スノ罪トヲ係  
 テテ首免スレハ俱ニ首免ヲ  
 与ヘ可然哉  
 指令 何ノ通  
 前条ハ懲役十年以下ノ囚ニ  
 就ル例ニシテ終身ノ囚ニ就  
 ル例ニ非テ捕獲見申候者シ  
 終身ノ囚逃走シ外ニ在テ罪

凡懲役五年以上ノ囚ハ  
 逃走スル者ハ例ニ照シテ  
 捕獲ニ日仍ホ原犯ノ年限  
 二照シテ新ニ拘役スト雖モ  
 若シ逃走シ外ニ在テ又三年  
 以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年  
 限ニ原犯ノ年限ヲ合セテ拘  
 役スルモ亦四年ヲ過ルルヲ  
 得ス百日以下ノ罪ヲ犯ス者  
 モ亦原犯ニ合セテ拘役ス其  
 五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止  
 夕後犯ノ年限ニ照シテ科斷

凡懲役五年以上ノ囚ハ  
 逃走スル者ハ例ニ照シテ  
 捕獲ニ日仍ホ原犯ノ年限  
 二照シテ新ニ拘役スト雖モ  
 若シ逃走シ外ニ在テ又三年  
 以下ノ罪ヲ犯セハ後犯ノ年  
 限ニ原犯ノ年限ヲ合セテ拘  
 役スルモ亦四年ヲ過ルルヲ  
 得ス百日以下ノ罪ヲ犯ス者  
 モ亦原犯ニ合セテ拘役ス其  
 五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ止  
 夕後犯ノ年限ニ照シテ科斷

第三百一條 凡懲役五年以  
 上ノ囚限内逃走スル者モ  
 亦例ニ照シテ捕獲ニ日仍ホ  
 原犯ノ年限ニ照シテ新ニ拘  
 役スト雖モ若シ逃走シ外ニ  
 在テ重テ五年以上十年以下  
 ノ罪ヲ犯ス者ハ並ニ拘役四  
 年ヲ加フ其一年以上三年以  
 下ノ罪ヲ犯ス者ハ後犯ノ年  
 限ヲ折半シテ加役ス其百日  
 以下ノ罪ヲ犯ス者ハ後限ヲ  
 全加シテ折半スルヲ用ヒ  
 入  
 第三百二條 凡懲役終身ノ  
 囚入逃走スル者ハ絞  
 刑ニ依リテ處スルニ可然哉  
 凡懲役終身ノ囚入逃走スル

懲役人逃

新律綱領

○捕亡律

三

改定律例

○捕亡律

百三十二

ヲ犯スノ後供ニ首出シ若クハ捕獲セラルルハ後外ニ在テ犯スノ罪ヲ首出スレハ如何  
○新澤縣何 九年第十八号 懲役人外役先ニテ懲治並人ノ逃走ヲ捕獲スル節職方  
指令 懲治並ニ在リ逃走スル者有罪 第三百四條ニ依リ無罪人ナレハ金封事ヲ増シ適宜ニ賞與スヘシ  
○高知縣何 九年第五十三号 懲役終身ノ囚逃走シ捕獲  
獄中未ダ断決セザル間罪田ノ糾合シテ越獄スルニ從ハス實ニ罪ヲ首出シ則チ罪田即チ二重ニ就キ脱逃致マ  
ルヲ得ルモノ何  
指令 本罪ニ一等ヲ減シ懲役十年ニ改動シ仍ホ逃罪ヲ科ス

○富嶺裁判所何 九年第五十一号 懲役終身ノ囚人逃走シ云々 懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯ス

者ハ捕獲三日再ヒ逃走スル者ハ(懲)

凡懲役終身ノ囚人逃走シ外

ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ懲役

人又犯罪條内懲役終身ノ囚

人又罪ヲ犯スノ例ニ照シテ

科斷ス

計詳三用三條何五五通何

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人再ヒ逃走

スル者ハ赦改テ捕獲十日

第三百三條 凡懲役人逃走

シテ自首スル者ハ逃罪ヲ免

シ仍ホ原犯ノ年限ニ照シテ

新ニ拘役ス若シ外ニ在テ又

罪ヲ犯ス者ハ自首法ニ照シ

テ首免ヲ與フト雖モ其逃罪

及ヒ從新拘役ハ仍ホ本法ヲ

盡ス

第三百四條 凡懲役人ノ逃

走ヲ報シ因テ逃走シ致サ、

ルヲ得ル者ハ本罪ニ一等

ヲ減ス

第三百五條 凡懲役人逃走

ヲ圖リ未ダ役場ヲ離レズシ

テ捕ニ就ク者ハ捕獲二日從

新拘役ノ限ニ在テス

第三百六條 凡懲役人水火

盜災ノ變ニ因テ逃出シ二十

四時間ニ役歸スル者ハ逃罪

ヲ問ハズ若シ時ヲ過テ役歸

セサル者ハ例ニ照シテ捕獲

二日仍ホ原役ノ剩ル日數ヲ

役入其變ニ過ヒ内ニ在テ逃

出セス能ク消救防禦スル者

ハ本罪ニ一等ヲ減ス

第三百七條 凡禁錮限内外

人ニ接見通信シ若クハ疾病

療養等ニ託シテ潛ニ行歩ス

ル者ハ原限ノ年日ニ照シテ

科斷ス

○大宮監獄何

例第百九十八條ニ懲役一

年以上ノ囚人再ヒ逃走スル

者ハ赦改テ懲役終身トアリ

テ捕獲ニ日ヲ科スルノ正支

ナシ如何

指令 十一年一月廿八日

何ノ起捕獲二日ノ上懲役終

身ニ起スル處ト可心得事

○東京上等裁判所何

七年本省日誌第百三十二号京師裁判所何何指令ニ依テ

若シ既逃去スル者常八通シ以テ科斷ス

○東京上等裁判所何

○第七條

○第七條

ト有之右ハ賣却賣スル者ニ限リ其罪ヲ論スルカ得テ賣却  
シテ其罪ノ問フカ知キハ懲役人逃ハ各ニ常人並ニ付  
スルノ不都合アリ申置其賣却賣スル等為ニスル所ア  
指令十一年二月十八日 何ノ道

○東京裁判所何  
係釋者刑罰則ノ親戚等ハ須  
ケテハ被告ノ人逃走スル時ハ  
其保管人ハ如何に断スルヤ  
云々何  
指令十年四月十四日  
昨九年太政官第百十八号公  
布ヲ以テ刑罰第百十条ニ廢  
止ニ付總テ保管人ノ不覺失  
罪ハ不問ニ置テ保管人心算  
ヘシ

○要義  
三守不覺失罪ノハ罪  
四ノ看守スルトコロノ獄吏  
等ナルハ其罪ノ問フカ知キモ  
其他主守ノ保管人ニ依テ保  
セラルル者ハナキヤ  
答コトアリ保管人ニ依  
テ被告ノ人逃走スル時ハ  
保管人ノ保管ヲ免カレシ  
ムルハ則チ主守ノ保管ニ依  
テ其罪ノ問フカ知キハ保  
中逃走スル者ハ保管人保  
以テ論ス其保管人逃走スル  
ヲ覺テテ保管人ニ依テ保  
官ニ没レ故保管人ハ保管全  
守不覺失罪中故保管人ハ主  
守ヲ以テ科斷ストアリ以テ知  
ヘシ

主守不覺失罪 凡主守罪囚ノ逃走スルヲ覺 ラサル者ハ各四十若シ罪囚 及獄シテ逃走スル片ハ一等 ヲ減シ故終スル者ハ各四ト 同罪罪流三等ニ止ル 若シホタ斷決セサルノ間自 ラ捕獲シ及ヒ他人捕得シ若 クハ囚已ニ死シ及ヒ自首ス ルハ各一等ヲ減ス財ヲ受ル 者ハ賊ニ計ヘ在法ヲ以テ重 キニ從テ論ス 若シ賊外ヨリニ入り罪囚 ヲ劫スニ防禦スト虽モ力敵 スルト能ハサル者ハ論スル	新ニ之ヲ科ス 若シ潛出シテ他ニ投宿シ及 ヒ縱飲スル等ニ係レハ懲役 七十日賤罪スルヲ聽シ仍 ホ新ニ原限ヲ科ス 主守不覺失罪條例 第三百八條 (凡主守看守ニ 失シ囚テ未決ノ囚自盡ニ至 ラサル者ハ懲役三十日 第三百九條 (凡主守囚ノ逃 走者覺テサレ者ハ捕限三十 日ヲ給テ追捕セシム限内捕 得スレハ二等ヲ減シ其故終 スル者ハ捕限ヲ給セス 第三百十條 (凡保管人囚ノ 逃走ヲ覺テ捕獲スル者ハ主守不 覺失罪律ニ二等ヲ減ス)
--	---

○水沢縣何  
其藏匿指引シテ隠避セシム  
ル者各罪人ノ罪ニ二等ヲ減  
スルハ木記捕獲ノ後其罪指  
テ定ム云々何  
七年十月八日 指令  
木記捕獲スルノ能ハスト  
虽モ藏匿者ヲ詢問ノ上求証  
明白確然疑ヒナキヲ得テ減  
等ノ罪ヲ科斷スヘシ

○參者ノ部  
本律第二項ハ名例律親屬相  
為容隠律第二項ヲ參者スヘ  
シ

○同例  
例第三百十一條凡官司云々未タ知ラスレテ藏匿隠避セ  
シタル者ハ保ニ付テ量ヲ不應為ニ問ヒ云々ト若シ未タ  
斷決セサルノ間自ラ捕獲スレハ本律第二項ニ比擬シテ  
其罪ヲ免レ他人捕得レ及ヒ罪人自ニ死シ若シ自首ス  
レハ又各不應為輕重ニ一等ヲ減レ可然哉  
指令 自ラ捕獲スレハ本律後項ニ依リ罪免他人捕獲ス  
レハ不應ノ本罪ヨリ一等ヲ減ス其罪人自ニ死シ若シハ自  
首減免セラルルハ犯罪共逃檢ノ後項ニ依テ處分スヘレ  
節ノ條何 九年四月十五号  
例第三百十一條云々各罪人ノ罪ニ二等ヲ減スル律ヲ改  
テ三等ニ從テトアル其懲役一年以上ノ罪囚ニシテ逃  
走セシ情ヲ知リ為ニ藏匿隠避セシムル者本律ノ律銷從  
新約後ノ年數ヲ合セラニ等ヲ減スル手藏匿隠避者ハ只  
本律從新約後ノ年數ヨリ二等ヲ減セン手  
指令 從新約後ノ年數ヨリ二等ヲ減ス

主守不覺失罪 ○藏匿罪人

藏匿罪人 凡他人罪ヲ犯シ事發シテ官 司人ヲ差ハシ追喚スルヲ知 リ家ニ藏匿シテ捕告ヲ行ハ ス及ヒ逃走スル道路ヲ指引 シ衣糧ヲ資給シ送テ他所ニ 隠避セシムル者ハ各罪人ノ 罪ニ二等ヲ減ス其報轉シテ 相送り罪人ヲ隠匿スル者情 ヲ知ル者ハ皆坐ス知ラサル 者ハ論スルト勿レ 若シ官司ノ追捕ヲ偵知シテ 其事情ヲ漏泄シ罪人ヲシテ 隠避セシムル者モ罪人ノ罪 ニ二等ヲ減ス未タ斷決セサ ルノ間自ラ捕獲スル者ハ罪 ヲ免ス若シ他人捕得シ及ヒ 罪人自ニ死シ若シ自首ス レハ又一等ヲ減ス	藏匿罪人條例 第三百十一條 凡官司人ヲ 差シ追喚スル罪人タルトテ 知テ爲メニ藏匿指引シテ隠 避セシムル者ハ各罪人ノ罪 ニ一等ヲ減ス其律ヲ改テ減 ニ等ニ從テ若シ罪人未タ官 司ノ追喚ニ係ラス若シハ已 ニ追喚スル者ト虽モ未タ知 ラスシテ藏匿隠避セシムル 者ハ俱ニ情ヲ量テ不應為ニ 問ヒ輕重ヲ分ツ
---	---

新律綱領 ○捕七律 五

改定律例 ○捕七律



○要義  
 問 本條ハ專ラ無罪ノ人ヲ  
 故サラニ禁獄スルモノヲ罰  
 スルノ律ナルハ論依クモ  
 ストモ其罪若シ有罪人ヲ擅マ  
 ニ禁獄スルモノアルハ  
 如何シテ可ナルヤ  
 答 有罪人ヲ擅マ、ニ禁獄  
 スルモ其犯情ニ依テハ本律  
 ラ以テ論スルアリ例ハ  
 裁判官私譽ヲ懷挾シテ保釋  
 ヲ許スヘキモノヲ許サシム  
 ルハ保釋條例第十四條ニ依  
 リ本律ヲ以テ問罪スル如キ  
 是ナリ蓋シ保釋條例第十四  
 條ノ法旨ヲ推究スルニ據テ  
 罪人ト稱スルハ刑ノ旨或テ  
 受ケ其裁判確定ニ至ラザレ  
 ハ有罪人ト看做サ、ルトノ  
 法理ヨリ出タルモノナルヘ  
 シ何トナレハ該條例中罪人  
 ト稱セシテ皆被告ノ人ト稱  
 スルカ如キ以テ知ルヘシ

其罪人ニ追効セラレテ罰ス  
 ル一能ハス已ムトテ得スシ  
 テ藏匿スル者ハ三等ヲ減ス  
 ○  
 斷獄律  
 故禁無罪人  
 凡官吏私離ヲ懷挾シ故サ  
 ニ無罪人ヲ禁獄スル者ハ徒  
 一年因テ死ニ致ス者ハ絞司  
 獄官獄卒知テ舉首セサル者  
 ハ同罪罪流三等ニ止ル知ラ  
 サル者ハ坐セス  
 若シ官吏私離ヲ懷挾シ故サ  
 ラニ無罪人ヲ拷訊スル者ハ  
 徒一年折傷以上ハ凡關傷ニ  
 二等ヲ加ヘ因テ死ニ致ス者  
 ハ新同様官獄卒情ヲ知テ共  
 ニ持訊スル者ハ同罪罪流三  
 等ニ止ル知ラサル者ハ坐セ  
 ス

○  
 斷獄律

○定知如何  
 七年十二月十五日指令  
 詳載スヘキ器具ヲ役田ニ與フルノ約話ストモ本  
 其期ニ至ラサルニ覺スルヲ以テ不慮ニ疑ニ問ヒ曉テ  
 捕メ  
 ○山形縣例  
 八年第二十七号  
 懲役人ニ衣裳或ハ金等ヲ貸進メ者例第三十三條ニ基  
 シテ給シ凡人タルヲ以テ一等ヲ減シ違テ給シ可  
 捕令 何ノ通

○陸奥罪四  
 凡獄卒非違ニ在獄ノ罪囚ヲ  
 陵虐毀傷スル者ハ凡關傷ニ  
 依テ論ス罪囚ノ衣食ヲ尅減  
 スル者ハ賊ニ計ヘ監守自盜  
 ヲ以テ論ス因テ死ニ致ス者  
 ハ絞司獄官吏知テ舉首セサル  
 者ハ同罪罪流三等ニ止ル  
 ○與囚金刃  
 凡獄卒金刃及ヒ他物ノ自檢  
 スヘシ及ヒ解脫スヘキノ具  
 ヲ以テ囚ニ與スル者ハ絞一  
 百囚ヲ囚逃走シ及ヒ自傷シ  
 或ハ人ヲ傷スルトテ致ス者  
 ハ徒一年若シ囚自殺シ及ヒ  
 人ヲ殺ス者ハ徒二年  
 若シ財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ  
 枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス  
 救囚類異

○斷獄律  
 凡獄卒金刃及ヒ他物ノ自檢  
 スヘシ及ヒ解脫スヘキノ具  
 ヲ以テ囚ニ與スル者ハ絞一  
 百囚ヲ囚逃走シ及ヒ自傷シ  
 或ハ人ヲ傷スルトテ致ス者  
 ハ徒一年若シ囚自殺シ及ヒ  
 人ヲ殺ス者ハ徒二年  
 若シ財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ  
 枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

○斷獄律  
 第三百十二條 凡常人囚ニ  
 金刃ヲ與ヘ及ヒ子孫祖父母  
 父祖ニ與ヘ雇人家長ニ與テ  
 爾者ハ各獄卒ノ罪ニ一等ヲ  
 減ス  
 第三百十三條 凡獄卒金錢  
 其他應禁ノ物ヲ傳遞シテ囚  
 ニ與フル者ハ違令重ニ問テ  
 若シ財ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ  
 枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス

故禁無罪人 ○陸奥罪四 ○與囚金刃

斷獄律 ○新獄律

改定律例 ○斷獄律

○兵座裁別所何 七年第八  
十三号指令  
老幼痲疾者云々 違フ者ハ故  
失人入罪律ニ依ルトハ拷訊  
シテ罪ニ故失入アルハ云  
フ若シ故失入ナキモ律ニ違  
ヒ拷訊アル者ハ情ヲ量リ違  
判輕重ニ問フ

○積濟審判所何  
刑罰ノ輕重入實情ヲ言ハス故テラニ証証ヲ行フモノ  
ハ即チ直知某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タル證人トシテ其言  
ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言  
ハ内某人ノ證イテ知ラサルト其證人トナリテ証証シ  
テ其言ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言  
ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言

凡司獄官獄卒罪四ニ教令シ テ事情ヲ翻異變亂セシメ及 ヒ爲ニ言語ヲ外人ニ傳傳シ 其罪ヲ増減シル者ハ故出入 人罪律ヲ以テ論ス外人ノ犯 ス者ハ一等ヲ減ス若シ財ヲ 受ル者ハ並ニ贓ニ計ヘ枉法 ヲ以テ重キニ從テ論ス	老幼不拷訊	凡年七十以上十五以下若ク ハ痲疾者ハ並ニ拷訊ス可カ ラス皆衆證ニ據テ罪ヲ定ム 違フ者ハ故失入人罪律ヲ以 テ論ス其相察隱スルコト得 ルノ人及ヒ年八十以上十歲 以下若クハ篤疾者ハ皆證ヲ ラシムルコト得ス違フ者ハ 答四十	獄囚誣指無罪人	凡罪囚獄ニ在テ無罪人ヲ誣
--	-------	---	---------	--------------

○積濟審判所何  
刑罰ノ輕重入實情ヲ言ハス故テラニ証証ヲ行フモノ  
ハ即チ直知某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タル證人トシテ其言  
ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言  
ハ内某人ノ證イテ知ラサルト其證人トナリテ証証シ  
テ其言ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言  
ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言

○積濟審判所何  
刑罰ノ輕重入實情ヲ言ハス故テラニ証証ヲ行フモノ  
ハ即チ直知某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タル證人トシテ其言  
ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言  
ハ内某人ノ證イテ知ラサルト其證人トナリテ証証シ  
テ其言ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言  
ニ立証シテ某甲人ノ物ヲ盗ムヲ視タルトナリテ其言

指スル者ハ誣告ヲ以テ論ス 其本犯罪重キ者ハ重キニ從 テ論ス	若シ官吏獄囚ヲ鞫問スルニ 非法ニ拷訊シ故サテニ教令 ヲ行ヒ無罪人ヲ誣指スル者 ハ故失入人罪律ヲ以テ論ス	若シ囚ヲ鞫シテ證佐ノ人實 情ヲ言ハス故サテニ誣證ヲ 行フ者ハ罪人ノ罪ニ二等ヲ 減ス	出入人罪 凡官吏故サテニ人ヲ罪ニ出 入シ全ク出タシ全ク入ルハ 者ハ出入スル所ノ全罪ヲ以 テ論ス若シ故サテニ輕ヲ增 シテ重キ作シ重ヲ減シテ輕 ト作ス者ハ其増減スル所ノ 罪ヲ以テ坐ス死ニ至ル者ハ 坐スルニ死罪ヲ以テス	出入人罪條例 第三百十四條 凡故ラニ出 入シ及ヒ入ルニ失スル罪 人ハ已ニ斷了ヲ終ルトモモ 檢舉シテ改正スルコト得ヘ キ者ハ改正シ其出タスニ失 スル者ハ貼斷スルコト得ヘ ス 第三百十五條 凡官司屬傷
-------------------------------------	--	--	--	--

救回網具 ○若切不拷訊 ○出入人罪

新律綱領 ○斷獄律

改定律例 ○刑教律

第九年第六十号  
 指令 續承ヲ授テ突前スル者ハ未ダ役セザル日數ヲ除キテ收積ノ額ヲ算決スル者ハ例第三十一條所定ノ法ニ依リテ算分スルニ付 禁獄ノ除族ニ入ル者ハ族母ノ復シテ更ニ禁獄ニ入ル可シ  
 附則 中現品取上科科中付ル事並行ノ者該官更其ヲ  
 持令十年三月廿八日 福永現品ヲ取上テ可シ  
 福永現品列所何  
 囚人上告期限三日間ハ未ダ確定ノ者ト看做サス仍ホ其期限ニ出ルモノ 福永現品ヲ取上テハ復冷出タスニ失スル者ト算シ 例第三十四條ニ關セテ改正貼附スルノ得ヘキ也  
 持令十年五月十六日 上告期限三日間ト受モ上告ニ係ラズレテ失出入ノ檢舉スルハ例第三十四條ニ依ル

若シ罪ヲ解シテ入ルニ失スル者ハ各三等ヲ減入出タスニ失スル者ハ各五等ヲ減入並ニ罪所由ヲ以テ首ト爲ス  
 若シ囚未ダ處決放免セス及ヒ放テ還テ獲若シハ囚自死スレハ官吏ノ罪又各一等ヲ減スル一ノ罪ハ  
 官杖不如法  
 凡官吏官杖ヲ用ルニ故サレニ法ノ如クセサル者ハ各三十日ヲ死ニ致ス者ハ杖一百  
 連帶金二十五兩ヲ追徴ス普杖ヲ行フノ人ハ各一等ヲ減シ金兩ヲ追徴セス若シ罪人ノ腎臟刑ヲ受テヘキ處ヲ法ニ依リ決打シテ追追ニ死ニ致ス者ハ論スル一勿レ  
 婦人犯罪

檢視シテ實ナラサル者ハ懲役四十日囚テ罪ニ増減アル者ハ失出入人罪ヲ以テ論ス若シ財ヲ受ケ故ラニ實ヲ以テセサル者ハ故出入人罪ヲ以テ論ス贓重キ者ハ贓ニ計ヘ枉法ヲ以テ重キニ從テ論ス  
 九年一月十四日可決者  
 九年七月

○新治罪例何  
 七年五月廿四日指令  
 婦人犯罪後ニ發覺シ禁獄ノヲ相問スヘキモノハ監獄ヲ除族ニシテ其可容テ得テ處置スヘシハモシモ日數ニ拘ラス者シ禁獄ニ入ラズニ致ス者アラハ口書ヲ以テ相問ヘン

○要義  
 凡婦人輒罪ヲ犯スハ本夫ニ責付シテ保管セシム如シ夫チキ者ハ親屬ニ保ニ責付シテ保管セシム重罪ハ禁獄スル一ノ罪ハ連帶金二十五兩ヲ追徴ス若シ罪人ノ腎臟刑ヲ受テヘキ處ヲ法ニ依リ決打シテ追追ニ死ニ致ス者ハ論スル一勿レ  
 婦人犯罪

凡婦人輒罪ヲ犯スハ本夫ニ責付シテ保管セシム如シ夫チキ者ハ親屬ニ保ニ責付シテ保管セシム重罪ハ禁獄スル一ノ罪ハ連帶金二十五兩ヲ追徴ス若シ罪人ノ腎臟刑ヲ受テヘキ處ヲ法ニ依リ決打シテ追追ニ死ニ致ス者ハ論スル一勿レ  
 婦人犯罪

九年二月十九日可決者  
 九年七月  
 九年十月  
 九年十一月  
 九年十二月

官杖不如法 ○婦人犯罪

新律綱領 ○斷獄律

改定律例 ○斷獄律



中御門	五月十日	同九百三十八年	後醍醐	十二月六日	同九百三十六年
盤元	九月十四日	同九百三十九年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光明	十月二十日	同九百四十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後水尾	九月十一日	同九百四十一年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後深草	八月廿五日	同九百四十二年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
仲崇	六月十五日	同九百四十三年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
土御門	十一月十三日	同九百四十四年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
安徳	五月三十日	同九百四十五年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後白河	八月三十日	同九百四十六年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
崇徳	九月廿一日	同九百四十七年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
堀河	八月十六日	同九百四十八年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後三條	六月廿一日	同九百四十九年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後朱雀	二月十三日	同九百五十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
三條	六月十一日	同九百五十一年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
冷泉	三月廿三日	同九百五十二年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
崇徳	十一月廿七日	同九百五十三年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
宇多	九月十一日	同九百五十四年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後醍醐	九月八日	同九百五十五年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	三月廿五日	同九百五十六年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百五十七年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百五十八年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百五十九年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十一年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十二年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十三年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十四年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十五年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十六年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十七年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十八年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百六十九年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十一年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十二年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十三年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十四年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十五年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十六年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十七年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十八年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百七十九年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十一年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十二年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十三年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十四年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十五年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十六年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十七年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十八年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百八十九年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百九十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年
後光嚴	八月三十一日	同九百九十年	後光嚴	八月三十一日	同九百三十七年

桃 八月三十一日  
 仁 十二月六日  
 以 二月廿一日

同九百一十三年  
 同九百一十六年  
 同九百一十九年

後醍醐 十二月廿四日  
 光 十二月十二日  
 明 一月三十日

同九百一十二年  
 同九百一十五年  
 同九百一十八年

○官署願向  
 凡罪ヲ斷シテ決配スヘキヲ  
 失誤スルハ律ニ明テアリ  
 トモモ決スヘキヲ誤テ決  
 者如何可心得  
 七年三月二十三日特令  
 凡失誤スヘキヲ故サラニ  
 罪ノ輕重スヘキヲ故サラニ  
 失誤スルモノハ不應爲重ニ  
 問ヒ失誤スルモノハ建式ニ  
 二問フ其間利ノ違誤スル者  
 モ亦此法ニ依ル  
 ○京都裁判所  
 九年第八十六号は布ヲ以テ  
 罪ヲ斷スルハ任ニ依ルトモ  
 ノラレ上ハ檢事ヨリ求テ  
 有之各四ノ内ニ於テ取ニ糾  
 問判事ノ下調等ニテ記狀首  
 尾具足セシ後印齊ノ口供  
 ルハ再ヒ裁判官前ノ罪  
 實式ニ依ヒ口供ヲ爲リ水  
 印ヲ取ル等重罪ノ手教ヲ受  
 スルニ及ハサル儀ト存案ニ  
 付以東判事檢問ノ上其申立  
 右口供ト更ニ相異ノ原由之

新律不當

斷罪不當  
 凡罪ヲ斷シテ決配スヘキヲ  
 故サラニ收贖シ收贖ス可キ  
 ヲ決配スル者ハ故出入人罪  
 律ニ依テ一等ヲ減ス失誤ス  
 ル者ハ失出入人罪律ニ依テ  
 一等ヲ減ス  
 若シ絞スヘキヲ故サラニ斬  
 也斬スヘキヲ絞スル者ハ皆  
 五十失誤スル者ハ三等ヲ減  
 入

斷罪不當條例  
 第三百十七條 凡收贖ス可  
 キヲ斷テ決配スル者改正ス  
 ル一テ得可キ者ハ改正シ其  
 實斷スヘキヲ誤テ收贖スル  
 者ハ貼斷スル一テ用ヒス  
 第三百十八條 凡罪ヲ斷ス  
 ルハ口供結案ニ依ル若シ目  
 結セスシテ死亡スル者ハ證  
 佐アリト雖モ其罪ヲ論セス  
 九年六月十日第八十六号律  
 考改定律例第三百十八條  
 左ノ通改正  
 凡ソ罪ヲ斷スルハ証ニ依ル  
 若シ未夕斷決セスシテ死亡  
 スル者ハ其罪ヲ論セス

新律綱領

○斷罪律 五

改定律例 ○斷罪律



受贓 詐偽 雜犯 捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 陶器 罰罰 訴訟 受贓 詐偽 雜犯 捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 陶器 罰罰 訴訟

(坐贓五圓以上)  
 (見任官ノ子孫弟姪家令等ト詐稱シテ犯ス所輕キ者ノ從)  
 (火ヲ失シテ自己ノ宅舍ヲ燒ク者)(違式ノ重キ者)(不應爲輕ノ從)  
 (官吏若クハ行フニ故ラニ法ノ如クセサルニ管杖ヲ行フノ人)  
 懲 役 三 十 日  
 (田獵ヲ欺隱シ厥積ニ脱漏スル者一畝ヨリ五畝ニ至ルハ每五畝加一等里長知テ舉セサルハ同罪)(典  
 スル所ノ田宅等年限已ニ滿テ未償ノ備ヘテ取贖スルニ典買主車故ニ託シテ肯セサル者)(故ナク  
 河防ヲ決潰シ水柵石籠ヲ毀損スル情輕キ者不應爲輕ノ問ヒ)(雇人逃亡スル者)(故ナク  
 兇徒衆ヲ聚ムルニ附和隨行場ニ在テ勢ヲ助クル情輕キ者違令ニ問ヒ)(夜故ナク人家ニ入ル者)(劫  
 盜竊主造意セズ贓ヲ分テサレ者)  
 (故ナク弓箭鉄砲ヲ放テ及ヒ劍刃ヲ擡ク者)  
 (手足ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成シ及ヒ瓦石棍棒等ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成サ、ル者)  
 (平民本屬ノ違卒ヲ罵ル者)  
 (官吏訴訟人ト親屬若クハ師弟及ヒ離隙アル者ハ並ニ迴避スルヲ聽ス違フ者ハ)(官吏婚姻錢債田  
 宅等ノ事ヲ爭論スルコトアルハ家人ヲシテ官ニ告テ對理セシム自ラ公文ヲ以テ行移スルコトヲ許サス  
 違フ者ハ)  
 (坐贓二十圓)(巡捕官吏盜賊ヲ獲テ贓物ヲ尅留シ官司ニ送ラサル者)  
 (私ノ文書ヲ詐偽シ情輕キ者不應爲輕ノ問ヒ)(計斗ノ邊縁ヲ增補シ秤量ノ標準懸紐ヲ變換シ利ヲ  
 圖ル情最輕キ者不應爲輕ノ問ヒ)(見任官ノ子孫弟姪家令ト詐稱シ犯ス所輕キ者)(齊貫名氏ヲ詐稱  
 シテ客應ニ宿スル者不應爲輕ノ問ヒ)(官吏人等疾病ト詐稱シ車ニ臨シテ難ヲ遊ル者)  
 (稅居人火ヲ失シテ其家ヲ燒ク者)(火ヲ失シテ人ノ山林柴草空閒房屋田場積聚ノ物ヲ延燒スル者ハ

捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 陶器 罰罰 訴訟 受贓 詐偽 雜犯 捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 陶器 罰罰 訴訟

官私ヲ分クテ(違令ノ輕キ者)(不應爲ノ輕キ者)  
 (主守失囚ノ後囚死シ及ヒ自首スレハ)(罪人未ク官司ノ追喚ニ係ラス若クハ追喚スル者ト雖モ未ク  
 知ラスシテ藏匿隱避セシムル情輕キ者不應爲輕ノ問ヒ)  
 (官吏管杖ヲ用ルニ故ラニ法ノ如クセサル者)(婦人輕罪ヲ犯セハ本夫親屬ニ責付ス重罪ハ監禁スル  
 コトヲ許ス違フ者ハ)(禁刑ノ日ニ於テ因リ處決スル者)  
 懲 役 十 日  
 (百兩ニ限告セズ檢ニ出テ五十日ヲ過ル者違令重問)  
 (竊盜財ヲ得サル者ニ盜賊ヲ以テ事主ニ投還スル者)(兇徒衆ヲ聚ムルニ附和隨行場ニ在テ勢ヲ助ク  
 ル情最輕キ者違令重問)(共ニ強盜ヲ謀リ一人臨時行ハス行フ者知テ竊盜ヲ爲スニ餘人ノ行ハ  
 ス贓ヲ分テサレ者並ニ)  
 (深山曠野猛獸ノ住來スル所ニ於テ坑穿ヲ穿作シ及ヒ高弓ヲ安置シ望竿及ヒ抹眉索ヲ立サル者)(看  
 守人失察シ瘋癲人ヲ傷スルニ至ラシムル者)(變死ニ係ル屍ヲ檢視ヲ經ス損ニ埋葬スル者)  
 (瓦石棍棒等ヲ以テ人ヲ毆テ傷ヲ成ス者)(刀ヲ持シ人ヲ傷スト雖モ其皆柄ヲ以テ毆テ亦ヲ用ヒサレ  
 ハ)(關腰方寸以上ヲ抜ク者)(關腰人ヲ傷スルニ鋒刀承刀ヲ用ヒ傷仍ホ輕キ者)  
 (判任官表任官ヲ罵ル者)(表任官勅任官ヲ罵ル者)  
 (坐贓四十圓)  
 (人ノ寶貨ヲ偽造スルヲ知テ官司ニ申報セサル者違令重問)  
 (法令ヲ曲ケンコトヲ欲シ公事ヲ囑託スル者ハ自他ヲ論セス當該官吏聽從スル者)(同罪)(火ヲ失シテ  
 人ノ宅舍ニ延燒スル者)(違令ノ重キ者)  
 (獄中金錢其他應禁ノ物ヲ傳遞シテ囚ニ與フル者違令重問)(老幼廢疾者ハ拷訊セス衆証ニ據テ  
 罪ヲ定ムト雖モ相容隱ヲ得ルノ人及ヒ年八十以上十年以下若クハ篤疾者ハ證ヲラシムルヲ得ス違

職制 戸婚 賊盜 人命 闘毆 罵詈 訴訟 受贓 詐偽 犯姦 雜犯 捕亡 斷獄

フ若ハ二官司屍傷ヲ檢視シテ害ナラサル者一	懲	五	日
〔官吏里長差役ヲ科スル法ニ違ヒ平均ナラサル者〕			
〔餘ノ文書ヲ盗ム者〕常人盗財ヲ得サル者〔竊盜壹圓以下二子孫ヲ略賣シテ婚嫁トナス者〕			
〔謀殺未タ行ハスト雖モ謀狀顯跡アルノ從〕			
〔官殿内ニ於テ忿争スル者〕皇城門ニ控入スル者一			
〔卑幼四等親ノ尊長及ヒ妻ノ父母ヲ罵ル者〕〔妻妾夫ノ四等親ノ尊長ヲ罵ル者〕			
〔不在法贓一圓以下二坐贓六十圓二官吏公務因テ擅ニ所部内ノ財物ヲ科斂スル者ハ已レニ入レスト			
難凡			
〔絞ス可キヲ故ラニ斬シ斬ス可キヲ絞スル者〕	懲	六	日
〔監守自盜財ヲ得サル者〕〔常人盗一圓以上二竊盜一圓以上二餘ノ重事ニ關スル文書ヲ盗ム者〕	役	十	日
〔常人他人ノ爲ニ人命ヲ私和スル者〕			
〔官司ノ差人ニ抗拒シテ服セサル者〕			
〔判任官ヲ罵ル者〕〔判任官勅任官ヲ罵ル者〕〔三等親ノ尊長ヲ罵ル者〕〔妻妾夫ノ三等親ノ尊長ヲ罵ル者〕			
〔妻ノ父母ヲ告ルニ實ヲ得ト雖モ二雇人家長ヲ告ル者〕			

三十三

受贓 詐偽 犯姦 雜犯 捕亡 斷獄 職制 戸婚 賊盜 人命 闘毆 罵詈 訴訟 受贓 詐偽

〔在法贓一圓以下二不在法贓一圓以上二坐贓八十圓〕			
〔郷社ニ於テ火ヲ失スル者〕〔火ヲ失シテ同居五等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者〕〔不應爲重キノ從〕			
〔故ナク河防ヲ決潰シ水掘石籠ヲ毀損スル情重キ者不應爲重二問ヒ二嫡長子孫亡没疾病等ノ故ナク	懲	七	日
シテ庶子ヲ立ル者〕			
〔私印ヲ盗ム者〕〔監守盗一圓以下二常人盗一圓以上二竊盜十圓二妻ヲ和賣シテ婚嫁トナス者二妹姪			
及ヒ外孫ヲ略賣シテ婚嫁トナス者二兇徒ニ附隨シテ墻屋ヲ毀ツ者〕			
〔雇人ノ二殺サレ家長私和スル者〕〔地界内ニ死屍アルヲ官司ニ告ケス他所ニ移シ及ヒ埋藏スル者〕			
〔子孫ノ屍ヲ棄ル者〕〔地界内ニ棄兒アリ及ヒ病ニ因リテ昏倒スルヲ他所ニ移ス者〕			
〔闘毆人ヲ傷スルニ鐵刀茶刀ヲ用ヒ傷輕キ者〕〔判任官奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ毀ツ者〕〔雇人家長ノ			
故令ニ違犯スルニ督責シテ邂逅死ニ致ス者〕			
〔人命及ヒ海盜等ヲ告ルニ官司即時ニ受理セサル者〕〔四等親ノ尊長ヲ告ル者〕			
〔在法贓一圓以上二不在法贓十圓二坐贓百圓〕			
〔私ノ文書ヲ詐爲シ情重キ者不應爲重二問ヒ二實貨ヲ販受スルノ後始テ偽造ニ係ルヲ知リ官ノ檢視			
ヲ經スシテ行使スル者不應爲重二問ヒ二斛斗ノ邊被テ増補シ秤量ノ標星懸紐ヲ變換シテ利ヲ圖ル			
情輕キ者不應爲重二問ヒ二無官ニシテ有官或ハ官ノ差遣ト詐稱シ及ヒ官員ノ姓名詐冒シテ求爲ス			
ル所アリト雖モ侵ス所輕キ者二官吏人等疾病ト詐稱シ避ル所重キ者二人ト忿争シテ故ヲ二自ラ傷			
殘シ人ニ詐稱スル者二其雇ヲ受ケ人ノ爲ニ傷殘スル者及ヒ當該官司知テ總行スル者並ニ犯入ト同			
罪一			

刑名一覽表



犯姦 雜犯 捕亡 斷獄 職罰 戶婚 賊盜 人命 關限 訴訟 受贓 詐偽 犯姦 雜犯

〔人ノ妾ヲ媒合容止シテ通姦セシムル者〕  
 〔宮殿及ヒ倉庫ヲ守衛シ若クハ囚ヲ掌ル者火ノ起ルヲ見テハ所守ヲ離ル、コトヲ得ス違フ者二火ヲ失シテ同居四等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者二府縣社ニ於テ火ヲ失スル者二外ニ在リ火ヲ失シテ公廩倉庫ヲ延焼スル者二不應爲ノ重キ者二佛像ヲ乘毀スル者二詭言怪說ヲ流傳シ及ヒ著述シテ政體ヲ妨害スル者〕  
 〔禁錮限内潛出シテ他ニ投宿シ及縱飲スル者贖ナ聽ス二罪人ホク官司ノ追喚ニ係ラス若クハ已ニ追喚スル者ト雖モ未タ知テスシテ藏匿隱避セシムル情重キ者不應爲重ニ同ヒ〕  
 〔死囚ヲ奏請シ回報ヲ待タズ輒ク所決スル者〕  
 懲 八 十 日  
 〔本籍ヲ脱シ逃亡シテ二年以外ニ及ビ復歸セサル者〕  
 〔院省等ノ文書ヲ盜ム者二餘ノ印ヲ盜ム者二監守盜壹圓以上二竊盜二十圓二常人盜十圓二強盜一主并ニ謀テ造意セシ行ハス謀ヲ分タサル者〕  
 〔人ヲ殺スノ心ナシト雖モ毒藥ヲ用ヒテ疾苦セシムル者二雇人死罪誘犯ス二家長擅ニ殺ス者二尊長卑幼及ヒ他人ノ屍ヲ葬テ人ニ圖報スル者二妻妾子孫ノ婦人ニ殺シテ和父母父母夫私和スル者財ヲ受ルハ竊盜ニ準シ重キニ從フ二人ヲ押解シ中途ニ在リ病斃スルヲ棄置スル者〕  
 〔關限人ヲ毆テ血耳目中ヨリ出テ及ヒ内損吐血スル者二頭面一傷ヲ得ル者二官司ノ差人ヲ毆ツ者〕  
 〔雇人家長ヲ罵ル者〕  
 〔三等親ノ尊長ヲ告ル者〕  
 〔枉法贓十圓二不在法贓二十圓二坐贓百二十圓〕  
 〔上ニ告ル詐ヲ實ヲ以テセサル情輕キ者二見任官ノ子孫弟姪家令等ト詐稱シ求爲スルノ從〕  
 〔人ノ妻ヲ媒合容止シテ通姦セシムル者〕  
 〔財物ヲ賭シ博戲ヲ爲ス者賭房ヲ開設スル者二骰子骨牌ヲ賣ル者賭博ノ母錢ヲ借シ息ヲ收ムル者二外ニ在リ火ヲ失シ山陵ノ兆域内ニ延焼スル者二自己ノ房屋ニ放火シホク燒毀ニ至ラサル者二火ヲ失シテ同居三等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者〕  
 懲 九 十 日

捕亡 斷獄 職罰 戶婚 賊盜 人命 關限 訴訟 受贓 詐偽 犯姦 雜犯

〔懷孕ノ死囚産後日限未タ滿クテ決スル者〕  
 懲 九 十 日  
 〔雇テ受ケテ子ヲ養ル者二婚ヲ違テ女ヲ嫁シ或ハ再ヒ婚ヲ招ク者男家ノ娶ル者二後裔ノ婿情ヲ知ル者二華士族水籍ヲ脱シ逃亡シテ二年以外復歸セサル者〕  
 〔大祀大社ノ鑿ノ具已ニ廢關スルヲ盜ム者二郷社ノ神御神寶ヲ盜ム者二監守盜十圓二常人盜二十圓二竊盜三十圓二民間ノ牛馬ヲ殺殺スル者二院省等ノ重事ニ關スル文書ヲ盜ム者二子孫ヲ外國人ニ和賣セントシテ未タ成ラサル者〕  
 〔同謀共謀死ニ致スニ餘人ノ致命復ヲ爲サ、ル者二妻妾夫ノ祖父母父母ヲ毆傷スルニ夫擅殺スル者二雇人ヲ看守スル職屬職ナラスシテ他人ヲ殺死ニ致ス者二五等親ノ卑幼人ニ殺サレ尊長私和スル者二地界内ノ死屍ヲ水中ニ棄ル、雖モ未タ屍ヲ失セサル者二同伴人他人ヲ謀害セント欲スルヲ知テ阻當救護セス及ヒ害セラル、後官司ニ告ケサル者〕  
 〔判任官ヲ毆ツ者二判任官勅任官ヲ毆ツ者二夫妻ノ父母ヲ毆ツ者〕  
 〔奏任官ヲ罵ル者二兄姉ヲ罵ル者二妻妾夫ノ兄姉ヲ罵ル者〕  
 〔二等親ノ尊長及ヒ外祖父母ヲ告ル者〕  
 〔枉法贓二十圓二不在法贓三十圓二坐贓百四十圓〕  
 〔餘ノ文書ヲ詐偽増補減シテ未タ施行セサル者二見任官ノ子孫弟姪家令ト詐稱シテ求爲スル者〕  
 〔雜姦スル者〕  
 〔法令ヲ闕ルノ罪証ヲ受ケ事已ニ施行スル者二小社ニ於テ火ヲ失スル者二火ヲ放テ故ラニ自己ノ房屋ヲ燒ク者二火ヲ失シテ同居二等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者二違制ノ輕キ者〕  
 〔死罪ニ該ル罪人ヲ捕吏一時念激シテ抽殺スル者〕  
 〔常人囚ニ金帛ヲ與ヘ及ヒ子孫祖父父母ニ與ヘ雇人家長ニ與フル者二官吏答杖ヲ用ルニ故サラニ法ノ如クセス囚テ死ニ致スニ答杖ヲ行フノ人二懷孕ノ妨人ハ産後一百日ヲ待テ拷訊ス可シ未タ産

刑名一覽表

セサルニ榜訊スル者

懲

役

百

日

職制

戸婚

子女ヲ棄ル者父母養父母ヲ分タス並ニ故ラニ墮胎スル者、情ヲ知り禁ヲ賣リ及ヒ技術ヲ施ス者  
二祖父母母死スト能稱シ若クハ喪ニ居テ家喪スル者ニ外國ニ逃亡スル者

人命

闕

謀殺曰行未備ノ從ハ同ク行ハスト雖モ二謀殺未ク行ハスト雖モ謀謀謀路アルノ旨ニ妻人ト誘通ス  
ルニ木夫姦所ニ於テ止タ姦夫ヲ殺ス者姦婦ハ二五等親ノ尊長ノ屍ヲ掩テ圖賴スル者二人ヲ威逼シ  
テ自死ニ致ス者ニ官吏公使人等公務ニ因ルニ非スシテ平民ヲ威逼シ自死ニ致ス者ニ五等親ノ尊長  
人ニ殺サレ私和スル者ニ四等親ノ卑幼人ニ殺サレ尊長私和スル者ニ家長人ニ殺サレ雇人私和スル  
者ニ地界内ニ死屍アルヲ水中ニ棄ル者

罵詈

八ノ一指一齒ヲ折リ一目ヲ眇ニシテ耳鼻ヲ抉殺シ若クハ骨ヲ破リ及ヒ湯火ヲ以テ傷スル者雜物ヲ  
以テ口鼻内ニ灌入スル者不官殿内ニ於テ相殴ツ者ニ官殿内ニ擅入スル者ニ判任官奏任官ヲ奏任官  
勅任官ヲ傷テ傷スル者ニ威カテ以テ人制縛シ私家ニ於テ携打監禁スル者ニ妻夫ヲ殴ツ者ニ四等親  
ノ尊長ヲ殴ツ者ニ二等親ノ尊長及外祖父母ヲ過失傷スル者ニ妻夫ノ四等親尊長ヲ殴ツ者

詐偽

子孫祖父母母ノ欺令ニ違犯シ及李提録ルアル者  
〔枉法贓三十圓ニ不在法贓四十圓ニ坐贓百六十圓〕  
餘ノ文書ヲ詐偽及ヒ増減スル者ニ餘ノ印ヲ偽造シ未ク行使セサル者ニ實貨偽造未ク成ラサル雜役  
者ニ實貨偽造未ク成ララス悔悟シ其罪黨ヲ脱スト雖モ首報セサル者ニ私印ヲ贋造スル者

起

〔公廨及ヒ倉庫内ニ於テ火ヲ失スル者〕中社ニ於テ火ヲ失スル者ニ火ヲ失シテ同居一等親ノ尊長ノ  
妻ヲ殺スル者各

捕亡

燒死スル者ニ同居ノ卑幼ヲ燒死ニ致ス者ハ各等親ニ照シ尊長ニ三等ヲ減ス減シテ罪致人燒死律ヨ  
リ輕半者ハ減セスニ違制ノ重キ者  
〔捕吏差遣ヲ承ケ事故ニ託シテ行カス若クハ罪人ノ所在ヲ知テ捕ヘサル者〕  
〔獄卒金刃及ヒ他ノ自殺ス可ク解脱ス可キノ具ヲ以テ囚ニ與フル者〕常人囚ニ金刃ヲ與ヘ及ヒ子孫  
祖父母父母ニ與ヘ雇人家長ニ與ヘ囚ヲ囚逃走シ及ヒ自傷シ或ハ人ヲ傷セシ時ニ官吏皆杖ヲ用ルニ  
故ラニ法ノ如クセス囚ヲ死ニ致ス者

職制

〔繼父母前父母ノ子女ヲ棄ル者〕二父母夫ノ喪ヲ聞居喪セサル者ニ華士族外國ニ逃亡スル者  
〔官ノ重事ニ關スル文書ヲ盜ム者〕監守盜三十圓ニ常人盜四十圓ニ竊盜五十圓ニ官ノ威儀ノ牛馬ヲ  
盜テ殺ス者二人ヲ和誘シテ妻妾雇人トナスニ牙保ハ二誘賣セラレテ妻妾雇人トナル者ニ子孫ナク  
シテ外國人ニ賣ル者

人命

闕

〔姦人ト誘通スル〕木夫姦所ニ於テ止タ姦夫ヲ殺ス者姦婦ハ二妻妾夫ノ祖父母母ヲ殺スルニ夫  
擅ニ殺ス者ニ四等親ノ尊長ノ屍ヲ掩テ人ニ圖賴スル者ニ四等親ノ尊長人ニ殺サレ私和スル者ニ三  
等親ノ卑幼人ニ殺サレ尊長私和スル者ニ墳塚ヲ發掘シテ棺槨ヲ見ハス者ニ姦婦過テ悔ヒ拒絕スル  
後姦夫姦好ノ續キ難キヲ憤リ木夫及ヒ祖父母母ヲ殺死スル者拒絕ノ証據明白ナレハ婦女ハ二本  
夫姦所及即時ニ非スシテ姦婦ヲ殺傷スルヲ姦夫ハ

罵詈

〔圖〕シテ人ノ二指二齒以上ヲ折リ及ヒ髮ヲ斃スル者ニ判任官ヲ傷スル者ニ妻夫及ヒ正妻ヲ殺ツ者  
ニ子孫祖父母母ヲ妻妾夫ノ祖父母母ヲ過失傷スル者ニ三等親ノ尊長ヲ殺ツ者ニ妻妾夫ノ  
勅任官ヲ殺ツ者

詐偽

〔枉法贓四十圓ニ不在法贓五十圓ニ坐贓二百圓〕  
〔餘ノ重事ニ關スル文書ヲ詐偽增減スル者〕上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサル者ニ餘ノ印ヲ偽造スル  
者

受賂

〔餘ノ重事ニ關スル文書ヲ詐偽增減スル者〕上ニ告ルニ詐テ實ヲ以テセサル者ニ餘ノ印ヲ偽造スル  
者

刑名一覽表

犯姦 雜犯 捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 關殿 罵詈 詐偽 受贓 詐偽 犯姦 雜犯

犯姦 和姦夫ノル者ハ二兄弟姉妹ノ女及ヒ前夫女同居異父姉妹ヲ姦スル者各二本屬ノ官吏ト相姦スル者  
二夫ノ喪ニ屆リ姦テ犯ス者ハ有夫ヲ以テ論シ相姦スルノ人ハ同罪ニ妻妾ヲ縱容シテ人ト通姦セシ  
ムル者ハ本夫姦テ姦婦各  
引誘セラレテ鴉片烟ヲ吸食スル者ハ二賭博三犯以上ニ骰子骨牌ヲ賣ル者三犯以上ニ山陵ノ兆域内  
ニ於テ火ヲ失スル者ニ官幣國幣大社ニ於テ火ヲ失スル者

捕亡 (官吏私儲ヲ懐挾シ故ラニ無罪人ヲ禁獄スル者ニ司獄官獄卒知テ舉首セサル者ニ同上拷訊スル者ニ司獄  
官獄卒情ヲ知テ共ニ拷訊スル者ニ獄卒與アル處ノ金刃等ヲ以テ囚逃走シ及ヒ自傷シ或ハ人ヲ傷セシ時)  
懲 役 年 半

職制 田宅版籍ノ文書ヲ變易スル者  
戶婚 天祀大社饗廟ノ具ホク祀所ニ入レサルヲ盜ム者皆二乘輿ノ帷帳ノ屬ヲ盜ム者ニ監守盜四十圓ニ常  
賊盜 入盜五十圓ニ竊盜六十圓ニ人ヲ略買シテ妻妾雇人トナスニ牙保ハ二人ヲ和誘シテ妻妾雇人トナス  
二情ヲ知テ買フ者ニ誘セラレテ人ノ妻妾トナル者ハ  
人命 (三等親ノ尊長ノ屍ヲ將テ圖賴スル者ニ三等親ノ尊長人ニ殺サレ私和スル者ニ二等親ノ卑幼人ニ殺  
サレ私和スル者)  
關殿 (判任官勅任官ヲ傷スル者)

罵詈 詐偽 受贓 詐偽 犯姦 雜犯 捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 關殿 罵詈 詐偽 受贓 詐偽 犯姦 雜犯  
受贓 (枉法贓五十圓ニ不在法贓六十圓ニ坐贓四百圓)  
詐偽 院省等ノ文書ヲ詐偽増減シテ未タ施行セサル者ニ射斗ノ邊縁ヲ増補シ秤量ノ標星懸紐ヲ變換シテ  
利ヲ圖ル者ニ罪ヲ犯シテ死ト詐稱シ喚問ヲ免レントスル者  
犯姦 兄弟ノ妾姪ノ妾ヲ姦スル者ニ雇人家長ノ妻ヲ姦スル者各二官吏部民ノ妻ヲ姦スル者ニ和姦ノ後姦  
情敗露ニ因テ姦婦悔迫自盡スル者姦夫情ヲ知ラスト雖モ

捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 關殿 罵詈 詐偽 受贓 詐偽 犯姦 雜犯

捕亡 (常人囚ニ金及チ與ヘ及ヒ子孫祖父母父母ニ與ヘ雇人家長ニ與ヘ因テ囚自殺シ及ヒ人ヲ殺セシ時ニ  
懷孕ノ婦人ハ産後一百日ヲ待テ拷訊ス可シ未タ産セサルニ拷訊シ因テ墮胎スル者ニ懷孕ノ死囚ハ  
穩婆ニ看視セシメテ監禁ス期ニ臨マハ親屬降佑ニ責付シ産後百日ヲ待テ刑ヲ行フ未タ産セステ  
決スル者)  
懲 役 年

職制 養父母親生ノ子ナキニ養子拾去ル者  
戶婚 (天祀大社ノ神御ニ供セントシテ營造ホク成ラサル者及ヒ供シテ廢闕スルヲ盜ム者皆ニ饗廟ノ具社  
所ニ入ル、ヲ盜ム者皆ニ乘輿ノ帷帳御ニ供セントシ及廢闕シ若クハ御ニ供セントスルヲ盜ム者皆  
賊盜 二監守盜四十圓ニ常人盜六十圓ニ竊盜七十圓ニ不持兇器竊盜財ヲ得セル者皆二人ヲ略買シテ妻妾  
雇人トナスニ情ヲ知テ買フ者ニ和誘シテ人ヲ賣リ妻妾雇人トスル者ニ誘セラレテ人ノ妻妾及ヒ誘  
人命 スル者ノ妻妾ト爲ル者ハ二黑夜田野ノ毀變或ハ雇人家長ニ入リ市井田野人之看守スル者ハ盜ムニ追  
打シテ死ニ至ル者ニ強盜竊主造意シテ同ク行ハス贓ヲ分タサル者)  
關殿 子孫ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者ニ二等親ノ尊長ノ屍ヲ將テ人ニ圖賴スル者ニ二等親ノ尊長人ニ殺サ  
レ私和スル者)

關殿 (關殿シテ人ノ肋ヲ折リ兩目ヲ眇シ及ヒ及傷スル者ニ婦女ヲ墮胎セシムル者ニ奏任官ヲ毆ツ者  
人命 二雇人家長ヲ毆ツ者ニ弟妹兄弟ヲ毆ツ者ニ妻妾夫ノ兄弟ヲ毆ツ者ニ二等親ノ尊長及ヒ外祖父母ヲ  
過失殺スル者)  
罵詈 (祖父父母老疾シテ家ニ侍養ノ親ナキニ故ラ棄去ル者)  
詐偽 (枉法贓六十圓ニ不在法贓七十圓ニ坐贓六百圓)  
受贓 (院省等ノ文書ヲ詐偽シ及ヒ増減スル者ニ對詔及ヒ奏事上書詐ニ實ヲ以テセサル者)  
犯姦 母ノ姉妹兄弟ノ姦姪ノ妻ヲ姦スル者)

捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 關殿 罵詈 詐偽 受贓 非偽 捕亡 斷獄 職制 戶婚 賊盜 人命 關殿 罵詈 詐偽 受贓 非偽

職制	戶婚	賊盜	人命	關殿	罵詈	詐偽	受贓	非偽	捕亡	斷獄	職制	戶婚	賊盜	人命	關殿	罵詈	詐偽	受贓	非偽	捕亡	斷獄		
懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	懲	
役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	役	
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

戶婚 賊盜 人命 關殿 罵詈 詐偽 受贓 非偽

〔中社ノ神御神寶ヲ盜ム者〕(院省等ノ印ヲ盜ム者皆)〔監守盜七十圓(常人盜八十圓)(竊盜九十圓)不持兇器強盜五十以上〕(持兇器強盜未タ行ハス途ニ在テ捕ニ就ク者)(竊盜三犯以上財ヲ得サル者)(人ノ妻ヲ和誘シテ他人及ヒ自己ノ妻妾トナス者)(誘セテ外國ニ賣ラル、者ハ)(人ノ妻ヲ略シテ他人及ヒ自己ノ妻妾トナス者)(人ヲ略賣シテ娼妓トナスニ牙保ハ)(人ヲ和誘シテ娼妓トナスニ情ヲ知テ買フ者)(兇徒聚衆ノ從ニシテ情輕キ者)(兇徒ニ脅誘セラレテ火ヲ放ツ者)〔謀殺傷シテ死セサル從ノ加功セサル者〕(謀殺已ニ行フト雖モ未タ傷セサル造意者)(同上造意者ハ身行ハスト雖モ仍ホ首トナシテ論シ)(謀殺已ニ行フテ其人知覺奔逃シ未タ傷ヲ受スト雖モ失墮墮水等ニ因テ他所ニ死スルトキノ從タル者)(判任官ヲ謀殺已行ノ從)(判任官奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ謀殺已行ノ從)(三等親以下ノ尊長ヲ謀殺已行ノ從)(三等親以下ノ尊長ヲ謀殺已傷ノ從ニシテ加功セサル者)(兄弟姉妹ヲ伯叔父姑姪ヲ外祖父外孫ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者)(子孫ヲ謀殺スルニ已ニ行ス者ハ故殺卑幼律ニ依リ)(嫡母子ヲ謀殺スルニ已ニ傷スル者)(子孫已ニ死スル祖父父母父母ノ屍ヲ以テ團類スル者)(深山曠野坑塚ヲ穿テ及高月ヲ安置シ望竿及ヒ抹眉索ヲ立テ因テ人ヲ死ニ致ス者)(姦夫姦婦同謀シテ墮胎スルニ姦婦身死スル者姦夫ハ)(祖父父母及夫人ニ殺サレ私和スル者)(墳塚ヲ毀壞シテ屍ヲ見ハス者)〔關殿シ人ノ肢體ヲ折滅シ及ヒ一目ヲ瞎シ癩疾ニ致ス者〕(二人共二人ヲ毆テ各一目ヲ瞎スルニ先キ二毆ツ者)(奏任官ヲ傷スル者)(判任官ヲ毆テ折傷以上)(判任官奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ折傷以上)(子孫ヲ故殺スル者)(子孫祖父父母母ヲ妻妾夫ノ祖父父母母ヲ遺失殺スル者)(雇人家長ヲ傷テ傷スル者)(兄弟姉妹ヲ伯叔父姪ヲ外祖父外孫ヲ毆殺スル者)(妻妾夫ノ伯叔姑及外祖父父母父母ヲ毆傷スル者)(姦伯叔父姑ヲ外孫外祖父父母母ヲ毆傷スル者)〔子孫祖父父母母ヲ罵リ及妻妾夫ノ祖父父母母ヲ罵ル者〕(枉法贓八十圓)(不枉法贓九十圓)(坐贓十圓)〔官ノ文書ヲ詐偽及ヒ増減スル者〕(院省等ノ印ヲ偽造シ未タ行使セサル者)(寶貨偽造未タ成ラサルノ首金銀貨幣ノ造絲ヲ剪錯シ利ヲ取リ行使スル者)〔秤斤尺ヲ偽造スル從及ヒ匠人〕(寶貨ヲ偽造シ

犯姦

捕亡

斷獄

職制

戸婚

賊盜

人命

關設

詐偽

已ニ行使スルノ雜役者過テ悔ヒ首スル者  
(父祖ノ妾伯叔姑姉妹及ヒ子孫ノ婦ヲ姦スル者各)  
(搦持場及ヒ板持ヲ打毀スル者)(鴉片烟ヲ販賣シ未タ售賣セサル從)(盜犯火ヲ用ヒ門闕戸樞ヲ燒燬  
シ及ヒ燭炬ヲ持シ期ヒスシテ失火スル者)(外ニ在リ火ヲ失シテ太廟及ヒ宮闕ヲ延燒スル者)(空閑  
房屋及ヒ田場積聚ノ物ニ火ヲ放テ燒燬ニ至ラサル者)(雇人等家長ノ督責ニ苛迫シ一時脱身ヲ圖リ  
火ヲ放テ燒燬ニ至ラサル者)

懲

役

五

年

(監守盜八十圓)(常人盜九十圓)(竊盜百圓)(不持兇器強盜十圓)(入ヲ賂賣シテ娼妓トナスニ情ヲ知  
テ買フ者)(和誘シテ人ヲ賣リ娼妓トスル者)(人妻ヲ賂シテ他人及ヒ自己ノ妻妾トナス者)(和誘  
シテ賣ル外國人ヲ買フ者)(兇徒衆ヲ聚メ官ニ強迫スト雖モ更民ヲ擾害スルニ至ラサル從ノ情輕キ  
者)  
奏任官ヲ謀殺已行ノ從(判任官ヲ謀殺已行ノ首)(判任官勅任官ヲ謀殺已行ノ從)(判任官勅任官  
ヲ奏任官勅任官ヲ謀殺已行ノ從ニシテ加功セサル者)(判任官奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ謀殺已行ノ  
者)(三等親以下ノ尊長ヲ謀殺已行ノ首)(兄弟姉妹ヲ伯叔父姑姪ヲ外祖父母外孫ヲ謀殺スルニ已ニ情  
スル者)(嫡母子ヲ謀殺スルニ已ニ情スル者ハ敢殺卑幼律ニ依リ)(繼母子ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者)(  
雇人家長ヲ謀殺已行者)(瘋癲人ヲ殺ス者鎖鑰終身ニ處スト雖モ若シ痊愈スレハ親屬隣佑ノ保証ヲ  
取リ)(墳塚ヲ發掘シテ屍ヲ殘毀スル者)(祖父父母子孫ヲ殺シ人ニ圖類スル者)  
(官殿内ニ於テ刃ヲ以テ相向フ者)(勅任官ヲ殺ツ者)(判任官ヲ殺チ癡疾ニスル者)(判任官勅任官ヲ  
殺チ折傷以上)(夫妻ヲ殺テ死ニ至ル者)(子孫ヲ殺殺スルノ嫡母)

受賂

犯姦

捕亡

職制

戸婚

賊盜

人命

關設

詐偽

(枉法贓九十圓)(不枉法贓百圓)  
(官ノ倉庫ニ關スル文書ヲ詐偽増取スル者)(院省等ノ印ヲ偽造スル者)(紙幣ノ字樣ヲ挑刺シ成片シ  
補綴シ筆畫ヲ描取シ真ヲ以テ偽ニ作り行使スル者)(解斗秤尺ヲ偽造スル者)(寶貨ヲ偽造シ未タ行  
使セサルノ雜役者)(寶貨ヲ偽造シ已ニ行使スルノ從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使シ過テ悔ヒ自  
首スル者)

產業ナクシテ常ニ腰刀ヲ帶シ無賴ノ徒ヲ招結シ賭博ヲ開張シ四隣ヲ横行スル者)

懲

役

七

年

(監守盜九十圓)(常人盜百圓)(竊盜百十圓)(不持兇器強盜十五圓)(人ヲ賂賣シテ娼妓トナス者成否  
ヲ論セス皆)(同上雇人トナシ賤辱虐使ヲ受ケシムル者)(妻ヲ賂賣シテ娼妓トナス者)(人ヲ和誘シ  
者)(人々ニ賣ル者)(賂賣スル外國人ヲ買フ者)(妾ヲ聚メ訟ヲ構ヘ官ニ強迫スト雖モ更民ヲ擾害ス  
ルニ至ラサル從)  
(勅任官ヲ謀殺已行ノ從)(奏任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フノ首)(判任官勅任官ヲ謀殺スルニ已ニ行フ  
ノ首)(謀殺從ニシテ行ハサル者)(兄弟姉妹ヲ伯叔父姑姪ヲ外祖父母外孫ヲ謀殺スルニ已ニ殺ス者  
故殺卑幼律ニ依リ)(繼母子ヲ謀殺スルニ已ニ情スル者)  
(二人共ニ刃ヲ以テ相向フ者)(二人共ニ目ヲ瞎シ盲ニ至ラシムルニ原謀者アレハ共ニ殺ツト否ト問ハフ)(關設人  
ヲ殺スニ後ニ手ヲ下シ理直ナルニ仍ホ事情原諒スヘキ者)(奏任官ヲ殺チ折傷以上弟妹兒婦ヲ折傷  
スル者)(妻妾夫ノ兄弟ヲ折傷スル者)(兄弟姉妹ヲ伯叔父姑姪ヲ外父母外孫ヲ殺スル者並ニ繼繼  
母前妻ノ子ヲ非理ニ毆打シ死ニ至ル者)

受贓 (枉法贓百圓) (不在法贓百十圓) (實貨ヲ偽造シ已ニ行使スルノ雜役者) (實貨ヲ偽造シ未タ行使セサルノ從及ヒ匠人) (實貨ヲ偽造シ已ニ行使スルノ自首スル者)

犯姦 (強姦未ク成ラサル者) (強姦未ク成ラサル者) (火ヲ放テ人ノ空間房屋及ヒ田塲積聚ノ物ヲ燒ク者)

捕亡 (強姦未ク成ラサル者) (強姦未ク成ラサル者) (火ヲ放テ人ノ空間房屋及ヒ田塲積聚ノ物ヲ燒ク者)

職制 (財ヲ圍リ人ノ子女ヲ斃シテ棄ル者) (官幣國幣大社ノ神御賣ヲ盜ム者) (官ノ印ヲ盜ム者) (監守百圓) (常入盜百十圓) (竊盜百二十圓)

人命 (竊盜三犯五十圓以下) (不持兇器強盜二十圓) (因テ劫スル者皆) (人ヲ辱シテ外國人ニ賣ル者成否ヲ論セズ皆) (兇徒衆ヲ聚メ村市ヲ毀壞燒亡シ財物ヲ劫奪シ若クハ人民ヲ殺死スルノ從) (地方ノ兇徒衆ヲ聚メ民ヲ擾害シ官長ヲ挾制シ及ヒ販賣積聚ヲ因テ村市ヲ捨棄シ官廳ニ喧鬧シ及ヒ私積ヲ懷挾シ衆ヲ聚メテ市ヲ罷メ官ヲ辱ムルノ從) (兇徒衆ヲ聚ムルニ附和隨行火ヲ放ツ者) (衆ヲ聚メ訟ヲ構ヘ官ニ強迫スト雖モ民ヲ擾害スルニ至ラサルノ首) (監守盜三犯三十圓以下) (常人盜三犯四十圓以下) (持兇器強盜財ヲ得サルノ從) (謀殺ノ從ニシテ加功セサル者) (謀殺傷シテ死セサル從) (加功セサル者) (謀殺已ニ行フテ其人知覺奔逃シ未タ傷ヲ受スト雖モ失墜墮水等ニ因テ他所ニ死スルトキ造意者ハ) (謀殺兇悍ニ進ラレテ當時失墜シテ死スルトキ從タル者ハ) (勅任官ヲ謀殺已行ノ首) (勅任官ヲ謀殺已傷從) (加功セサル者) (三等親以下ノ尊長ヲ謀殺ニシテ加功セサル者) (夫妻ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者) (尊長三等親以下ノ尊長ヲ謀殺スルニ已ニ行フ者) (斷母子ヲ謀殺スルニ已ニ殺ス者ハ) (故殺身幼律ニ依リ) (妻妾人ト姦通スルニ本夫止テ姦妻ヲ殺ス者姦夫ハ) (同謀其殺死ニ致スニ原謀者ハ) (謀殺同夥共ニ殺テ各致命重傷ヲナス者一人實ニ罪ヲ担レテ自盡シ及ヒタサル原謀者) (同上若クハ原謀同夥共ニ殺テ各致命重傷ヲナス者一人實ニ罪ヲ担レテ自盡シ及ヒ已ニ獄ニ在リ或ハ押解中途ニ在リ病斃スル者下レハ一等ヲ減シ) (家長犯人ヲ毆テ死ニ至ル者)

關毆 (故ナク車馬ヲ馳騁シ人ヲ死ニ致ス者) (姦夫姦婦同死ヲ謀ルニ姦婦已ニ死シ姦夫未ク死セス姦夫已ニ死シ姦婦未ク死セサル者並ニ)

關毆 (關毆シテ人ノ兩目ヲ瞎シ兩肢ヲ折リ及ヒ舊患アルチ毆テ因テ篤疾ニ至ラシメ若クハ舌ヲ斷テ陰陽ヲ毀敗スル者) (關毆人ヲ殺スニ後ニ手ヲ下ニ理直ナル者) (二人共ニ人ヲ毆テ各一目ヲ瞎シ首ニ至ラシムルヲ後ニ毆ツ者) (勅任官ヲ毀傷スル者) (勅任官妻任官ヲ殺テ廢疾ニスル者)

關毆 (雇人家長ヲ殺テ折傷スル者) (弟妹兄弟姉妹ヲ殺疾ニスル者) (姪伯叔父母外孫外祖母ヲ殺テ折傷及ヒ廢疾ニ至ル者) (子孫ヲ殺テ折傷スル者) (子孫祖母父母母ヲ殺テ折傷者) (祖父父母母人ニ毆レ子孫即時ニ行兇人ヲ毆テ死ニ至ル者) (姦妻夫ノ兄弟及伯叔父母外祖母ヲ毆テ折傷及ヒ廢疾ニスル者)

詐偽 (在法贓百十圓) (不在法贓百二十圓) (等外人ハ三百圓以上)

詐偽 (官ノ印ヲ偽造シ未タ行使セサル者) (實貨ノ偽造タルヲ知テ買取ル未タ行使セサル者) (實貨ヲ偽造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給シ及ヒ竊藏スル者未タ行使ハ) (忿爭ノ後入ニ誣賴セントスル者ノ雇ヲ受テ爲メニ偽造シ因テ死ニ致ス者) (關毆罪ニ一等ヲ減シ) (實貨ヲ偽造シ已ニ行使スルノ從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者) (實貨ヲ偽造シ未タ行使セサルノ首)

犯姦 (強姦スル者) (十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者) (強姦スル者) (鴉片烟ヲ販賣スルノ從) (引誘シテ鴉片烟ヲ人ニ吸食セシムルノ從及ヒ房屋ヲ給スルノ者) (鴉片烟ヲ販賣シテ未タ售賣セサル者) (太廟及ヒ關内ニ於テ火ヲ失スル者) (公廨倉庫及ヒ民舍ニ火ヲ放テ未タ燒燬ニ至ラサル者) (火ヲ放テ人ノ空間房屋ヲ燒キ期ヒスンテ人ノ它舎ニ延燒スル者)

捕亡 (官失私鑒ヲ懷挾シ故ラニ無罪人ヲ禁獄シ因テ死ニ致スニ司獄官獄事知テ擧首セサル同罪者) (官吏私鑒ヲ懷挾シ故ラニ無罪人ヲ擧訊シ因テ死ニ致スニ同僚官獄事情ヲ知テ共ニ擧訊スル同罪者) (獄卒罪同ノ衣食ヲ剋減シ因テ死ニ致スニ司獄官吏知テ擧首セサル同罪者) (懷孕ノ婦人ハ産後一百日ヲ待テ擧訊スヘシ未タ産セサルニ擧訊シ死ニ致ス者)

受贓 詐偽 犯姦 捕亡 職制 人命 關毆

(在法贓百十圓) (不在法贓百二十圓) (等外人ハ三百圓以上) (官ノ印ヲ偽造シ未タ行使セサル者) (實貨ノ偽造タルヲ知テ買取ル未タ行使セサル者) (實貨ヲ偽造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給シ及ヒ竊藏スル者未タ行使ハ) (忿爭ノ後入ニ誣賴セントスル者ノ雇ヲ受テ爲メニ偽造シ因テ死ニ致ス者) (關毆罪ニ一等ヲ減シ) (實貨ヲ偽造シ已ニ行使スルノ從及ヒ匠人若クハ情ヲ知テ買使スル者) (實貨ヲ偽造シ未タ行使セサルノ首) (強姦スル者) (十二歳以下ノ幼女ヲ姦スル者) (強姦スル者) (鴉片烟ヲ販賣スルノ從) (引誘シテ鴉片烟ヲ人ニ吸食セシムルノ從及ヒ房屋ヲ給スルノ者) (鴉片烟ヲ販賣シテ未タ售賣セサル者) (太廟及ヒ關内ニ於テ火ヲ失スル者) (公廨倉庫及ヒ民舍ニ火ヲ放テ未タ燒燬ニ至ラサル者) (火ヲ放テ人ノ空間房屋ヲ燒キ期ヒスンテ人ノ它舎ニ延燒スル者) (官失私鑒ヲ懷挾シ故ラニ無罪人ヲ禁獄シ因テ死ニ致スニ司獄官獄事知テ擧首セサル同罪者) (官吏私鑒ヲ懷挾シ故ラニ無罪人ヲ擧訊シ因テ死ニ致スニ同僚官獄事情ヲ知テ共ニ擧訊スル同罪者) (獄卒罪同ノ衣食ヲ剋減シ因テ死ニ致スニ司獄官吏知テ擧首セサル同罪者) (懷孕ノ婦人ハ産後一百日ヲ待テ擧訊スヘシ未タ産セサルニ擧訊シ死ニ致ス者)

職制 戸婚 賊盜

大犯大社ノ神御神寶ヲ盗ム者(乘輿ノ服御物ヲ盗ム者)監守盜三犯三十圓以上(常人盜二百五十圓以上)常人盜三犯四十圓以上(竊盜三犯五十圓以上)(竊盜四犯財ヲ得ル者)(不持兇器強盜三十圓)不持兇器強盜再犯八財ヲ得スト雖モ(劫囚ニ因テ人ヲ傷シ及ヒ死囚ヲ劫スル者)(人ヲ略シテ外國人ニ賣ルニ因テ傷スル者皆)監守盜百五十圓以上(竊盜三犯百圓以上)(盜ニ因テ傷スル者成否ヲ論ベス)(盜ニ因テ過失スル者)(強盜人ヲ傷スル者)(持兇器強盜財ヲ得サルノ首)同上財ヲ得ル者皆

人命

(勅奏判任官ヲ謀殺シ已傷從ノ加功スル者)(判任官勅奏任官ヲ謀殺シ已傷從ノ加功スル者)(夫妻ヲ謀殺スルニ已ニ傷スル者)(尊長三等親以下ノ卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ傷スル者)(謀殺スル夫ヲ殺スニ蒸婦情ヲ知ラスト雖モ)(謀殺シテ人ヲ殺ス者)(同謀共謀人ヲ死ニ致スニ致命傷ヲナス者)(亂毆シテ人ヲ殺シ傷ノ先後輕重ヲ知ラサル者原謀アレハ原謀者)(同上原謀共ニ毆クサレハ初者)(同謀共謀傷皆致合ニシテ即時身死スレハ後ニ手ヲ下シ傷ヲナス重キ者)(同上時日ヲ經テ身死スレハ何傷死ニ致ストテ究明シテ傷ヲナス重キ者)(同上原謀共ニ毆テ致命重傷ヲナスニ係ラム原謀者)(服用飲食ヲ屏去シ若クハ物ヲ耳鼻孔竅中ニ置キ死ニ至ル者)(故ナク弓箭銃砲ヲ放テ及ヒ毆及テ死ニ致ス者)(受業師ヲ毆テ死ニ至ル者)(雇人家長ヲ毆テ傷及ヒ死至ル者)(妻妾夫ヲ妾正妻ヲ毆テ至ル者)(夫妻ヲ毆テ死ニ至ル者)(夫妻ノ父母ヲ毆テ傷及ヒ死ニ至ル者)(三等親ノ尊長ヲ毆テ傷疾ニ至ル者)(三等親以下ノ卑幼ヲ毆テ死ニ至ル者)(弟妹兄弟ヲ姪伯叔父姑ヲ外孫外祖母ヲ毆テ及ヒ兄弟伯叔父姑外祖母ヲ毆テ傷疾ニ至ラシムル者)(妻妾夫ノ三等親ノ尊長)

闘毆

罵詈 誹謗 受賂

(人ヲ死罪ニ誣告シテ未ク處決セサル者)(子孫祖父母父母ヲ妻妾夫ノ祖父母父母ヲ誣告スル者)(枉法賂等内人ハ二百五十圓等外人ハ三百圓)(不在法賂等内人三百圓)

詐偽

(官ノ印ヲ偽造スル者)(實貨ノ偽造タルヲ知テ履テ受テ接遞シテ再貨ニ兌換スル者)(實貨ヲ偽造スルノ情ヲ知テ房屋ヲ給シ及ヒ窩藏スル者)(雜役者雇工錢ニ偽貨ヲ受テ行使スル者)(實貨偽造已ニ成リ未タ行使セシテ悔悟シ其夥黨ヲ脱スト雖モ首報セサル者)(實貨ヲ偽造シ已ニ行使スルノ首)

犯姦

(強姦シテ折傷スル者)(父祖ノ妾伯叔姑姉妹及ヒ子孫ノ婦ヲ強姦スル者)(母ノ姉妹兄弟ノ妻妾姪ノ妻妾ヲ強姦スル者)(兄弟姉妹ノ女及ヒ前夫ノ女同母異父姉妹ヲ強姦スル者)(雇人家長ノ妻妾姪ノスル者)

雜犯

(自己ノ房屋ニ放火シ延焼ニ因テ財ヲ盗ム者)(罪人捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ルノ從及ヒ殺スノ從)(反獄シテ逃走スルノ從)(懲役一年以上ノ囚再ヒ逃走スル者)(罪人捕吏ヲ毆テ折傷以上ニ至ル者)

絞

職制 戸婚 賊盜

人命

(兇徒聚衆ノ從人ヲ殺シ火ヲ放ツ者)(地方ノ凶荒ニ乘シ衆ヲ聚メ良民ヲ擾害シ官長ヲ挾制シ及ヒ販貨稍遲キニ因テ村市ヲ搶奪シ官廳ニ喧鬧シ及ヒ私憤ヲ懷扶シ衆ヲ聚メテ市ヲ罷メ官ヲ辱ムル者並ニ首ハ)

闘毆

(謀殺ノ從ニシテ加功スル者)(謀殺傷シテ死セサル遺意者)(身行ハスト雖モ仍ホ首トナシテ論ス)(謀殺兇悍ニ迫ラレテ當時失墜シテ死スル遺意者)(奏判任官ヲ謀殺シ已ニ傷スル首)(判任官勅奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ謀殺シ已ニ傷ノ首)(祖父父母及ヒ伯叔父姑兄姉若クハ外祖父母夫夫ノ祖父母父母ヲ謀殺シ已ニ行フ者皆)(三等親以下ノ尊長ヲ謀殺シ已ニ傷スル首)(夫妻ヲ謀殺スルニ已ニ殺ス者故殺卑幼律ニ依リ)(尊長三等親以下ノ卑幼ヲ謀殺スルニ已ニ殺ス者故殺卑幼律ニ依リ)(雇人家長ヲ謀殺シ已ニ傷スル者)(家長雇人ヲ謀殺スル者)

判任官勅任官ヲ毆テ廢疾ニ至ラシムル者(判任官奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ毆テ廢疾ニ至ラシムル者)

判任官勅任官ヲ毆テ廢疾ニ至ラシムル者(判任官奏任官ヲ奏任官勅任官ヲ毆テ廢疾ニ至ラシムル者)





明治十二年十月二十四日出版御届  
同 十二年三月 刊成發兌 定價金一圓

滋賀縣平民

編輯者

小野彦太郎

滋賀縣下近江國蒲生郡牧村百八十六番地

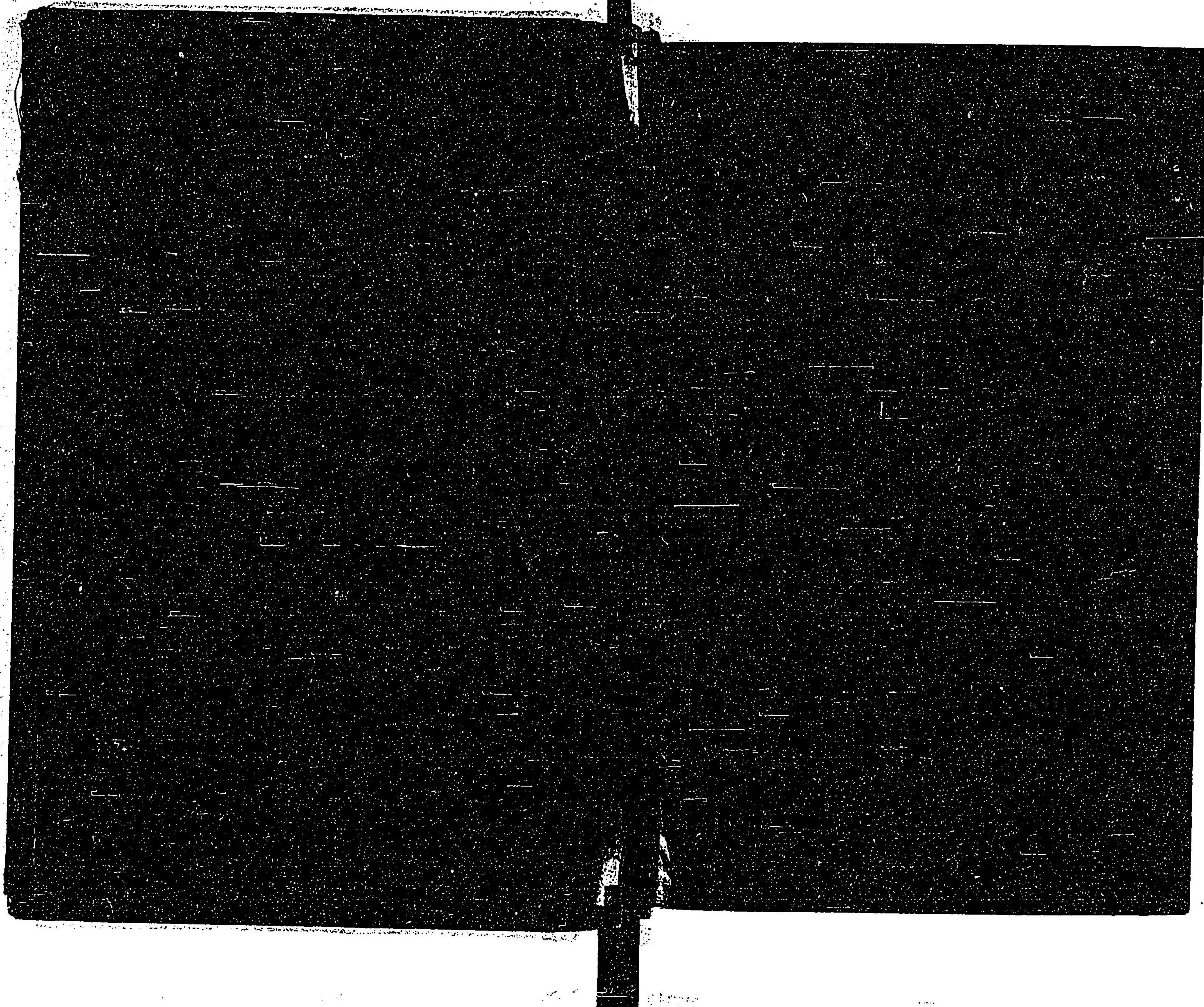
京都府平民

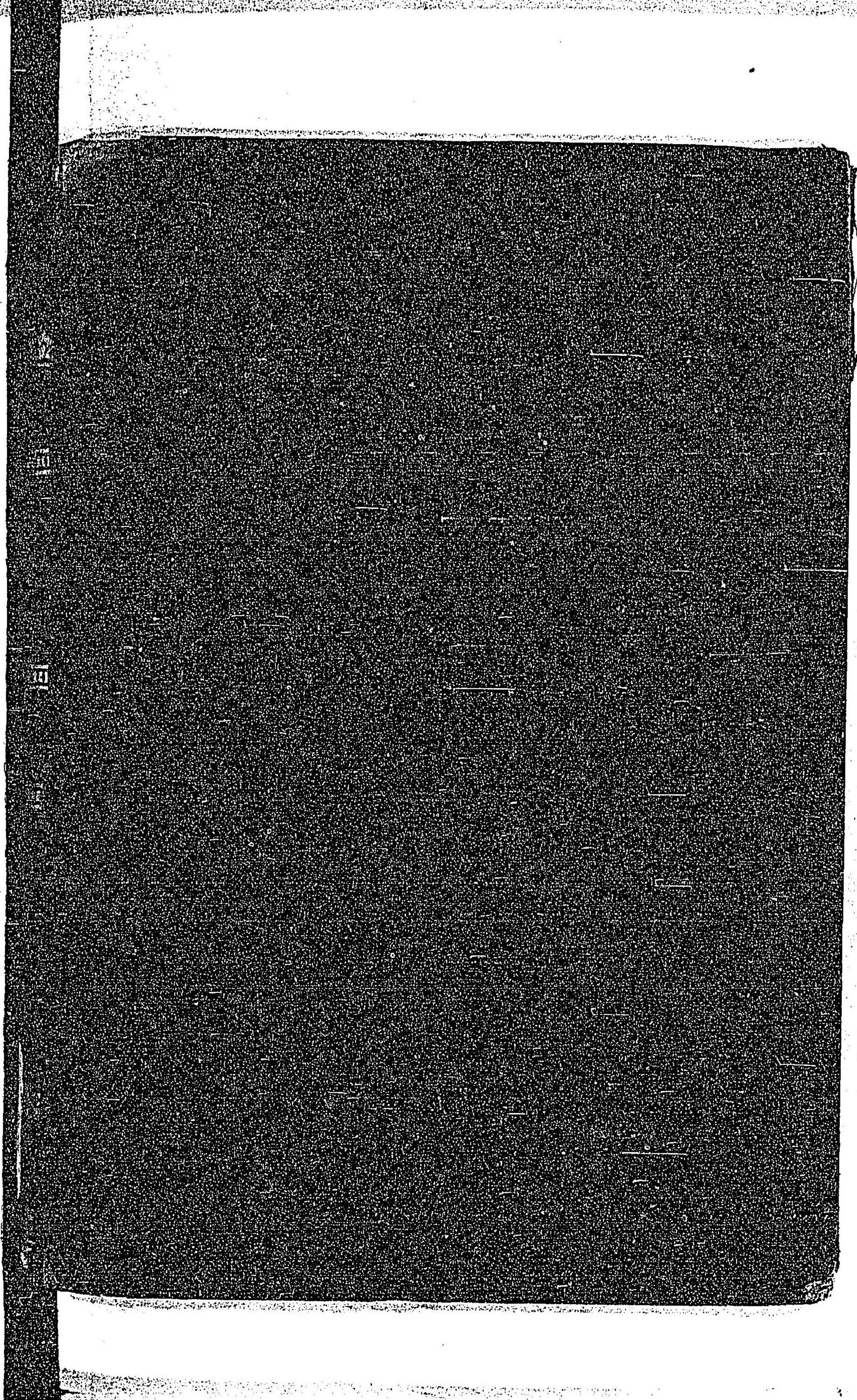
出版人

田中治兵衛

下京區第五組寺町通四條光町三百十六番地

Small handwritten mark or signature in the bottom left corner.





東京圖書館	
新門	世立函
部	架
類	號

036255-000-6

特15-656

新律綱領改正律例改正條例大全

小野 彦太郎 / 編

M13

BBP-0973



